



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

REGIUS ACE



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行・停止の方法や、安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様などの情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に**1-1. キーの取り扱い**

キー	18
----------	----

**1-2. ドアの開閉のしかた、
ロックのしかた**

ワイヤレスリモコン	23
フロントドア	26
スライドドア	29
バックドア	41

**1-3. シート・セパレーターバー・
ハンドル・ミラーの
調整のしかた**

フロントシート	49
リヤシート	52
調整式ヘッドレスト	54
シートアレンジ	56
セパレーターバー	66
シートベルト	76
ハンドル	81
インナーミラー	82
アウターミラー	83
補助ミラー	86

**1-4. ドアガラス・スライド式
リヤサイドガラスの
開け方、閉め方**

パワーウィンドウ	88
スライド式リヤサイドガラス	91

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	92
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	96
---------------------------	----

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	97
SRS エアバッグ	99
チャイルドシートの 取り付け	105

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって	110
エンジン（イグニッション） スイッチ	124
オートマチック トランスミッション	128
マニュアル トランスミッション	131
方向指示レバー	133
パーキングブレーキ	134
ホーン（警告器）	135

2-2. メーターの見方

計器類	136
表示灯／警告灯	144

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ライトスイッチ	148
フォグライトスイッチ	151
ワイパー & ウォッシャー (フロント)	153
ワイパー&ウォッシャー (リヤ)	156

2-4. その他の走行装置の使い方

クリアランスソナー& バックソナー	158
運転を補助する装置	170
排出ガス浄化装置 (ディーゼル車)	172

2-5. さまざまな状況での運転

荷物を積むときの注意	177
寒冷時の運転	179

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

マニュアルエアコン	186
オートエアコン	192
リヤクーラー	199
リヤヒーター	202
パワーヒーター	204
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り)	206

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類	207
ラジオの使い方 (AM / FM ラジオ)	209
ラジオの使い方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	212
CD プレーヤーの使い方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	214
MP3 / WMA ディスクの 聞き方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	220
快適に聞くために	227
アンテナ	230

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	231
・フロントパーソナル ライト	232
・ルームライト	233

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧	235
・グローブボックス	237
・センターコンソール ボックス	238
・シートバックコンソール	240
・カップホルダー	242
・ボトルホルダー	244
・運転席小物入れ	246
・オープントレイ	247

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	250
バニティミラー	251
灰皿	252
シガレットライター	253
アクセサリーコンセント	254
フロアマット	256
荷室内装備	258

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	262
内装の手入れ	265
タイヤについて	267

4-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口	271
ボンネット	275
電球（バルブ）の交換	278
ヒューズの点検・交換	292
キーの電池交換	302
ウォッシャー液の補給	304
エアコンフィルターの清掃	305

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	310
非常点滅灯	311
発炎筒	312
けん引について	314
フューエルポンプ シャットオフシステム	319
イベントデータレコーダー	320

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	321
パンクしたときは	326
エンジンがかからない ときは	344
シフトレバーが シフトできないときは （オートマチック車）	345
キーをなくしたときは	346
バッテリーがあがった ときは	347
オーバーヒートしたときは	351
スタックしたときは	354
車両を緊急停止するには	355

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量など)... 358

6-2. 初期設定

初期設定が必要な項目 370

さくいん

略語一覧..... 372

五十音順さくいん 373

症状別さくいん 384

1

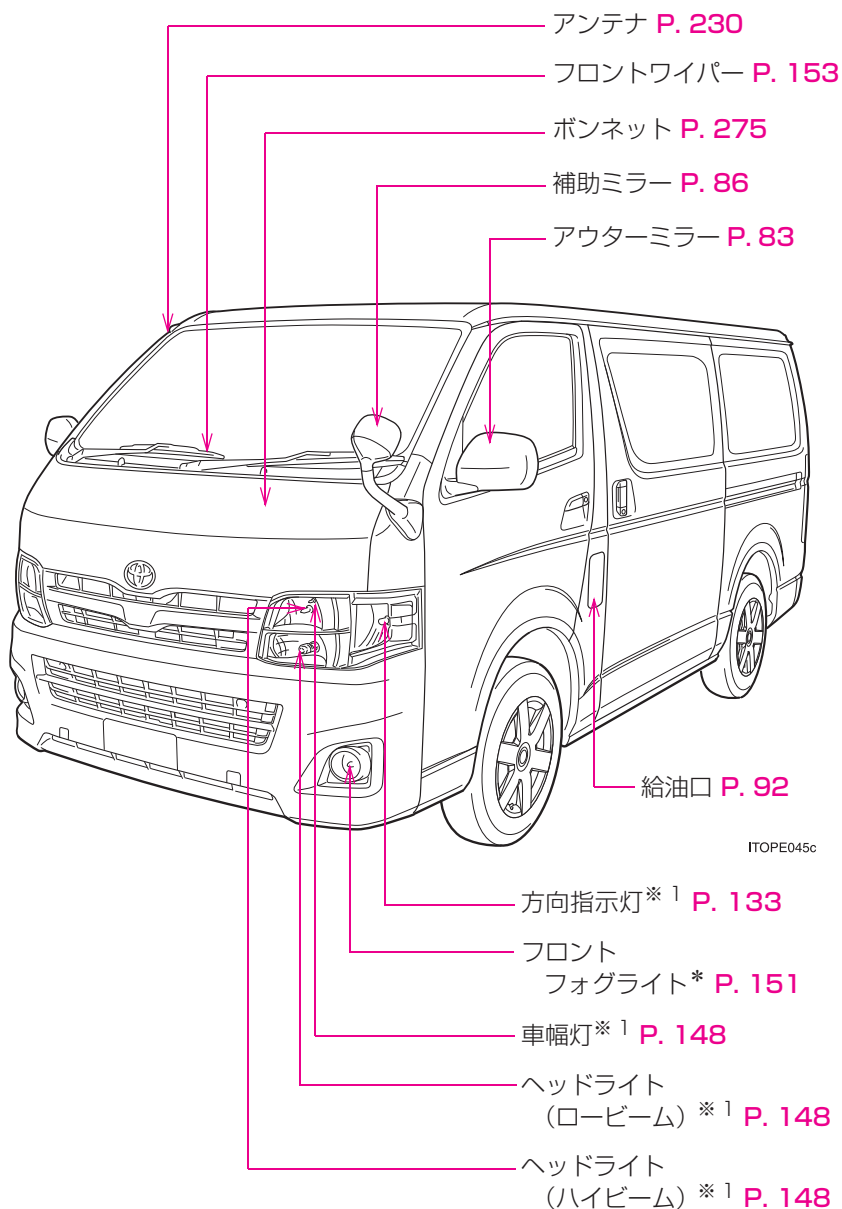
2

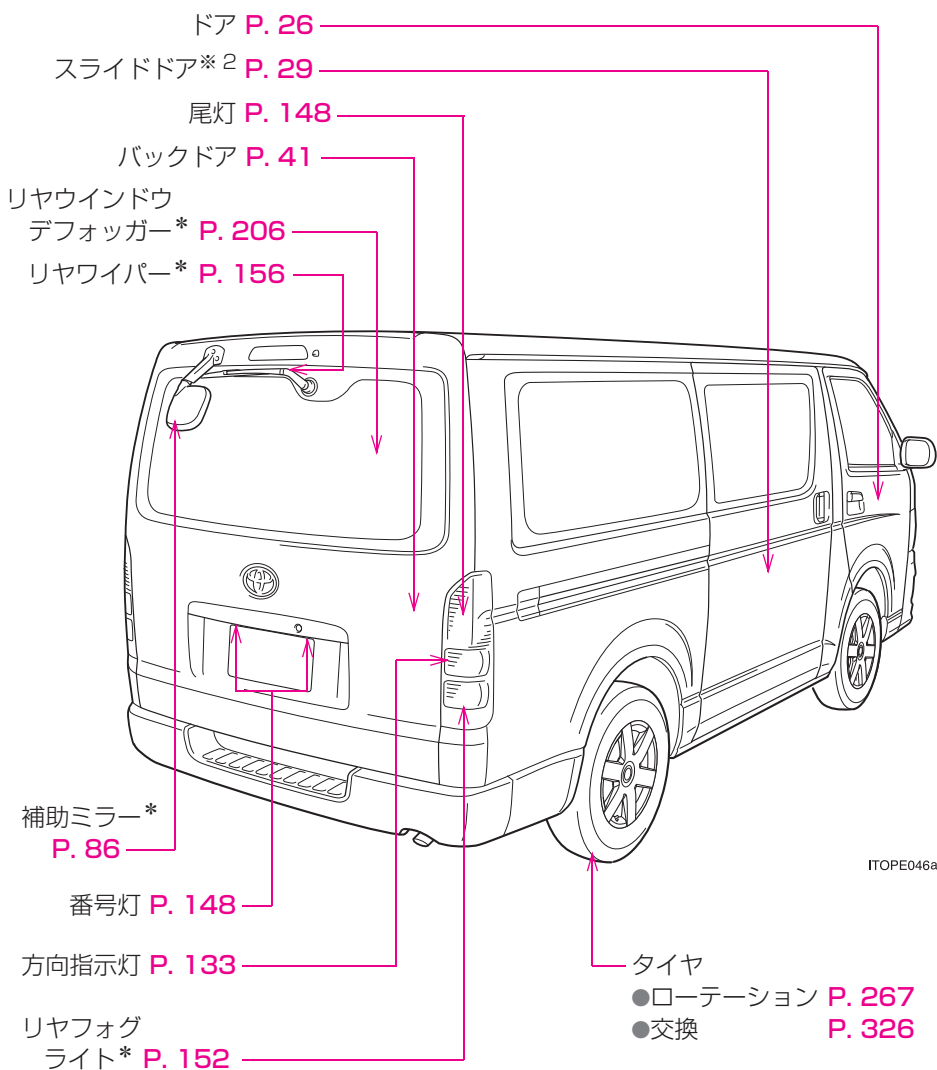
3

4

5

6

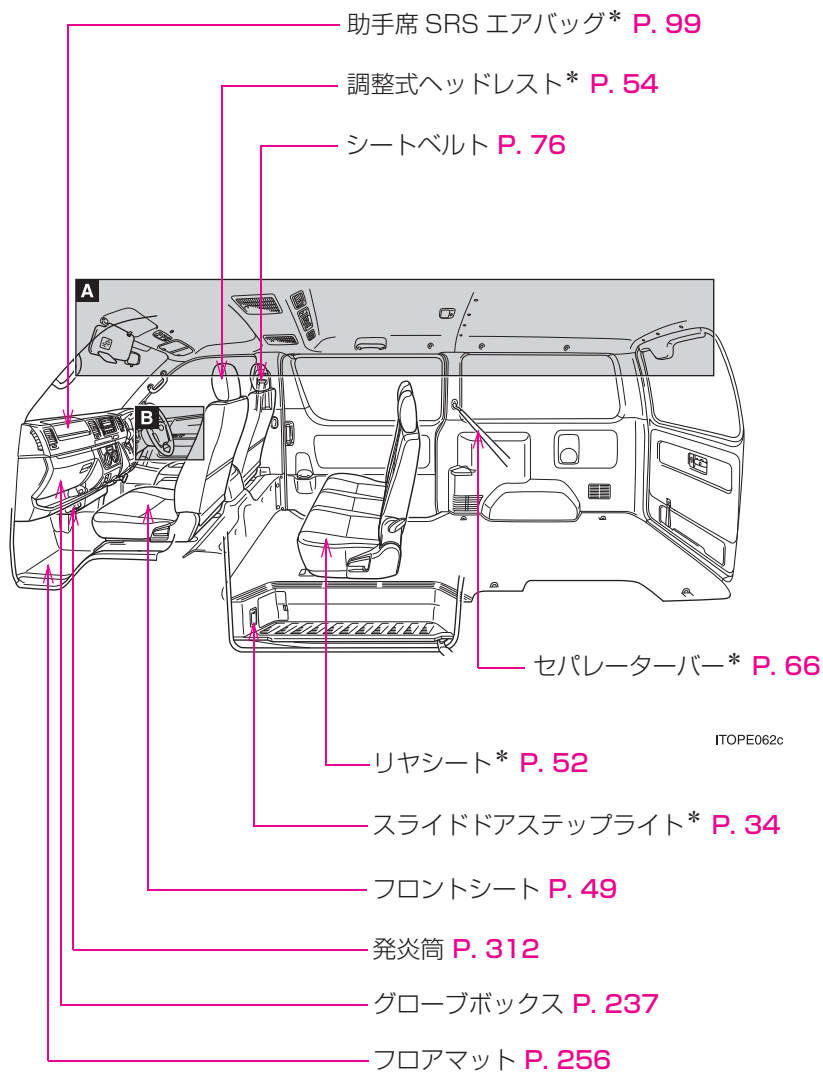


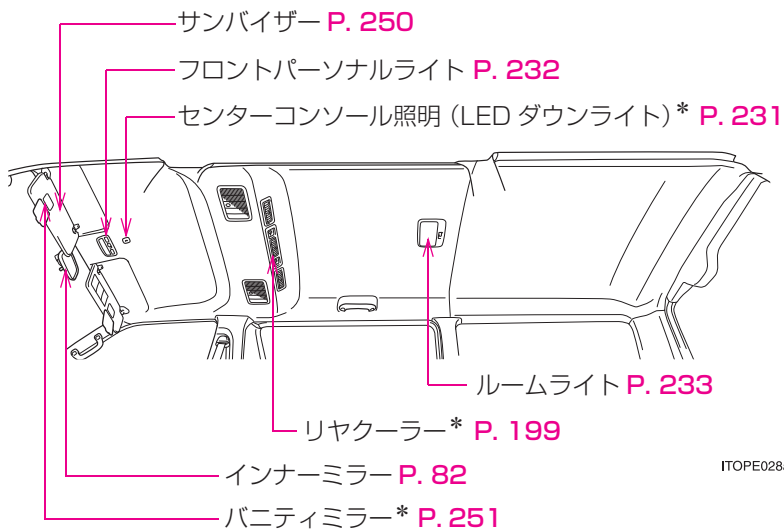
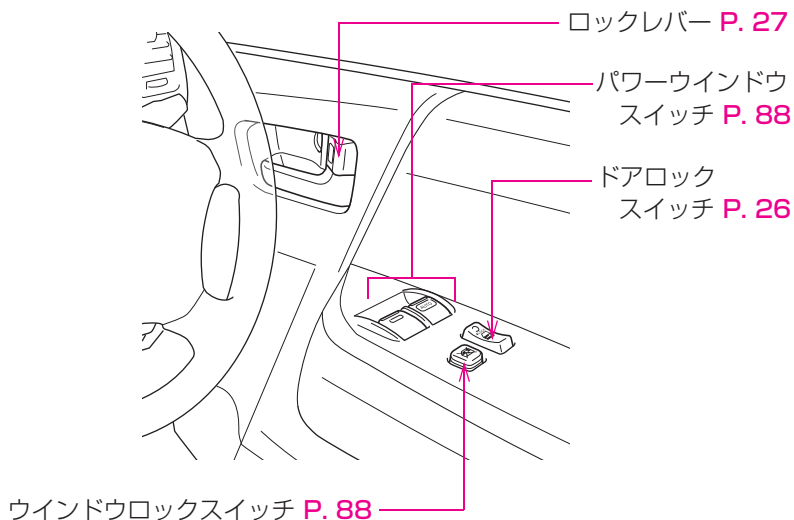


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※1 : ハロゲンヘッドライト装着車は装着位置・意匠が異なります。(→P. 278)

※2 : 4 ドア車は助手席側のみに装着されます。

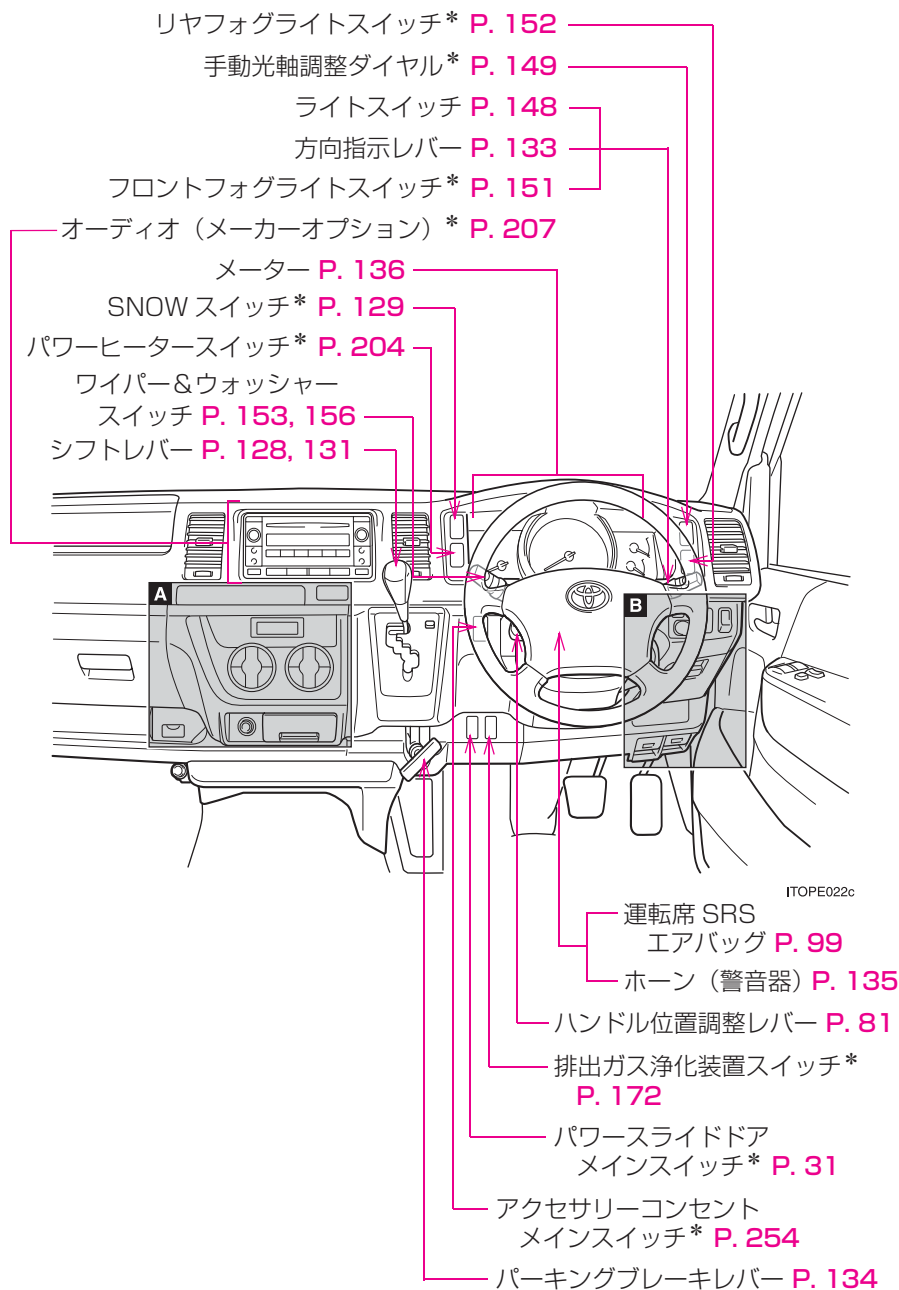


A**B**

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

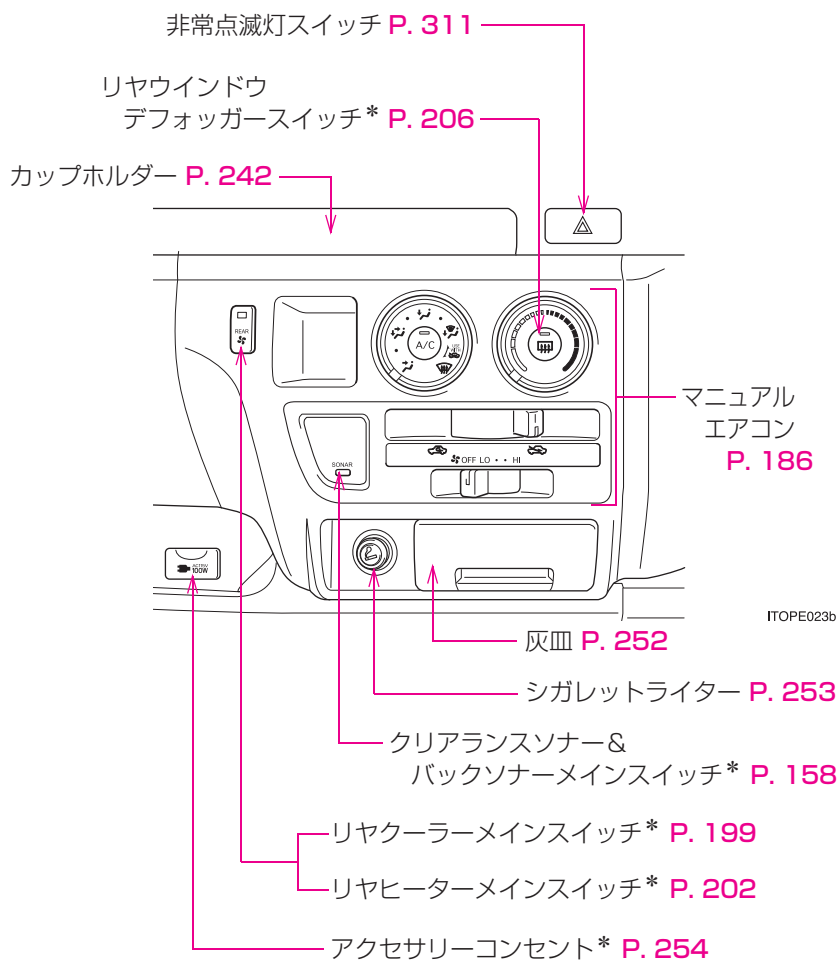
イラスト目次

インストルメントパネル



A

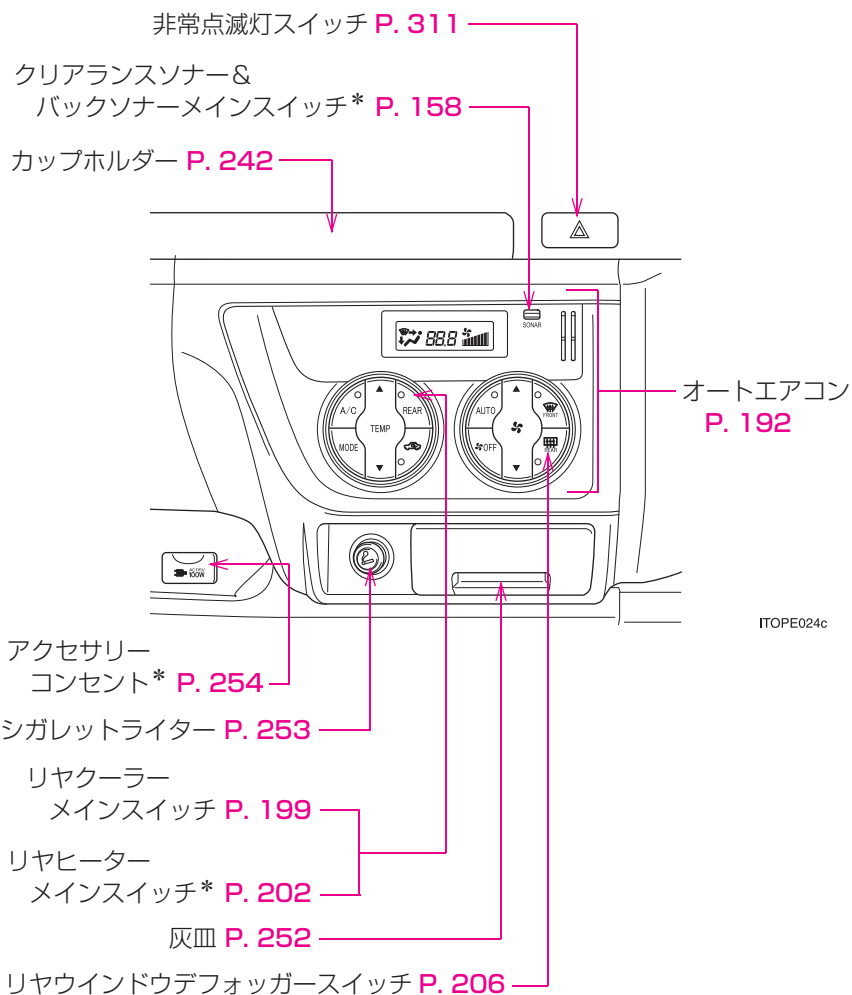
▶ マニュアルエアコン装着車

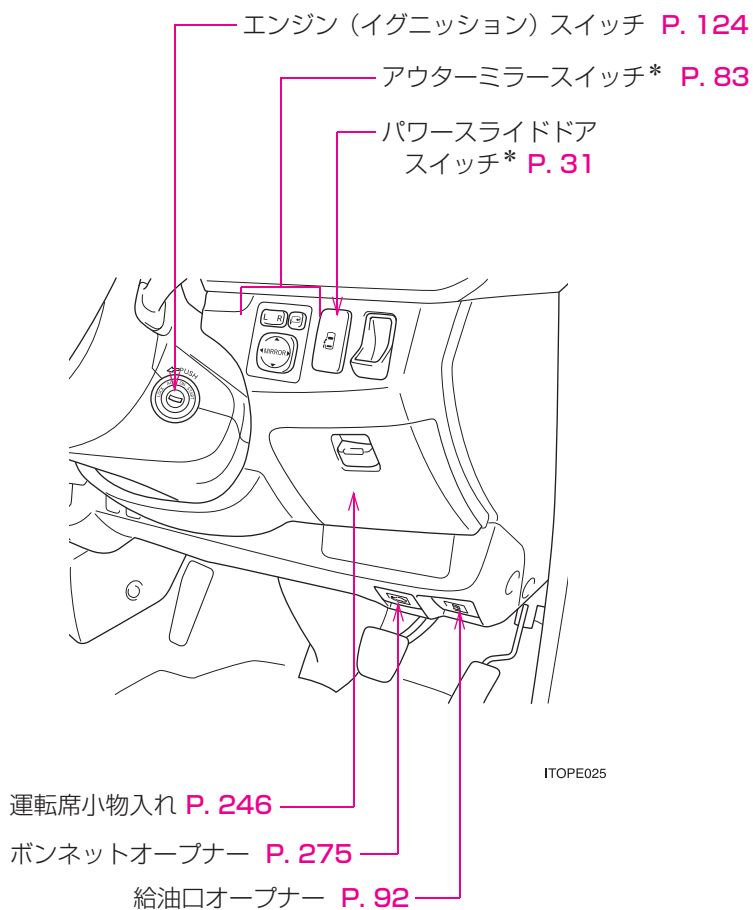


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A

▶ オートエアコン装着車



B

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

本書内の「デラックス（２人乗り）」は、キャンパー仕様車などの改造車ベース車両のことです。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項や、チャイルドシートの取り付けにあたって、注意すべき点などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 105)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

📖 知識

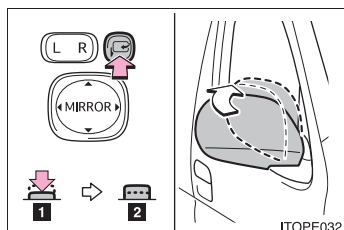
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

- ➡ スイッチなどの操作（押す・まわすなど）を示しています。
- ➡ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

- 1-1. キーの取り扱い
キー 18
- 1-2. ドアの開閉のしかた、
ロックのしかた
ワイヤレスリモコン 23
フロントドア 26
スライドドア 29
バックドア 41
- 1-3. シート・セパレーターバー・
ハンドル・ミラーの
調整のしかた
フロントシート 49
リヤシート 52
調整式ヘッドレスト 54
シートアレンジ 56
セパレーターバー 66
シートベルト 76
ハンドル 81
インナーミラー 82
アウターミラー 83
補助ミラー 86
- 1-4. ドアガラス・スライド式
リヤサイドガラスの
開け方、閉め方
パワーウィンドウ 88
スライド式
リヤサイドガラス 91
- 1-5. 給油のしかた
給油口の開け方 92
- 1-6. 盗難防止システム
エンジンイモビライザー
システム 96
- 1-7. 安全にお使いいただくために
正しい運転姿勢 97
SRS エアバッグ 99
チャイルドシートの
取り付け 105

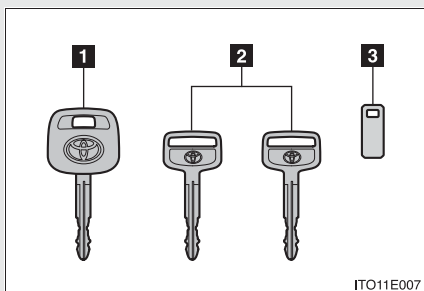
キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

エンジンイモビライザーシステム (→P. 96) 装着車のキーには、信号発信機が内蔵されています。また、ワイヤレスドアロック装着の有無などにより、キーの構成が異なります。

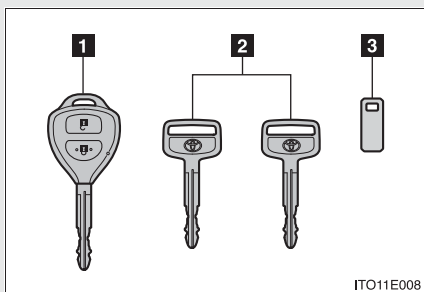
■ 信号発信機非搭載タイプ

▶ ワイヤレスドアロック非装着車



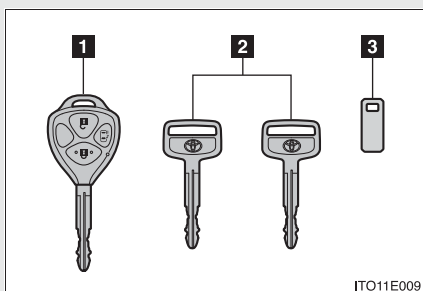
- 1 キー
- 2 スペアキー
- 3 キーナンバープレート

▶ ワイヤレスドアロック装着車



- 1 キー (ワイヤレス機能装着)
ワイヤレス機能の作動 (→P. 23)
- 2 スペアキー
- 3 キーナンバープレート

▶ ワイヤレスドアロック&パワースライドドア装着車



1 キー（ワイヤレス機能装着）

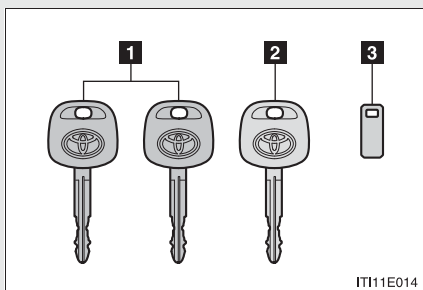
- ・ ワイヤレス機能の作動（→P. 23）
- ・ パワースライドドアの開閉（→P. 30）

2 スペアキー

3 キーナンバープレート

■ 信号発信機搭載タイプ

▶ ワイヤレスドアロック非装着車

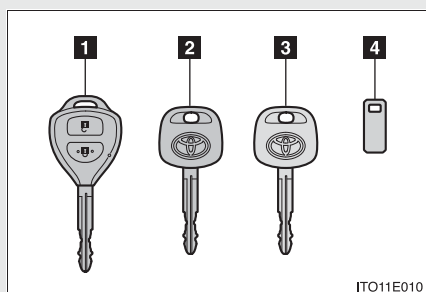


1 マスターキー（黒色）

2 サブキー（灰色）

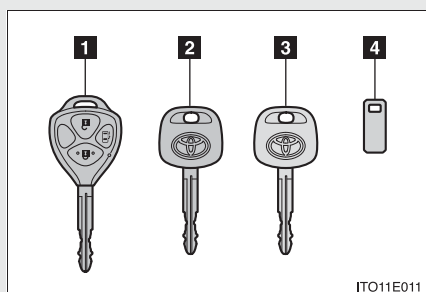
3 キーナンバープレート

▶ ワイヤレスドアロック装着車



- 1** ワイヤレスリモコン付き
マスターキー
ワイヤレス機能の作動 (→P. 23)
- 2** マスターキー (黒色)
- 3** サブキー (灰色)
- 4** キーナンバープレート

▶ ワイヤレスドアロック&パワースライドドア装着車



- 1** ワイヤレスリモコン付き
マスターキー
 - ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 23)
 - ・ パワースライドドアの開閉 (→P. 30)
- 2** マスターキー (黒色)
- 3** サブキー (灰色)
- 4** キーナンバープレート

 知識**■ エンジンイモビライザーシステム装着車は**

マスターキー（黒色）を紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、紛失しないように注意してください。

■ キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 346）

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



注意

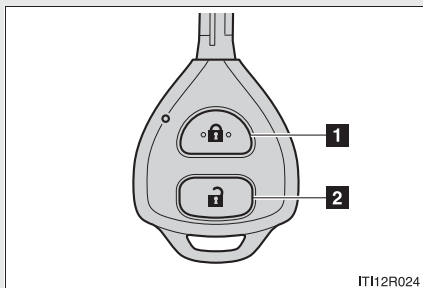
■キーの損傷・故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- ワイヤレス機能装着キー、および信号発信機内蔵のキーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- 信号発信機内蔵のキーを超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
- ワイヤレス機能装着キーは、不用意に分解しないでください。

ワイヤレスリモコン*

ドアを施錠・解錠できます。また、パワースライドドア装着車では、パワースライドドアを開閉することができます。

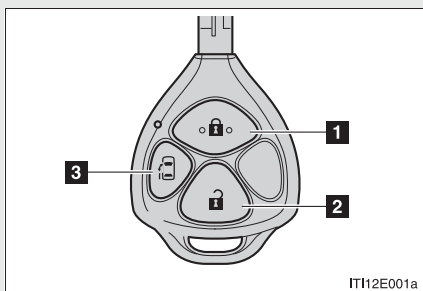
▶ パワースライドドア非装着車



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

▶ パワースライドドア装着車



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

3 パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動の合図

ドア：非常点滅灯の点滅で知らせます。

（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワースライドドア*：ブザーで知らせます。

（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■ 作動条件について

- 周囲の状況により作動可能距離が変わることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- エンジン スイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■ パワースライドドア*について

次のときは、ワイヤレスリモコンのスイッチを押してもパワースライドドアが作動しません。

- パワースライドドアメインスイッチ（→P. 31）が OFF になっているとき
- スライドドアが施錠されているとき（→P. 29）

■ 電池の消耗について

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 302）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■機能が正常に働かないおそれのある状況

- 次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - ・ 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
 - ・ ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
 - ・ 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
 - ・ ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
- 金属を含むフィルムや、金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）をバックドアガラスに貼り付けると、車両後方からの操作時に、作動可能距離が短くなる場合があります。

■電池が切れたときは

→P. 302

■パワースライドドア*の反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切りかわりません。

⚠ 警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

→P. 38

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

→P. 39

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた フロントドア

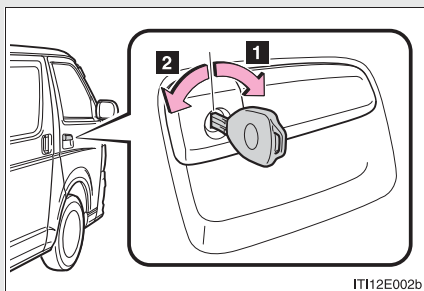
ワイヤレス機能*・キー・ドアロックスイッチなどを使って施錠・解錠
できます。

■ ワイヤレス機能*

→P. 23

■ キー

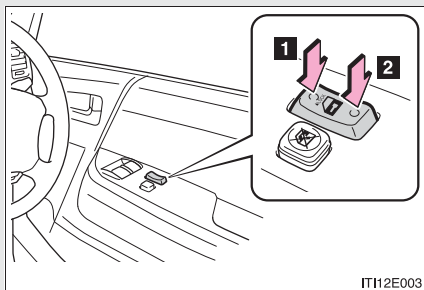
キーを操作すると、ドアが次のように作動します。



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックスイッチ

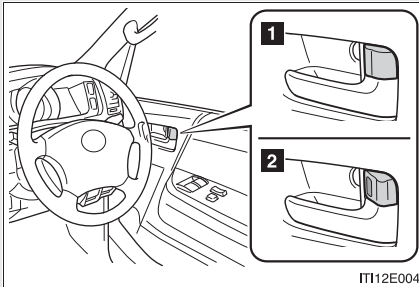


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

ワイヤレスドアロック装着車は、キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

 警告

■ **事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ **ドアを開閉するときは**

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スライドドア

スライドドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。
また、パワースライドドア装着車は、ドアハンドルやワイヤレス機能
などを使ってスライドドアを自動開閉することもできます。

■ スライドドアの施錠・解錠

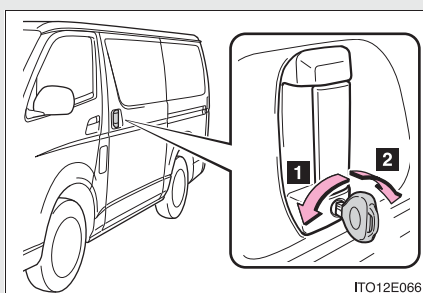
▶ ワイヤレス機能*

→P. 23

▶ ドアロックスイッチ

→P. 26

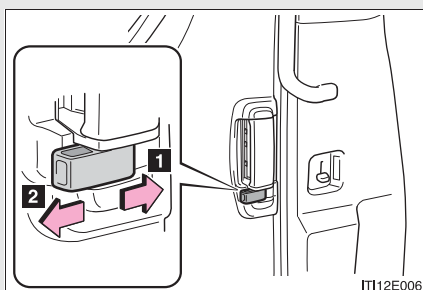
▶ キー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

▶ ロックレバー



1 ドアを施錠する

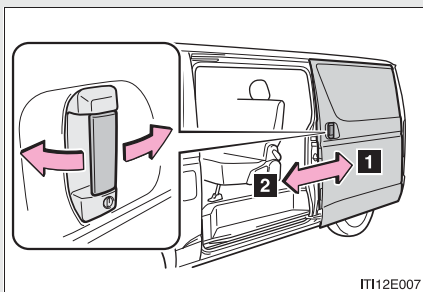
2 ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロック
レバーを施錠側にしてスライドド
アを閉じます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スライドドアの開閉

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。



1 開く

2 閉じる

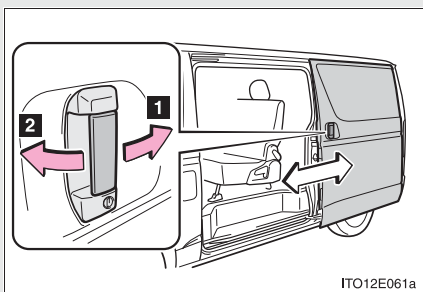
ロックが解除されるまで、確実にドアハンドルを引きます。

■ スライドドアの自動開閉（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチ（→P. 31）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

▶ スライドドアハンドル

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

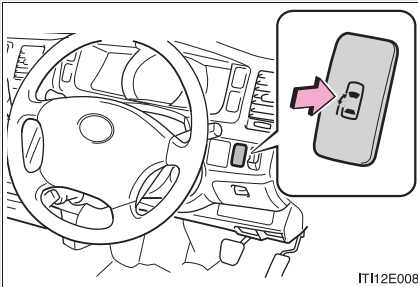


1 ドアを開くには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを開方向に引く

2 ドアを閉じるには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを閉方向に引く

開閉作動中、ドアハンドルを逆方向に操作すると、反転作動します。ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ パワースライドドアスイッチ



スイッチを約 1 秒押し続ける

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

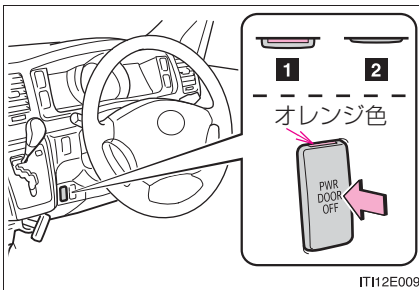
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ ワイヤレス機能

→P. 23

パワースライドドアメインスイッチ (パワースライドドア装着車)

パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、スライドドアの自動開閉が可能になります。

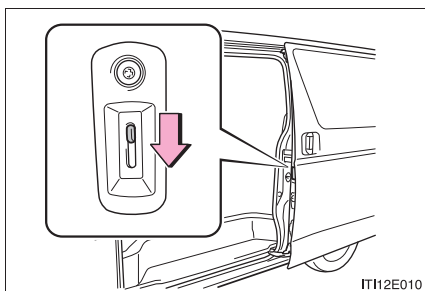


1 ON

スイッチ上部にオレンジ色のマークが見えています。

2 OFF

チャイルドプロテクター*



施錠側になると、スライドドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。

知識

■スライドドアイージークローザー*

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジン スイッチの位置に関係なく作動します。
- パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF のときでも作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーの作動中でも、車内または車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く)

■チャイルドプロテクター*使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。

スライド式リヤサイドガラス装着車で、万一、車内から開ける場合は、リヤサイドガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ パワースライドドアの作動条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。（エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます）

- スライドドアが解錠されているとき（閉作動を除く）
- エンジン スイッチが“ ON ”のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 作動条件を満たしていても、エンジン スイッチ が“ ON ”のときは、ワイヤレスリモコンで開閉することはできません。

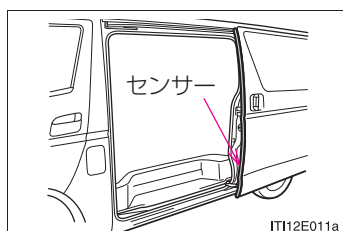
■ パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

- 作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。
- 作動条件を満たしていないときは、自動開閉できません。（その場合、手動で開閉できます）
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から反転作動します。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知した場合は、その位置で作動を停止します。
- 連続して 2 回以上、同じ方向への異常を感知すると、ブザーが鳴り、自動開閉できなくなります。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

■ パワースライドドアを開けたままバッテリー端子を取りはずしたときは（パワースライドドア装着車）

バッテリー端子を再接続しても、パワースライドドアを自動開閉できなくなります。その場合は、スライドドアを手動でいったん全閉にすると、自動開閉が可能になります。

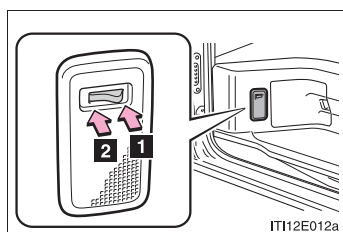
■ 挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）



スライドドアを自動で閉めているときに、センサーが異物の挟み込みなどを感知すると、スライドドアが反転作動し、全開位置で自動停止します。

■ スライドドアステップライト*

スイッチを ON にしておくと、スライドドアまたはバックドアを開けたときに点灯します。



1 ON

2 OFF

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ 走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず着用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しない
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする（チャイルドプロテクター装着車）

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

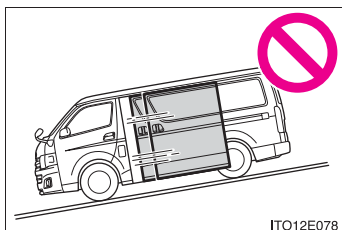
警告

■スライドドアの操作にあたって

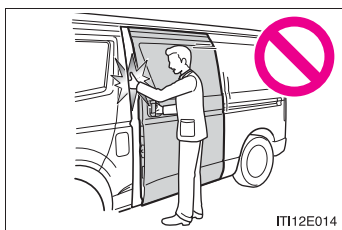
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- スライド式リヤサイドガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。（スライド式リヤサイドガラス装着車）
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。



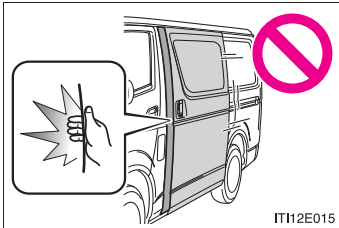
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。



- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

警告

■スライドドアイージークローザー*について



●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF であってもイージークローザーが作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）**

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアが自動で開閉している途中でパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、作動条件（→P. 33）が満たされなくなったりすると、ブザーが鳴って作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動操作に切りかわり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON”にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。
OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

**警告****■ 挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）**

次のことを必ずお守りください。

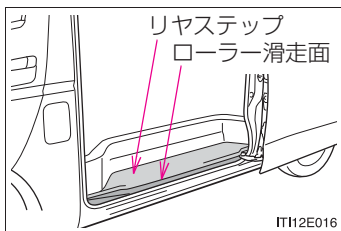
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ **スライドドアについて**

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

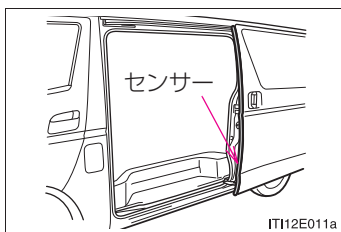


- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■ **スライドドアイージークローザー* について**

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ **パワースライドドアのセンサーについて（パワースライドドア装着車）**



センサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

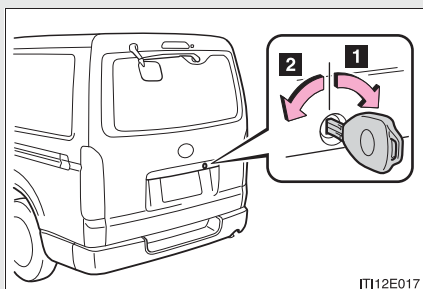
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

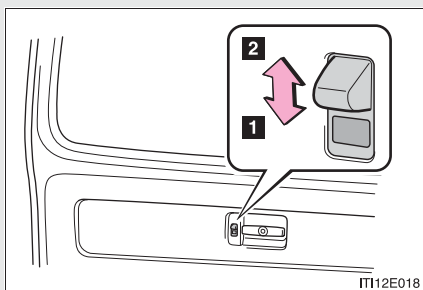
- ▶ ワイヤレス機能*
→P. 23
- ▶ ドアロックスイッチ
→P. 26
- ▶ キー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

▶ ロックレバー



1 ドアを施錠する

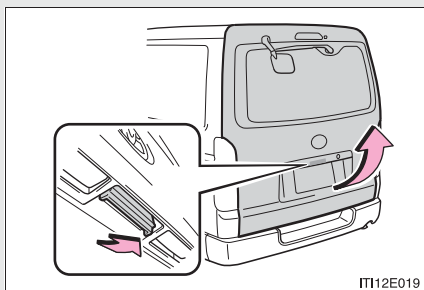
2 ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてバックドアを閉じます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

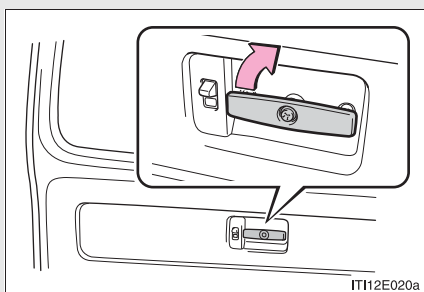
■ バックドアを開けるには

▶ バックドアハンドル（車外）



バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる

▶ バックドアハンドル（車内）



バックドアハンドルを右にまわして、バックドアを押し上げる

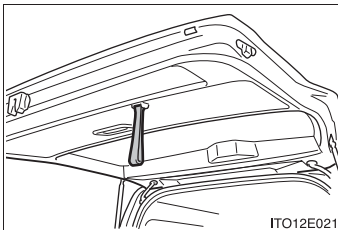
知識

■ バックドアイージークローザー*

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、バックドアが自動で完全に閉まります。

- エンジン スイッチの位置に関係なく、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内または車外のドアハンドルを操作してドアを開けることができます。(ロックレバーが施錠側のときを除く)

■ バックドアストラップ

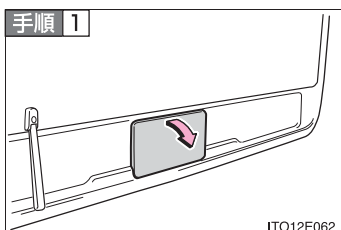


バックドアを閉めるときは、バックドアストラップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

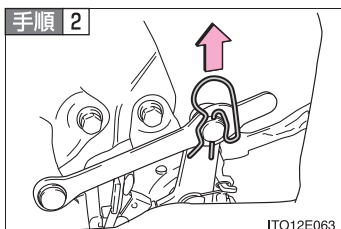
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■バックドアアイジークローザー*が故障したときは

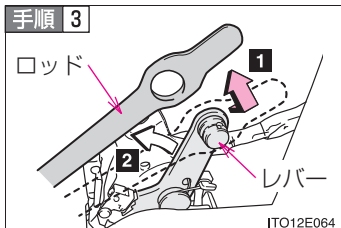
バックドアが開かない場合は、次の手順で車内からロックを解除してください。



上側部分を手前に引いてカバーをはずす



ピンを引き抜く



ロッドを手前に引いて上側にずらし（**1**）、
ロッドとレバーとの連結をはずす

レバーが矢印の方向に動きます（**2**）。
レバーが自動で動かないときは、矢印の方向
に手で動かしてください。

手順 4 車内または車外のバックドアハンドルを操作してバックドアを開ける
（→P. 42）

この処置でバックドアを開けることができて、すみやかにトヨタ販売店で
バックドアアイジークローザーの点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しないでください。
バックドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

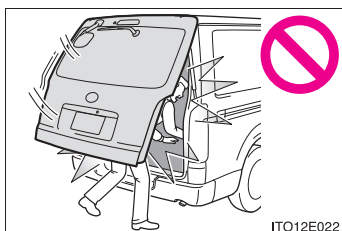
警告

■ バックドアの操作にあたって

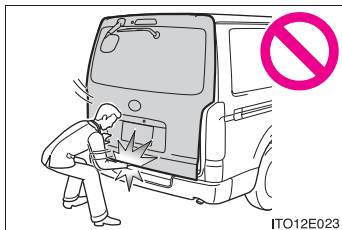
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

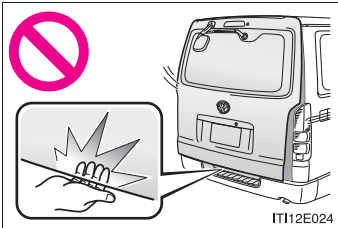


- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告**■バックドアイージークローザー*について**

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

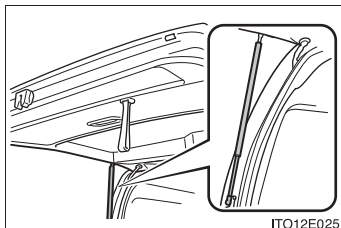
●ロックレバーが施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意

■ **ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ **バックドアを操作するときは**

車内のドアハンドルや、バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ドアハンドルやロック部品などが破損するおそれがあります。

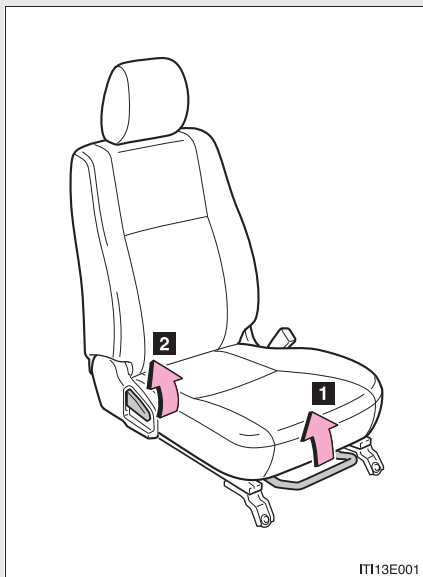
■ **バックドアイーजीクローザー*について**

- イーजीクローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイーजीクローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた フロントシート

運転席・助手席は、前後位置・リクライニング角度を調整することができます。



1 前後位置調整※

2 リクライニング調整

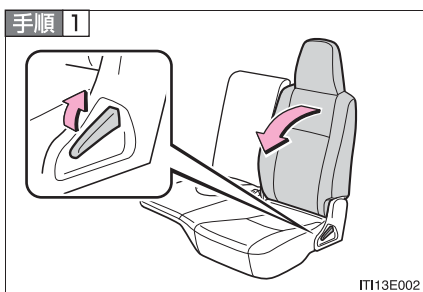
※助手席は車種により固定式になります。また、シートの意匠は車種により異なります。

1

運転する前に

助手席・中央席の前倒し（スーパー GL・デラックス 2 人乗りを除く）

■ 助手席

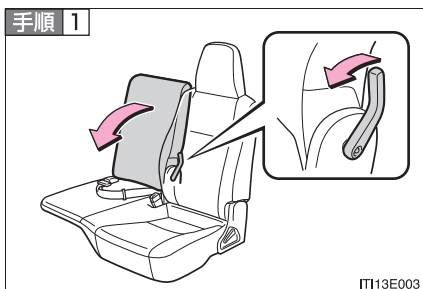


レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す

手順 2 もとにもどすときは、背もたれをそのまま引き起こす

■ 中央席

手順 1



レバーを前側に引いて、背もたれを前に倒す

手順 2

もともにもどすときは、レバーを前側に引いて背もたれを引き起こす

知識

■ 中央席*の背もたれについて

前倒しから起こした状態で、レバーを前側に引きながら後方に倒すと、背もたれを3段階うしろに倒すことができます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ リクライニング調整について**

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ 背もたれを前倒しするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーを P に、マニュアル車はエンジンを停止してシフトレバーを 1 速にする
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しない

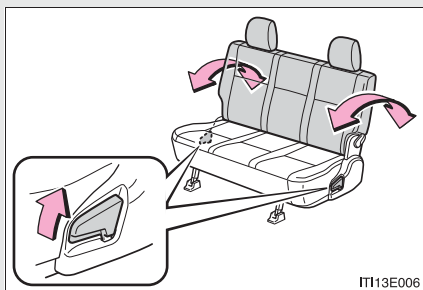
■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた リヤシート*

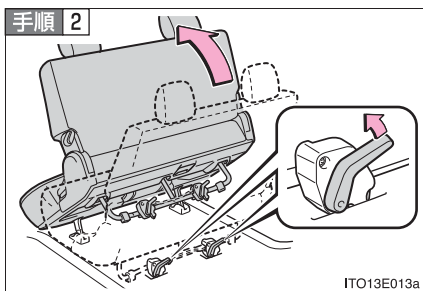
スーパー GL のリヤシートは、リクライニング角度の調整・前後位置の変更が可能です。



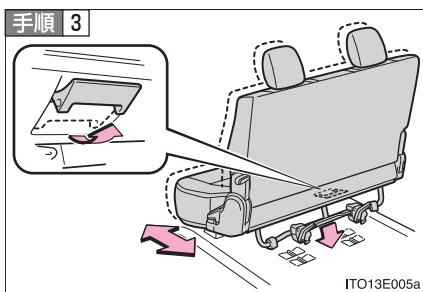
左右いずれかのレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす

前後位置の変更

手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける



左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、リヤシート後部を持ち上げる



スライドレバーを引いてシートを前後に移動させ、シートをフロアに押し付けてロックする

シートが確実に固定されたことを確認してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ シート調整について**

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

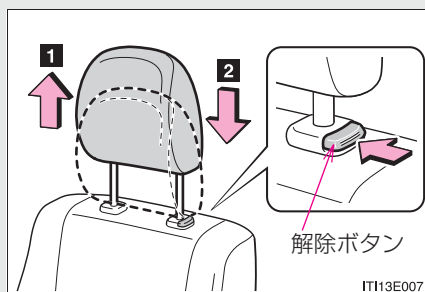
■ リヤシートの前後位置を変更するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 前後位置の変更後は、シートクッション後部を引き上げ、シートが確実に固定されていることを確認する

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた 調整式ヘッドレスト*



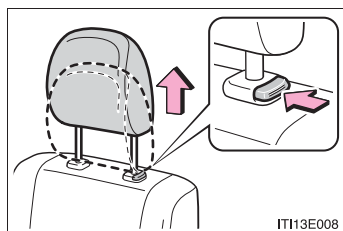
1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

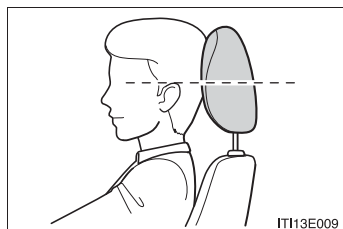
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

**警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

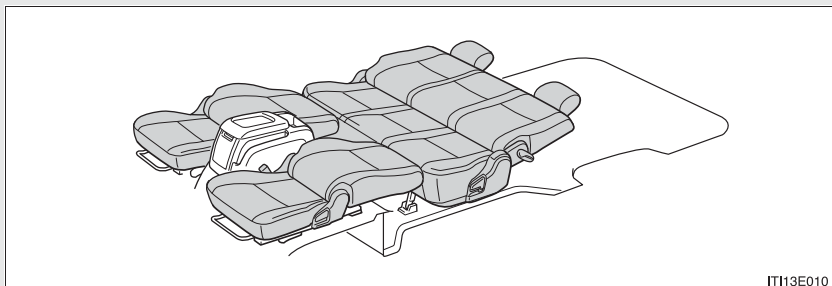
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた シートアレンジ*

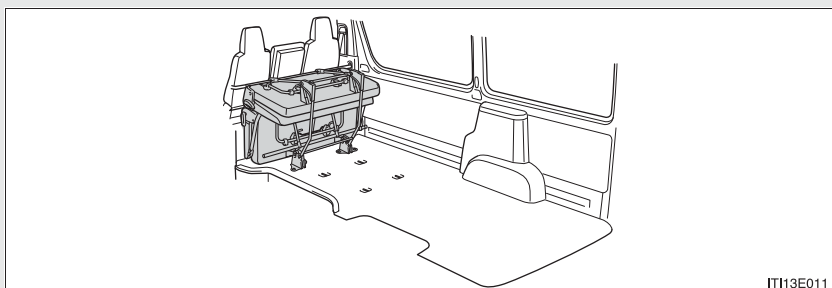
状況に応じて、次のようにシートをアレンジすることができます。
それぞれの説明ページをよく読んでから、操作を行ってください。

■ フラットシート（スーパー GL のみ）



→P. 57

■ 荷室の拡大



イラストはデラックス（3 / 6 / 9 人乗り）のシートで代表しています。

- ▶ スーパー GL
→P. 58
- ▶ デラックス（3 / 6 人乗り）
→P. 60
- ▶ デラックス（3 / 6 / 9 人乗り）
→P. 61

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フラットシート（スーパー GL のみ）

■ フラットシートにするときは

- 手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 手順 2 セパレーターバーを取りはずす（→P. 72）
- 手順 3 リヤシートの位置をうしろ側に移動する（→P. 52）
- 手順 4 リヤシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す（→P. 52）
- 手順 5 フロントシートの位置をいちばん前まで移動する（→P. 49）
- 手順 6 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P. 54）
- 手順 7 フロントシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す（→P. 49）

■ もとにもどすときは

フラットシートにしたときと逆の手順で操作を行います。

荷室の拡大（スーパー GL）

■ 荷室の拡大のしかた

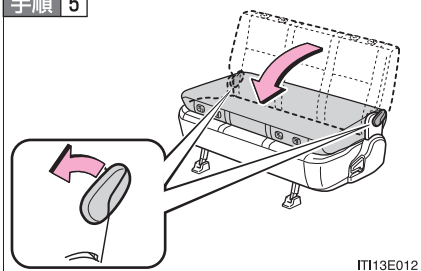
手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

手順 2 リヤシートの位置をうしろ側に移動する（→P. 52）

手順 3 リヤシートのヘッドレストをはずす（→P. 54）

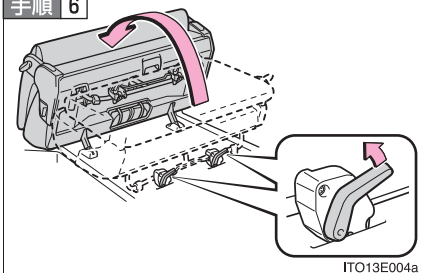
手順 4 リヤシートの背もたれを起こす（→P. 52）

手順 5

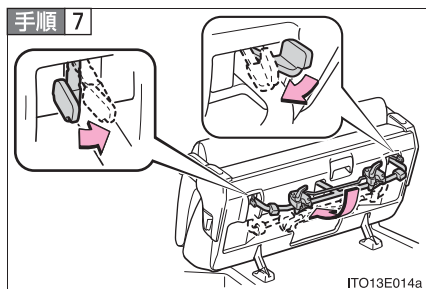


左右いずれかの前倒しレバーを引いて、背もたれを前に倒す

手順 6



左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、リヤシート全体を前方に起こす



左右のレバーを内側に引いてロックを解除し、シート脚部を折りたたむ

手順 8 セパレーターバーの取り付け位置をかえる (→P. 68)

■ もとにもどすときは

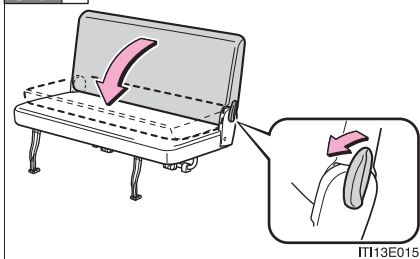
荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

荷室の拡大（デラックス 3 / 6 人乗り）

■ 荷室の拡大のしかた

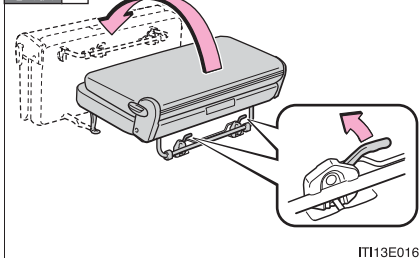
手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

手順 2



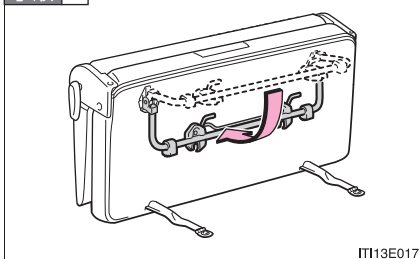
リヤシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す

手順 3



左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、リヤシート全体を前方に起こす

手順 4



脚部を折りたたむ

手順 5 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P. 69）

■ もとにもどすときは

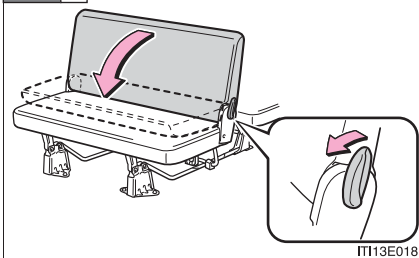
荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

荷室の拡大（デラックス 3 / 6 / 9 人乗り）

■ 荷室の拡大のしかた（3 人乗りにするとき）

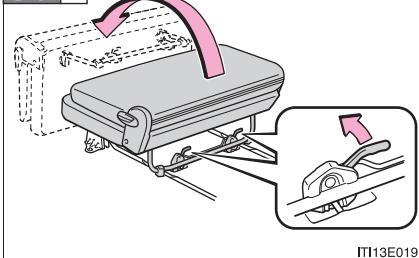
手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

手順 2



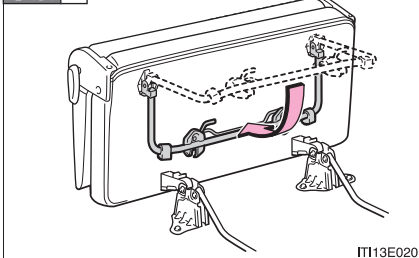
1 列目リヤシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す

手順 3



左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、1 列目リヤシートを前方に起こす

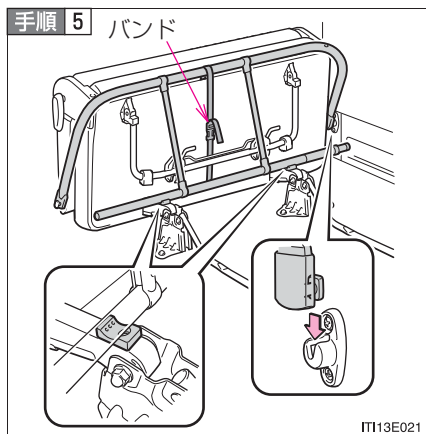
手順 4



脚部を折りたたむ

1

運転する前に

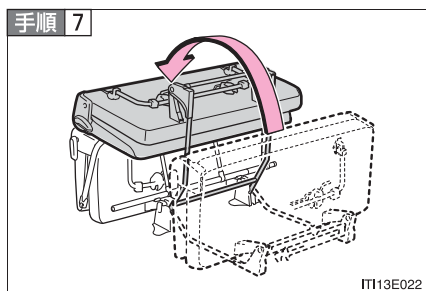


セパレーターバー (Dタイプ: →P. 73) を取りはずし、図のように格納する

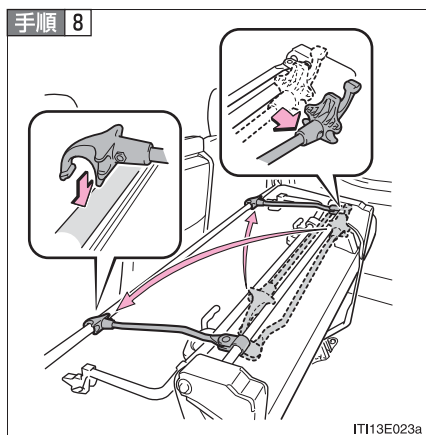
運転席側にあるブラケットに、セパレーターバー取り付け部を挿し込み、バンドで固定します。

手順 6 2列目リヤシートを折りたたむ

1列目と同様の手順で折りたたみます。



2列目リヤシート全体を持ち上げ、1列目リヤシートの上に載せる



2列目リヤシートを固定する

2列目リヤシート脚部にあるフックをはずし、図のようにセパレーターバー (Aタイプ: →P. 70) にかかけます。

■ 荷室の拡大のしかた（6人乗りにするとき）

手順 1 P. 61 の **手順 1** ~ **手順 4** までの操作を2列目リヤシートで行う

手順 2 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P. 70）

■ もとにもどすときは

荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

 警告

■ **シートアレンジについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーをPに、マニュアル車はエンジンを停止してシフトレバーを1速にする
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上や荷室に人を乗せて走行しない
- フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しない（スーパー GL）
- お子さまが荷室に入らないよう注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトなどが挟み込まれていないか確認する

■ **シートをもとにもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下（荷室の拡大時）に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする
- ヘッドレストを取りはずしたときは、もとどおりに取り付ける（調整式ヘッドレスト装着車）

**注意****■フラットシートについて（スーパー GL）**

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■荷室の拡大について（デラックス 3 / 6 / 9 人乗り車）

- 1 列目リヤシートのみを折りたたんだ状態で車を使用しないでください。
- 6 人乗りにするときは、必ず 2 列目リヤシートを折りたたみ、セパレーターバーを正しく取り付けけた状態で乗車してください。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた セパレーターバー*

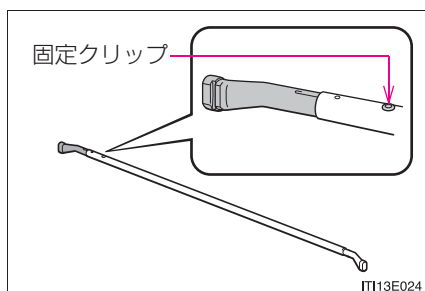
セパレーターバーは、必ず荷室のいちばん前の位置になるように取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、違法改造になります。また、紛失すると車検を受けることができなくなります。

デラックス（2人乗り）にはセパレーターバーの設定がありません。

セパレーターバーの種類

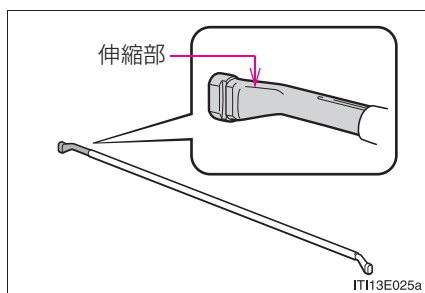
セパレーターバーには次の4種類があります。

■ A タイプ（固定クリップ付き）



- ・ セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの固定クリップが、運転席側になるように取り付けます。

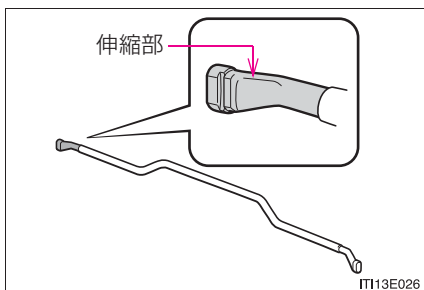
■ B タイプ（伸縮式）



- ・ セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの伸縮部が、運転席側になるように取り付けます。

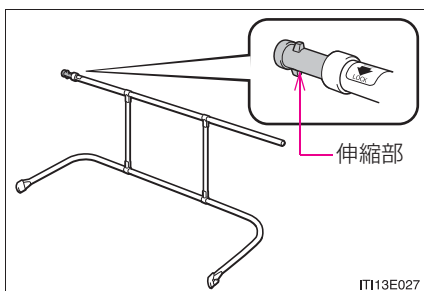
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ C タイプ（ハイルーフ・ミドルーフ用）



- ・ セパレーターバーのカーブが必ず上になるように取り付けます。
- ・ セパレーターバーの伸縮部が、運転席側になるように取り付けます。

■ D タイプ（デラックス 3 / 6 / 9 人乗り用）

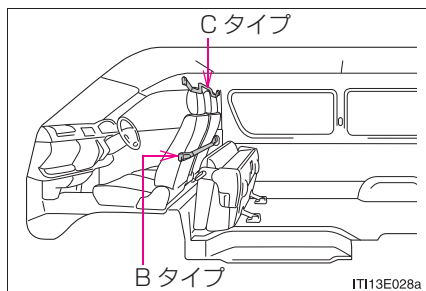


セパレーターバーの伸縮部が、必ず運転席側になるように取り付けます。

セパレーターバーの取り付け位置

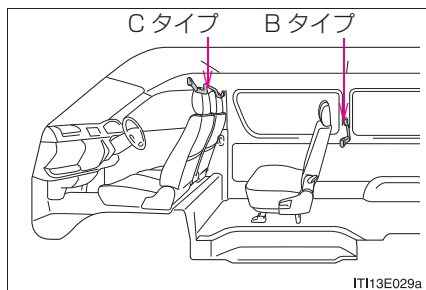
■ スーパー GL

▶ 2 人乗り時



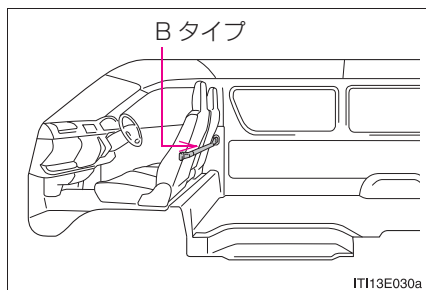
C タイプはミドルルーフの車両にのみ設定されます。

▶ 5 人乗り時



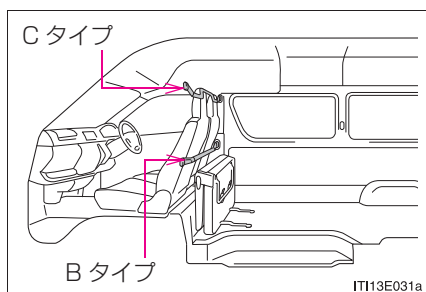
C タイプはミドルルーフの車両にのみ設定されます。

■ デラックス（3人乗り）



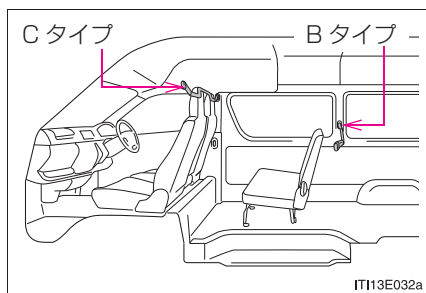
■ デラックス（3 / 6人乗り）

▶ 3人乗り時



C タイプはハイルーフの車両にのみ設定されます。

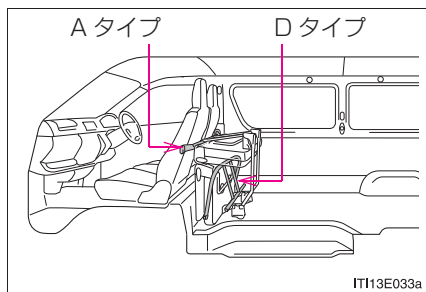
▶ 6人乗り時



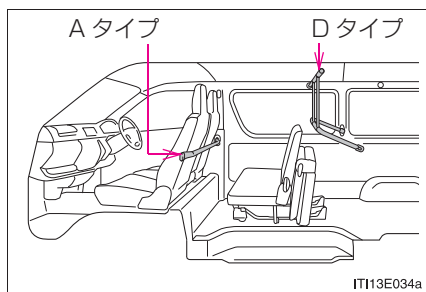
C タイプはハイルーフの車両にのみ設定されます。

■ デラックス (3 / 6 / 9 人乗り)

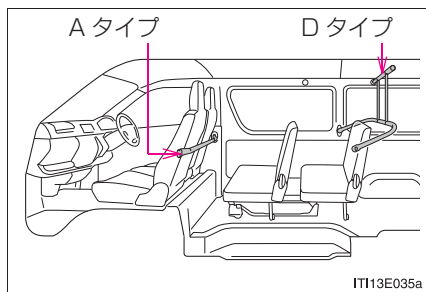
▶ 3 人乗り時



▶ 6 人乗り時



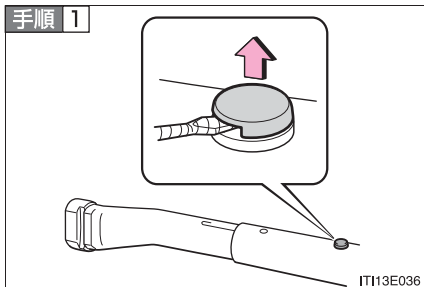
▶ 9 人乗り時



セパレーターバーの脱着 (A タイプ)

■ 取りはずし方

手順 1



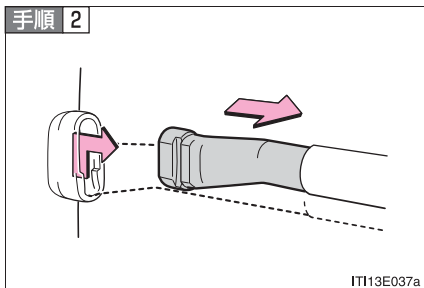
セパレーターバーの固定クリップをはずす

固定クリップは運転席側の取り付け部にあります。

固定クリップのピンをマイナスドライバーなどで引き上げて取りはずします。

傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。

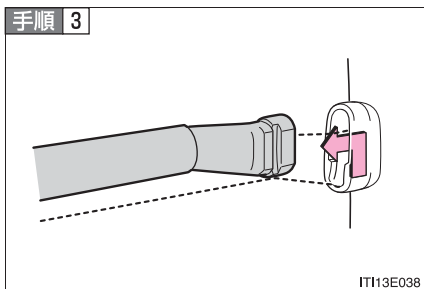
手順 2



セパレーターバーの取り付け部(運転席側)を引き上げ、内側に縮める

運転席側(固定クリップ側)の取り付け部は、伸縮します。

手順 3



セパレーターバーの取り付け部(助手席側)を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。

1

運転する前に

■ 取り付け方

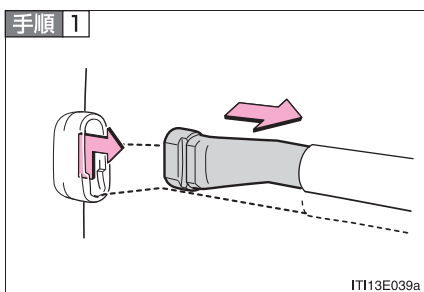
取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、固定クリップが運転席側になるように取り付けてください。

セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

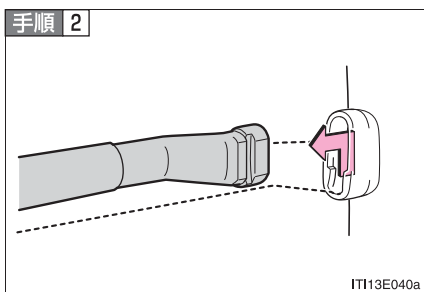
セパレーターバーの脱着（B タイプ・C タイプ）

■ 取りはずし方



セパレーターバーの取り付け部（運転席側）を引き上げ、内側に縮める

運転席側の取り付け部は、伸縮します。



セパレーターバーの取り付け部（助手席側）を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。

■ 取り付け方

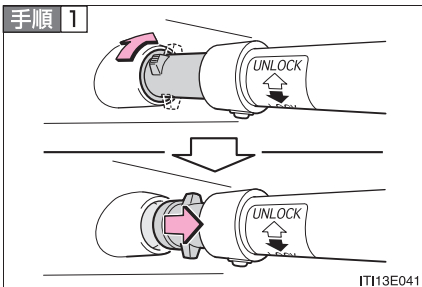
取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、伸縮部が運転席側になるように取り付けてください。

セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

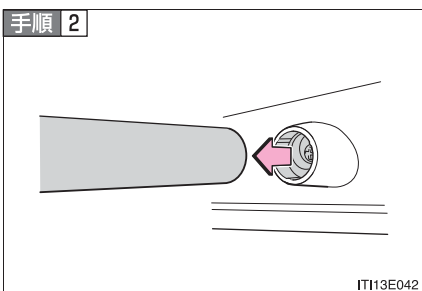
セパレーターバーの脱着 (D タイプ)

■ 取りはずし方

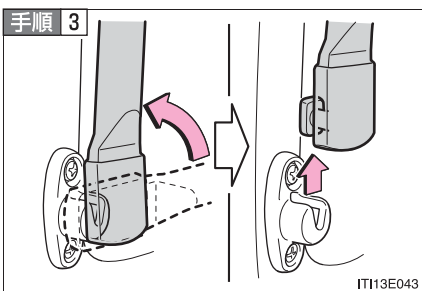


上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットから取りはずす

取り付け部のツマミをUNLOCK側にしてロックを解除し、取り付け部を内側に縮めて取りはずします。



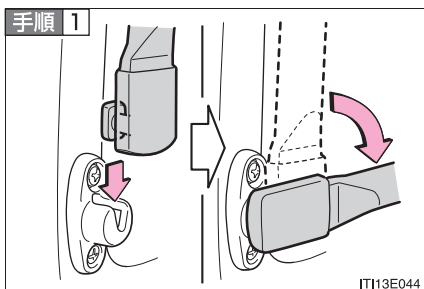
上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットから取りはずす



下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットから取りはずす

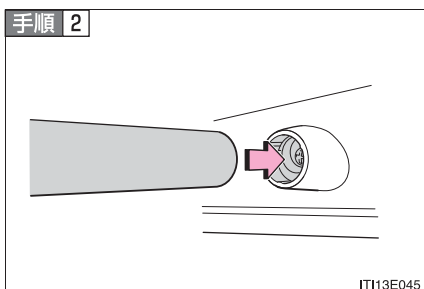
下側のセパレーターバー取り付け部が垂直になる位置まで起こし、セパレーターバー全体を引き上げてブラケットから取りはずします。

■ 取り付け方

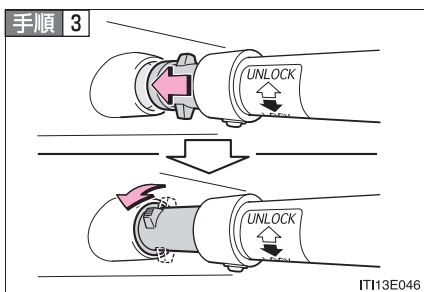


下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットに挿し込み、前方または後方に倒す

9人乗り時は車両後方に倒し、6人乗り時は車両前方に倒します。



上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットに挿し込む



上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットに取り付ける

取り付け部を引き出してブラケットに挿し込み、ツマミを LOCK 側にして固定します。

 警告**■ セパレーターバーを取り付けたあとは**

確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、走行中にセパレーターバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ はめ込むタイプのセパレーターバーについて**

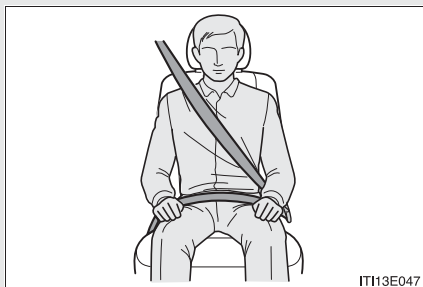
セパレーターバーの取り付け部をブラケットにはめ込むときは、必ずセパレーターバー全体を下側に押さえてください。片側のみに荷重をかけると、ブラケットが破損するおそれがあります。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

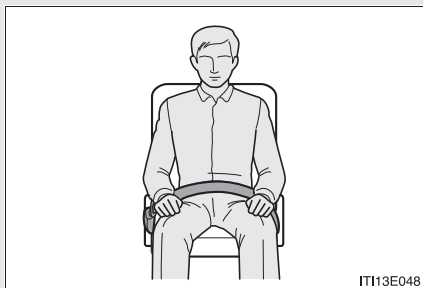
■ 正しく着用するには

▶ 3点式シートベルト（運転席・助手席）



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

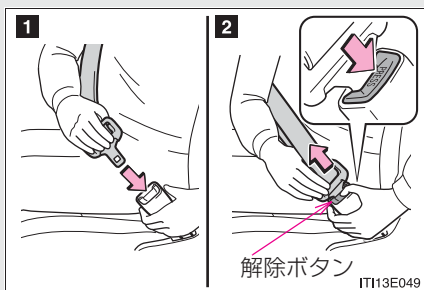
▶ 2点式シートベルト（中央席*）



- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

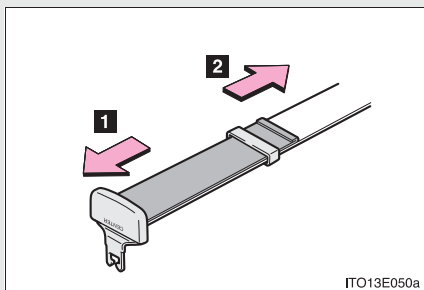
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

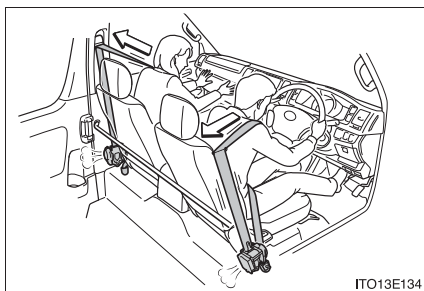
■ シートベルトの長さ調節（2点式シートベルト*）



- 1 伸ばす
- 2 縮める

着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調節してください。

シートベルトプリテンショナー(SRSエアバッグ装着席のシートベルト)



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構（3点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 76）

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P. 105）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 76）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- 2点式シートベルト*は、背もたれとシートクッションのあいだに通して着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせる（リヤシート装着車）
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

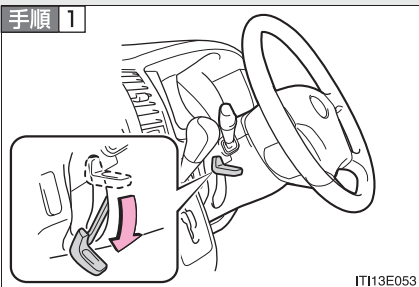
■ **プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた ハンドル

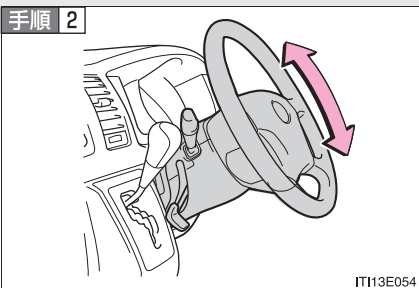
ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

手順 1



ハンドルを持ち、レバーを下げる

手順 2



ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

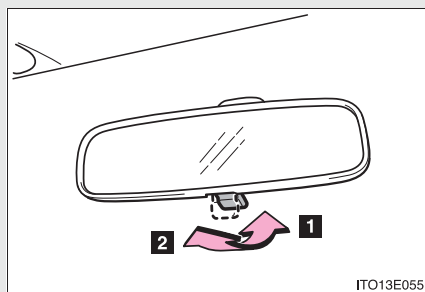
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた インナーミラー

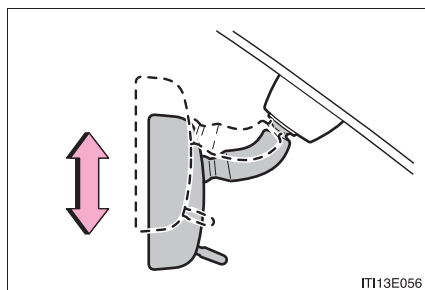
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

⚠ 警告

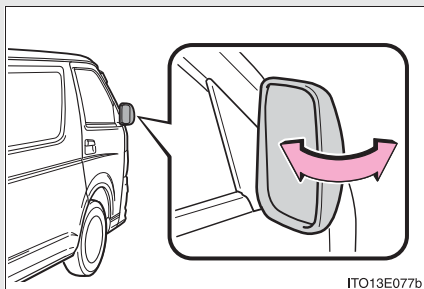
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた アウターミラー

■ マニュアルタイプ

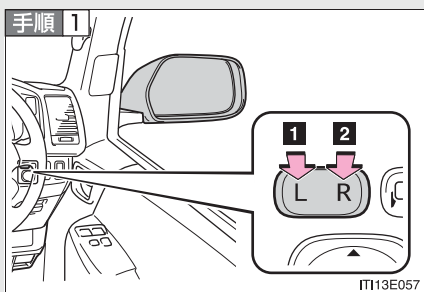


ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

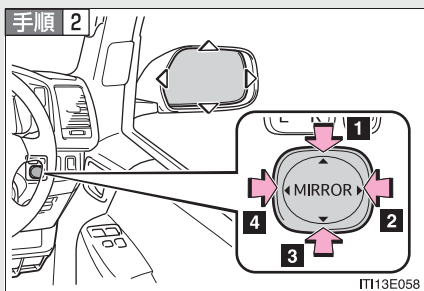
■ 電動タイプ

スイッチで鏡面の角度調整をします。



調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- 1 左
- 2 右

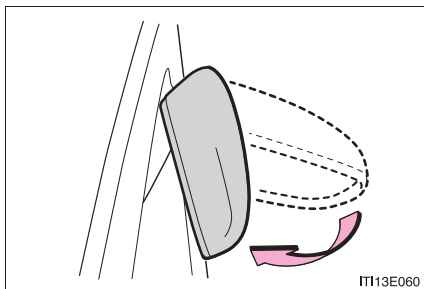


ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

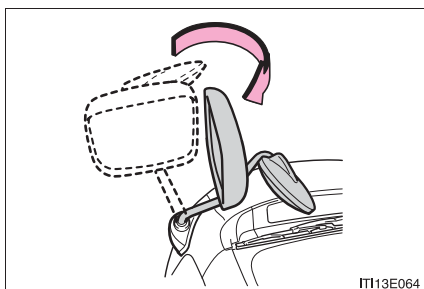
- 1 上
- 2 右
- 3 下
- 4 左

アウターミラーを格納するときは

▶ マニュアルタイプ

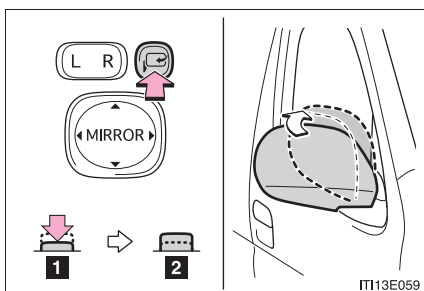


運転席側：手で後方に押して格納する



助手席側：手で前方に押して格納する

▶ 電動タイプ



ボタンを押してアウターミラーを格納する

1 格納状態

2 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

 知識

■ アウターミラーの作動条件（電動アウターミラー装着車）

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

 警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない

- ミラーを格納したまま走らない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは（電動アウターミラー装着車）

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

1-3. シート・セパレーターバー・ハンドル・ミラーの調整のしかた 補助ミラー

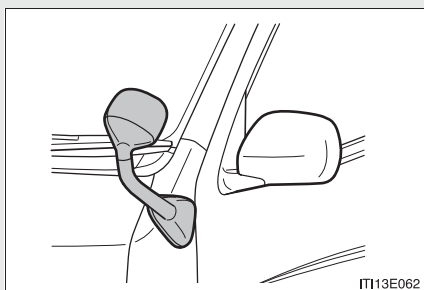
■ フロントアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます。

▶ 電動アウターミラー非装着車

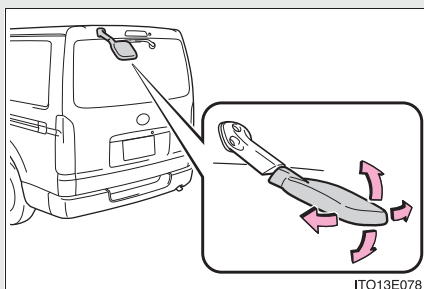


▶ 電動アウターミラー装着車



■ リヤアンダーミラー*

後退時の視界確保に貢献します。



ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

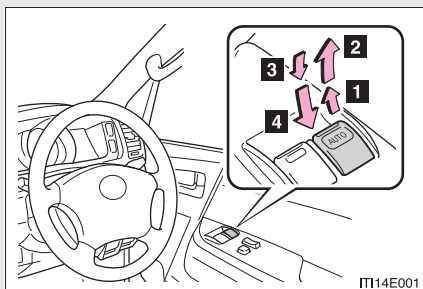
**注意****■補助ミラーについて**

- 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・アウターミラーなども併用し十分注意して行ってください。

1-4. ドアガラス・スライド式リヤサイドガラスの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラス（運転席・助手席）を開閉できます。

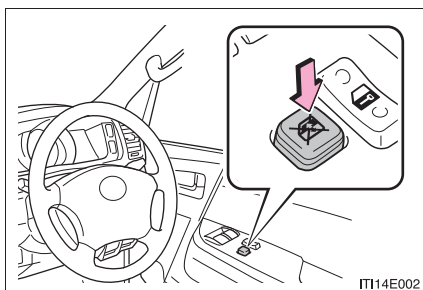
スイッチを操作して、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉（運転席のみ）※
- 3 開ける
- 4 自動全開（運転席のみ）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウィンドウロックスイッチ



スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ エンジン OFF 後の作動（運転席ドアガラスのみ）

エンジン スイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ バッテリーを再接続したときは

運転席ドアガラスの自動開閉や挟み込み防止機能などが作動しなくなります。パワーウィンドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

手順 1 半分まで運転席のドアガラスを開ける

手順 2 スイッチを引き上げて運転席のドアガラスを全閉し、そのままスイッチを 1 秒間保持する

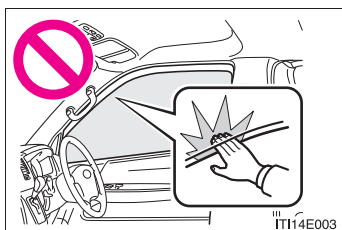
初期設定が完了すると、スイッチ上の “ AUTO ” の文字が点滅から点灯にかわります。

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

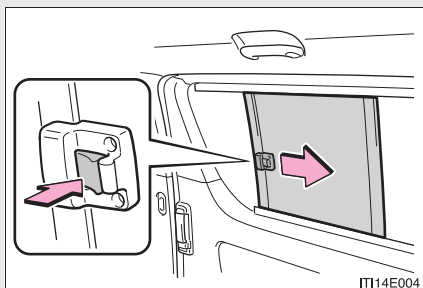
⚠ 注意

■ ドアガラスを開閉するときは

次のことをお守りください。

- 運転席スイッチと助手席のスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けけない

1-4. ドアガラス・スライド式リヤサイドガラスの開け方、閉め方 スライド式リヤサイドガラス*



開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる

閉めるときは、“カチッ”と音がするまでガラスをスライドさせ、確実にロックされたことを確認してください。

⚠ 警告

■スライド式リヤサイドガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤサイドガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤサイドガラスの操作をさせないでください。リヤサイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

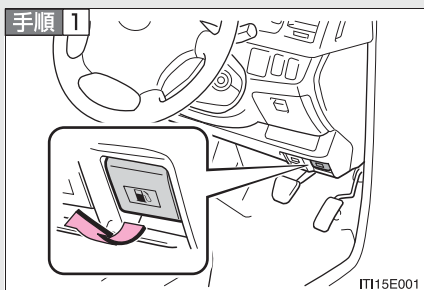
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

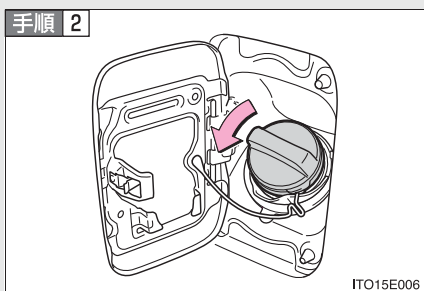
■ 給油する前に

すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ” にしてください。

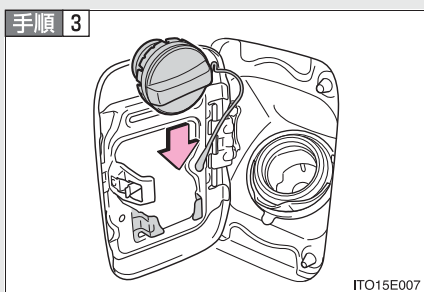
■ 給油口の開け方



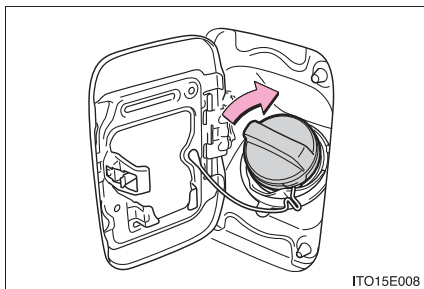
オープナーを引いて、給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。

 知識**■ 燃料の種類**

- ▶ ガソリン車
無鉛レギュラーガソリン
- ▶ ディーゼル車
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

■ 燃料タンク容量（参考値）

70 L

警告

■ 給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン、または軽油や他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

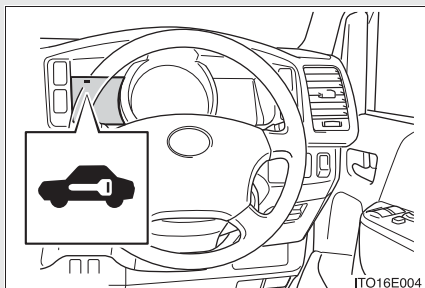
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車）
指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム*

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



キーをエンジン スイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

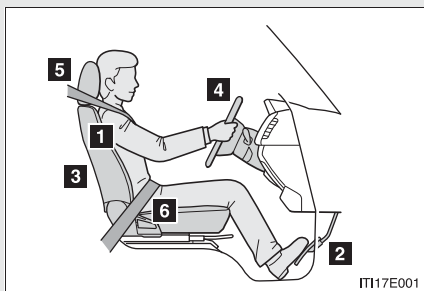
■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 49）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→P. 49）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 49）
- 4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 81）
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする※（→P. 54）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 76）

※調整式ヘッドレストのみ

 警告

■ **走行中は**

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。＊
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

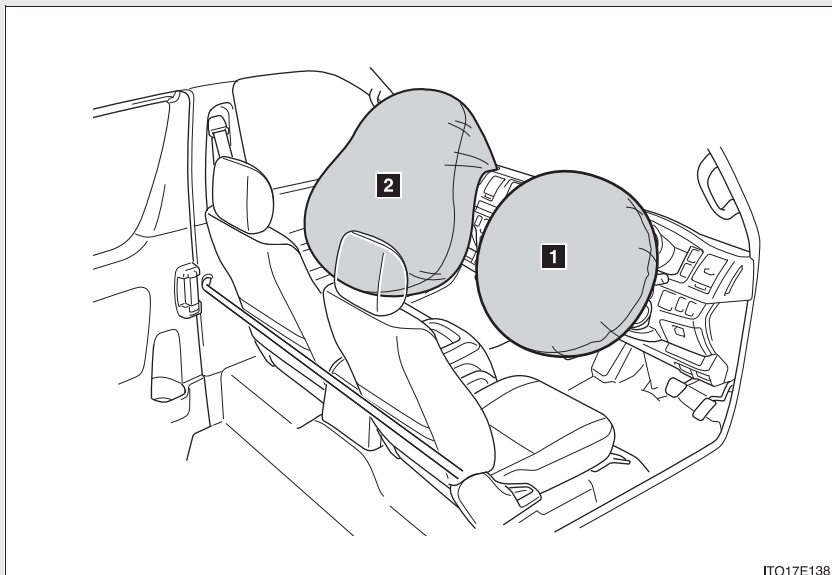
＊前後位置が固定式のシートを除く

■ **シートを調整するときは**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



- 1** 運転席 SRS エアバッグ
(運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- 2** 助手席 SRS エアバッグ*
(助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき

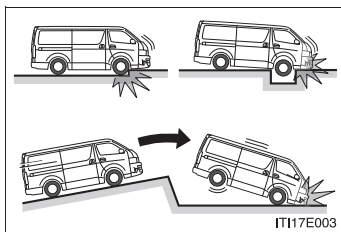
- SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、駐車している車両や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

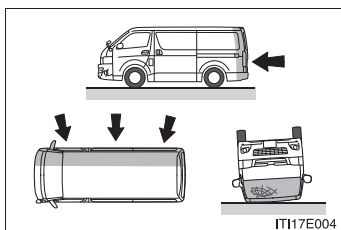
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

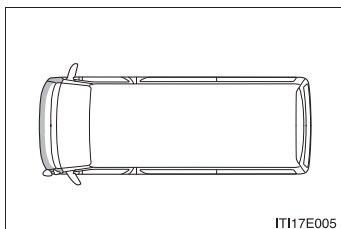


- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

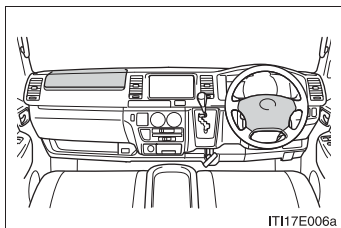
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

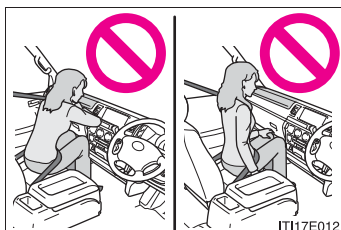
警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

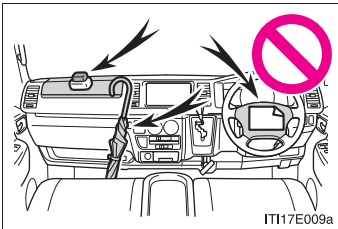
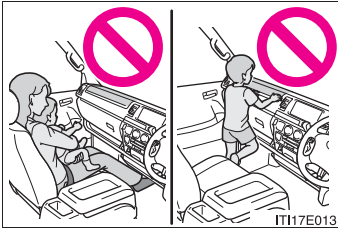
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
リヤシート装着車の場合、お子さまはリヤ席に乘せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 105)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

警告

■ SRS エアバッグについて



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告

■ **改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な
傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーなどの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

1-7. 安全にお使いいただくために

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。

取り付け方法は、必ず商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

警告

■チャイルドシートについて

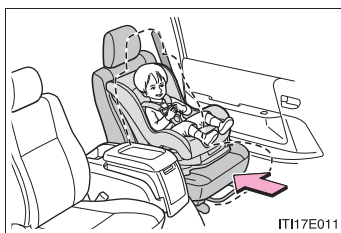
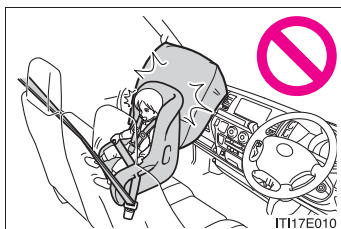
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

！ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(助手席 SRS エアバッグ装着車)
- 助手席の前後位置調整が可能な車両の場合、やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付けるときには、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(助手席 SRS エアバッグ装着車)
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■チャイルドシートを使用しないときは**

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。
チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、車室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、荷室内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	110
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	124
オートマチック	
トランスミッション	128
マニュアル	
トランスミッション	131
方向指示レバー	133
パーキングブレーキ	134
ホーン（警音器）	135

2-2. メーターの見方

計器類	136
表示灯／警告灯	144

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ライトスイッチ	148
フォグライトスイッチ	151
ワイパー & ウォッシャー	
（フロント）	153
ワイパー&ウォッシャー	
（リヤ）	156

2-4. その他の走行装置の使い方

クリアランスソナー&	
バックソナー	158
運転を補助する装置	170
排出ガス浄化装置	
（ディーゼル車）	172

2-5. さまざまな状況での運転

荷物を積むときの注意	177
寒冷時の運転	179

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 124

■ 発進する

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 128)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 134)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする
(→P. 131)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 134)

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。
(→P. 128)

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。(→P. 131)

■ 駐車する

▶ オートマチック車

- 手順 1** シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 手順 2** パーキングブレーキをかける (→P. 134)
- 手順 3** シフトレバーを P にする (→P. 128)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。(→P. 328)

- 手順 4** エンジン スイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
- 手順 5** キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶ マニュアル車

- 手順 1** クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 手順 2** パーキングブレーキをかける (→P. 134)
- 手順 3** シフトレバーを N にする (→P. 131)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止めを使用してください。(→P. 328)

- 手順 4** エンジン スイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
- 手順 5** キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを1速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転者標識の取り付け

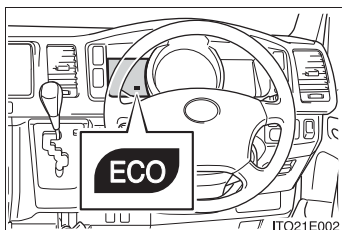
磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ エンジン停止前のアイドル運転について（ディーゼル車）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドル運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなど急な登坂、 または 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

■ 環境に配慮した運転（オートマチック車）



- エコドライブインジケータランプが点灯すると、環境に配慮したアクセル操作をしていることをお知らせします。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
- エコドライブインジケータランプは、次の条件を満たすと作動します。
 - ・ シフトレバーの位置がDで走行しているとき
 - ・ スノーモード*を使用していないとき
 - ・ 車速が約 100km/h 以下のとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **発進するときは**

オートマチック車では、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ **運転するときは**

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

● オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

● 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスやスライド式リヤサイドガラス*などを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。

すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。(オートマチック車)
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D (オートマチック車) または 1 (マニュアル車) に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、エンジンの動力がトランスミッションに伝わらなくなるため、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもステアリングやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はステアリングとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 355 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 129, 131)
- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。

 警告

- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ 停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP(オートマチック車)にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。(→P. 172)
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（ディーゼル車は、P. 176 の注意も併せて参照してください）

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

■ **ブレーキをかけるときは**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシテムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ **万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転中は（オートマチック車）**

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 運転中は（マニュアル車）

- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
 - ・ 1 速以外での発進は避ける
 - ・ 坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない
- 車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

■ 駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 注意

■ **ターボ装置の故障を防ぐために（ディーゼル車）**

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→P. 113）
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→P. 361）

■ **クラッチがすべっていると感じたら（マニュアル車）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。

クラッチをつないだ状態でアクセルペダルを踏み込んでも加速できない場合、クラッチがすべっている可能性があり、走行不能になるおそれがあります。

■ **走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 326 を参照してください。

**注意****■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- 電動ファンシステム
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

手順 4 エンジン スイッチをまわす

ガソリン車 : “ START ” の位置までまわします。

ディーゼル車 : “ ON ” の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

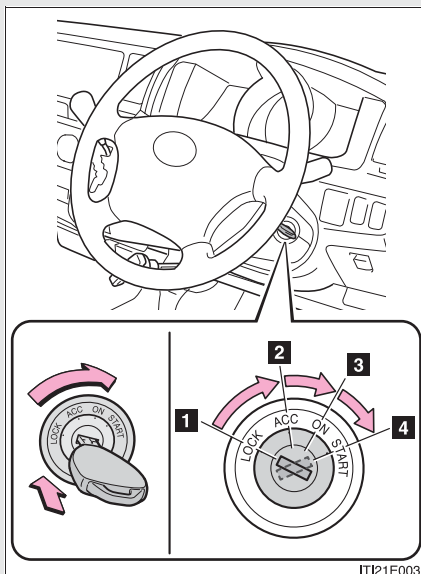
手順 3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏む

手順 4 エンジン スイッチをまわす

ガソリン車 : “ START ” の位置までまわします。

ディーゼル車 : “ ON ” の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ



IT121E003

1 “ LOCK ” (OFF)

- ・ ステアリングロックがかかります。
 - ・ キーを抜き挿しすることができます。
- (オートマチック車は、シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しできます)

2 “ ACC ”

シガレットライターなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

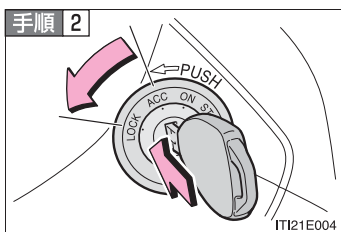
4 “ START ”

エンジンが始動できます。

□ 知識

■ キーを “ ACC ” から “ LOCK ” にまわすには

手順 1 シフトレバーがP (オートマチック車) または N (マニュアル車) の位置にあることを確認する



IT121E004

キーを押し込みながら “ LOCK ” までまわす

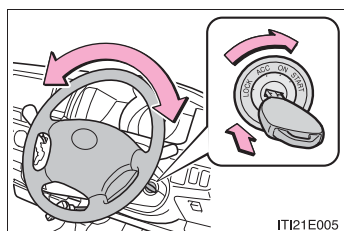
■ エンジンが始動しないときは（エンジンイモビライザーシステム装着車）

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P. 96）

■ クラッチスタートシステム（マニュアル車）

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジン スイッチを“ START ”
の位置にまわしても、安全のためエンジンが始動しません。

■ ステアリングロックを解除するには



ハンドルを左右に動かしながら、エンジン
スイッチをまわしてください。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、
運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ 極寒時のエンジン始動について（ディーゼル車）

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジン スイッチをまわ
し続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エン
ジン スイッチを“ ACC ”にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してくだ
さい。

 警告**■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを“ LOCK ”にしないでください。

緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ ACC ”にしてください。

ただし、緊急時以外は走行中にエンジン スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

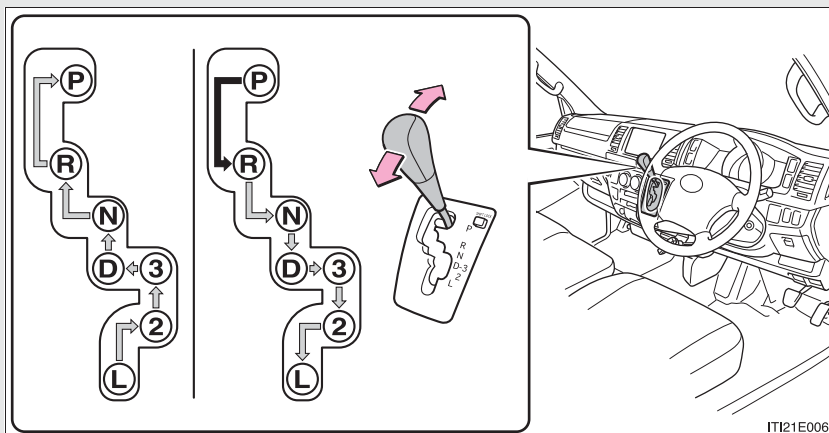
■ 予熱表示灯について（ディーゼル車）

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



← エンジン スイッチが “ ON ” の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

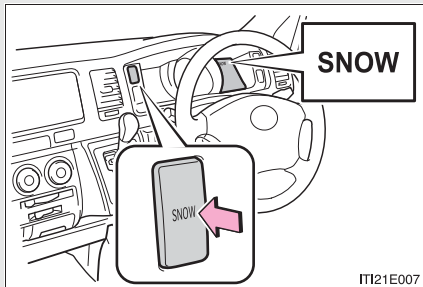
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
3	坂道走行
2	下り坂走行
L	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ スノーモードの選択*

雪道などすべりやすい路面での発進時に選択します。



スノースイッチを押す

もう一度押すと、解除されます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ **リバース警告ブザー**

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ **シフトレバーを P からシフトできないときは**

→P. 345

■ **スノーモードの自動解除***

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ **AI-SHIFT について***

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに、自動的に作動します。

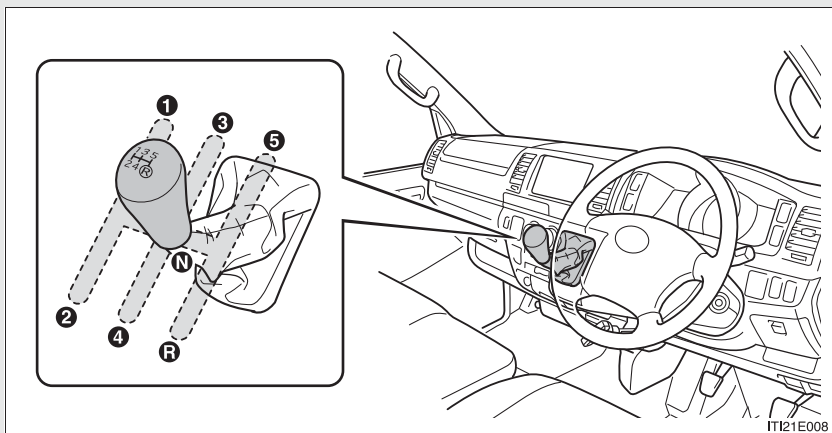
 警告

■ **すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ シフトレバーの動かし方



クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

誤操作を防ぐため、5 速から R へは直接入れることができません。

いったん N にしてから R に入れます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 各シフト位置の速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)	
	1TR-FE エンジン	1KD-FTV エンジン
4	160	130
3	105	90
2	60	55
1	35	30

 警告

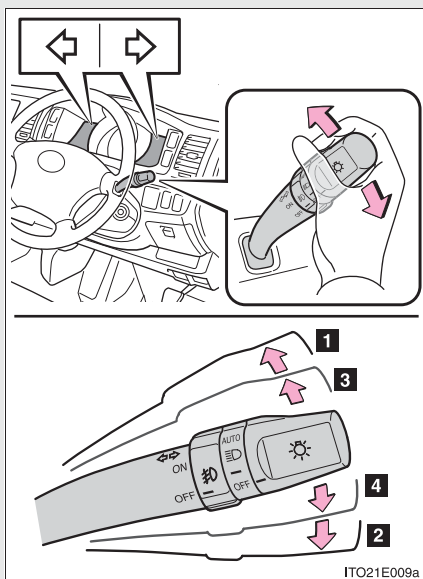
■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示
灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示
灯が点滅します。

知識

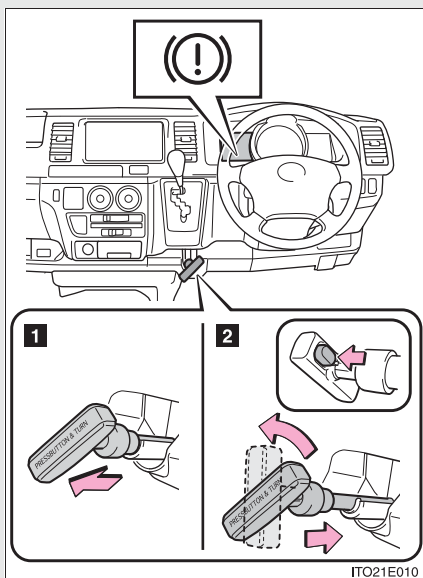
■ 作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ



- 1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- 2 パーキングブレーキを解除するには、レバー裏側にあるボタンを押しながら左にまわし完全に奥までもどす

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 179) の記載を参照してください。

注意

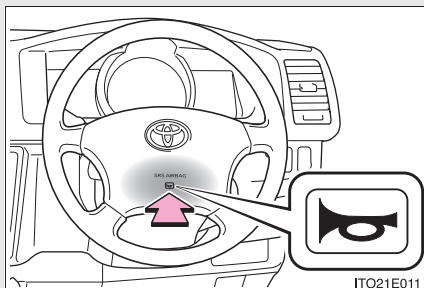
■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



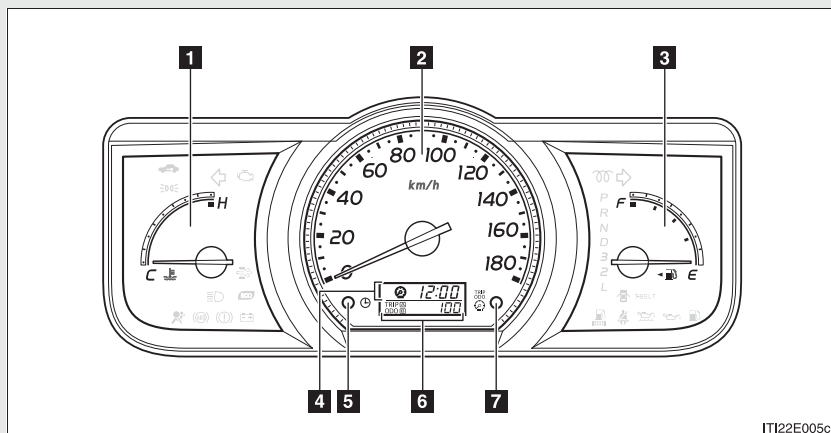
ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。（→P. 81）

▶ アナログメーター



1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 時計

時刻を表示します。

5 時計調整ボタン

時刻を調整します。(→P. 141)

6 オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整表示

メーター照度を調整できます。

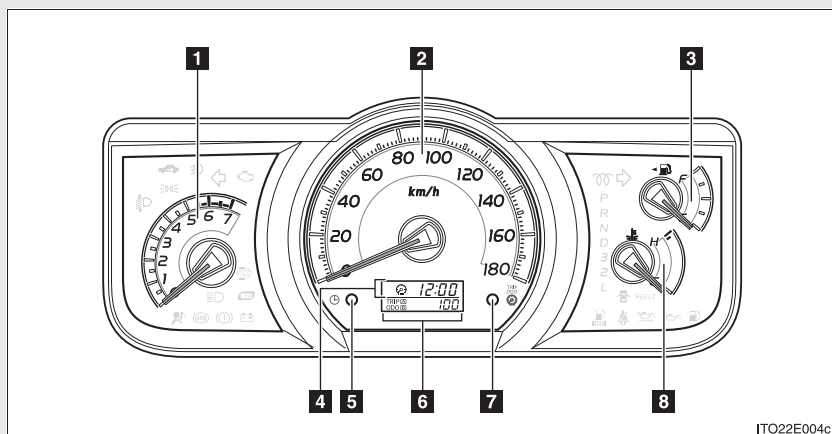
7 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が0にもどります。

(→P. 140)

▶ オプティロンメーター



ITO22E004c

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。(意匠は車種により異なります)

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 時計

時刻を表示します。

5 時計調整ボタン

時刻を調整します。(→P. 141)

6 オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整表示

メーター照度を調整できます。

7 表示切りかえボタン

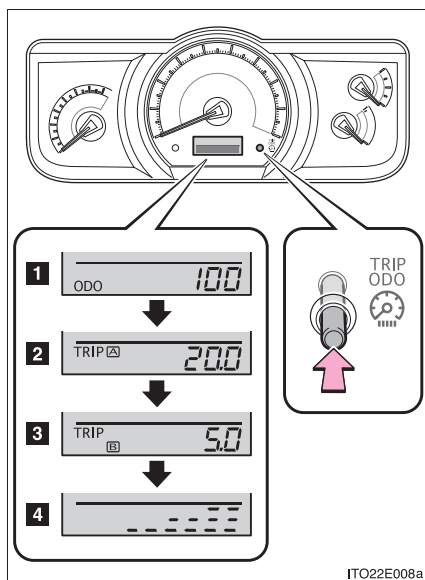
オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が0にもどります。
(→P. 140)

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。



1 オドメーター

2 トリップメーター A ※ 1

3 トリップメーター B ※ 1

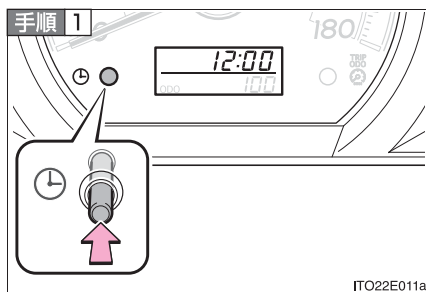
4 メーター照度調整表示 ※ 2

(アナログメーターは、車幅灯点灯時のみ表示されます)

※ 1 押し続けると 0 にもどります。

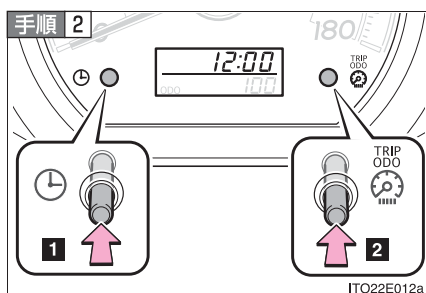
※ 2 押し続けると照度を調整できます。

時計



時間調整ボタンを押し続けて、時刻表示を点滅させる

表示が点滅しているあいだ、時間を設定できます。



時間調整ボタン／表示切りかえボタンを押して時間を設定する

1 時間を進める

2 時間をもどす

ボタンを押し続けると、早送り／早もどしされます。

手順 3 時間の設定後、約 5 秒以上そのままにして設定を確定する
点滅状態が解除され、現在時刻の表示になります。

 知識

■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ **メーター照度の調整について**

▶ アナログメーター

ライトスイッチが ON のとき 4 段階に調整することができます。

▶ オプティロンメーター

ライトスイッチが OFF のとき 4 段階、ON のとき 5 段階に、それぞれ明るさを調整することができます。

■ **時計の作動条件**

● エンジン スイッチが “ ON ” のとき

● アナログメーターはエンジン スイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にしても、約 10 分間は表示が消えません。

■ **時計の正時合わせについて**

時間調整ボタンを短く押すと、正時に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。

● 30 ～ 59 分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

■ **バッテリー端子の脱着をしたとき**

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

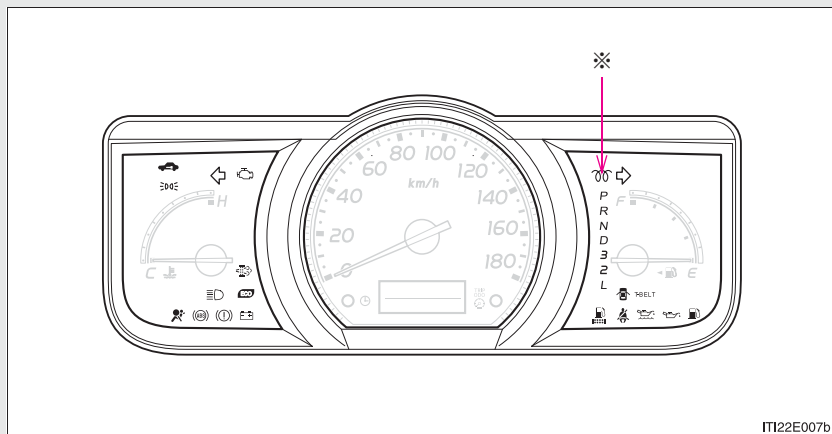
**注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。（オプティロンメーター装着車）
- マニュアル車は、各シフト位置での速度限界（→P. 132）をこえないように走行してください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 351）

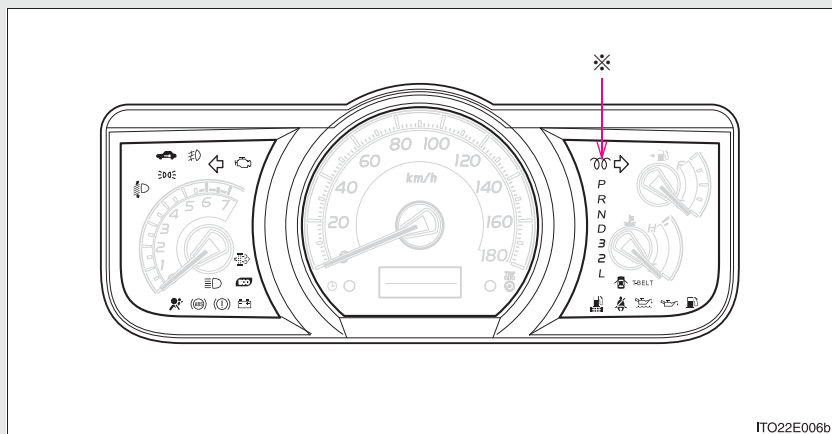
2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ アナログメーター

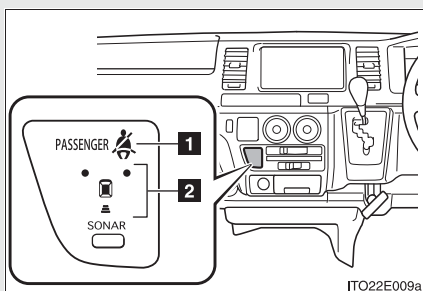


▶ オブティロンメーター



※ 1TR-FE エンジン搭載で寒冷地仕様のオートマチック車は **SNOW**（SNOW 表示灯）になります。

▶ センターパネル（マニュアルエアコン装着車）

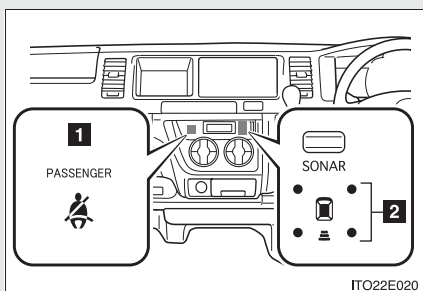


ITO22E009a

1 助手席シートベルト非着用
警告灯*

2 クリアランスソナー表示灯*

▶ センターパネル（オートエアコン装着車）



ITO22E020

1 助手席シートベルト非着用
警告灯*

2 クリアランスソナー表示灯*

イラストは6センサー式の車両で
代表しています。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 133)



SNOW 表示灯*
(→P. 129)



尾灯表示灯
(→P. 148)



セキュリティ表示灯*
(→P. 96)



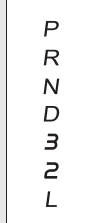
ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 148)



クリアランスソナー表示灯*
(→P. 158)



フロントフォグライト
表示灯* (→P. 151)



シフトポジション表示灯*
(→P. 128)



エコドライブインジケー
ターランプ* (→P. 113)



予熱表示灯*
(→P. 124)

※ 1 作動確認のためにエンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。
(→P. 124)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 321)



※ 1 作動確認のためにエンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 マニュアルエアコン装着車

※ 3 オートエアコン装着車

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを “ ON ” にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

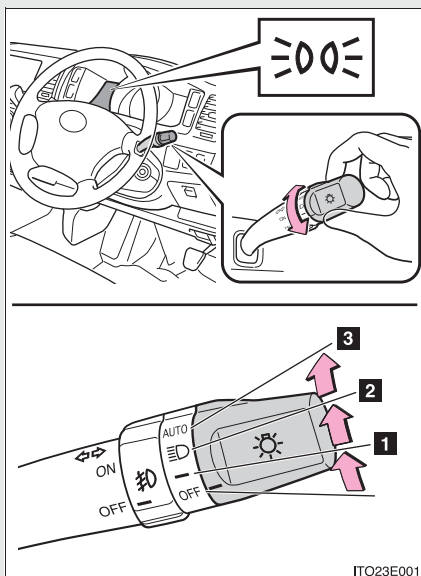
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ

自動*または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

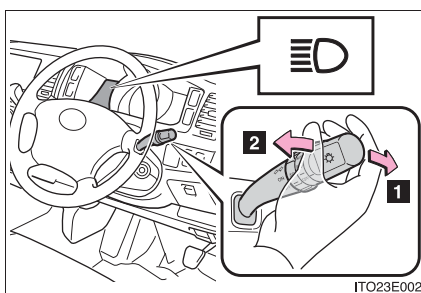
レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。



- 1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- 2 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 3 ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯
(コンライト*装着車)

* コンライトは、エンジン スイッチが“ON”のときに使用できます。

ハイビームにする



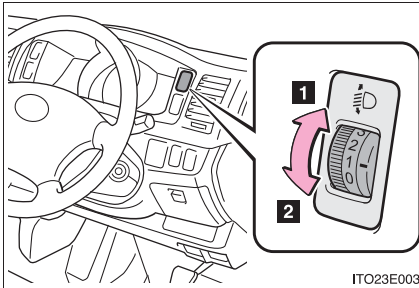
- 1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

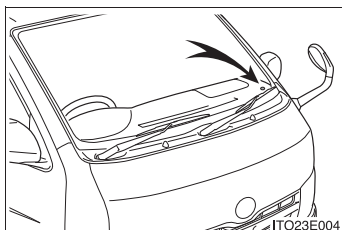
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員および フロント中央席乗員※	ラゲージルーム 満載時	2

※フロント中央席装着車のみ

知識

■ ライトセンサー（コンライト装着車）



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能（コンライト装着車）

ライトスイッチの位置が AUTO でライトが点灯時、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にして運転席ドアを開けると、ヘッドライトと尾灯などが消灯します。再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ ON ”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライト・尾灯が点灯している状態でエンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開けると、ライト類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。（コンライト装着車は、ライトスイッチの位置が AUTO 以外の場合に作動します）

■ オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

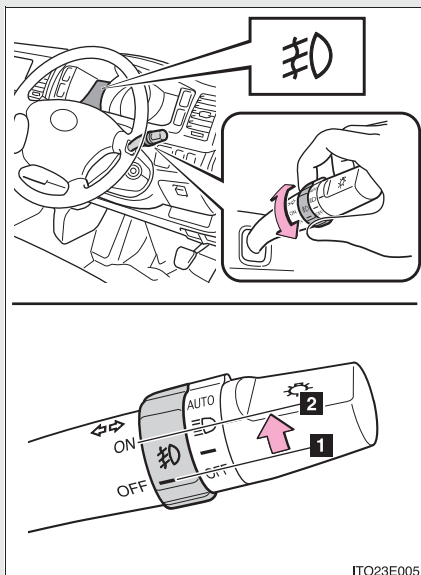
エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグライトスイッチ*



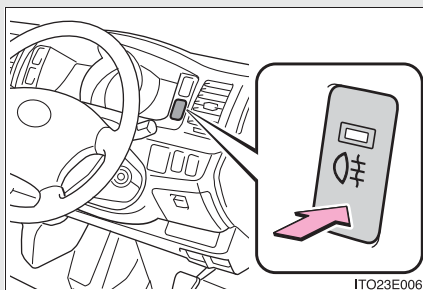
1 消灯する

2 点灯する

ITO23E005

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ リヤフォグライトスイッチ*



ON / OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。

知識

■ 点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：ヘッドライトまたはフロントフォグライト*が点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグライト*について

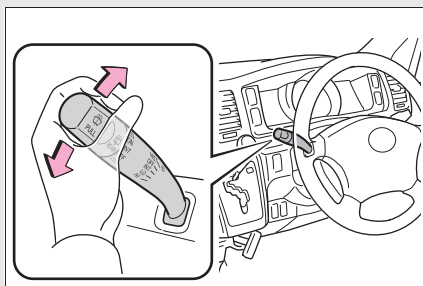
- リヤフォグライトが点灯しているときは、リヤフォグライトスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

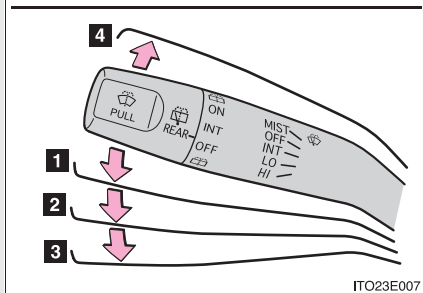
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

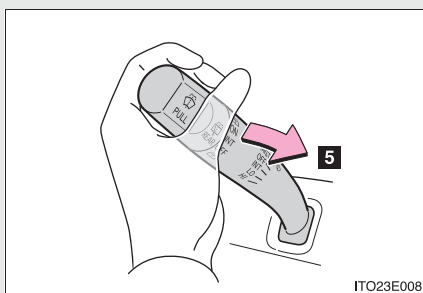
▶ 間欠式ワイパー



- 1 間欠作動（INT）
- 2 低速作動（LO）
- 3 高速作動（HI）
- 4 一時作動（MIST）

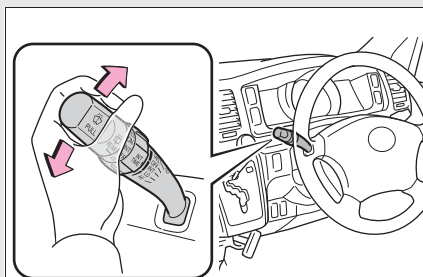


- 5 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

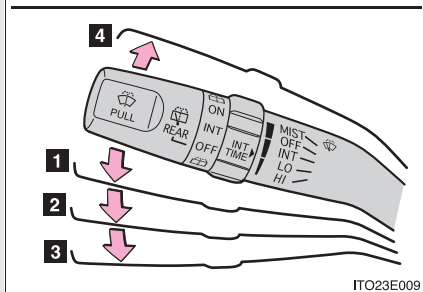


▶ 間欠時間調整式ワイパー

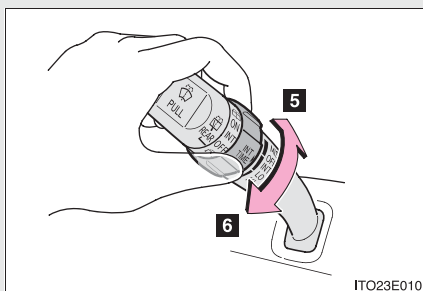
INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

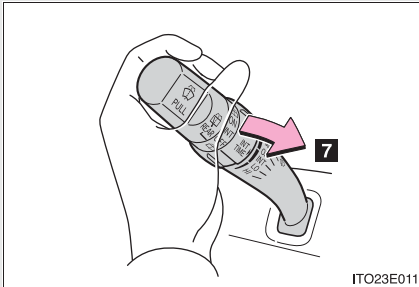


- 1 間欠作動 (INT)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)



- 5 間欠ワイパーの作動頻度(減)
- 6 間欠ワイパーの作動頻度(増)



**7 ウォッシャー液を出す**

ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■ フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

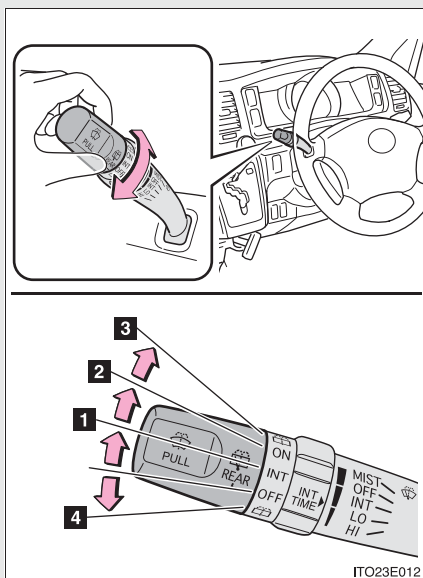
■ ノズルがつまったらときは

ノズルがつまったらときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）*

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。



- 1 間欠作動（INT）
- 2 通常作動（ON）
- 3 ウォッシャー液を出す（ワイパー作動中）
- 4 ウォッシャー液を出す（ワイパー停止中）

知識

■ 作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意**■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

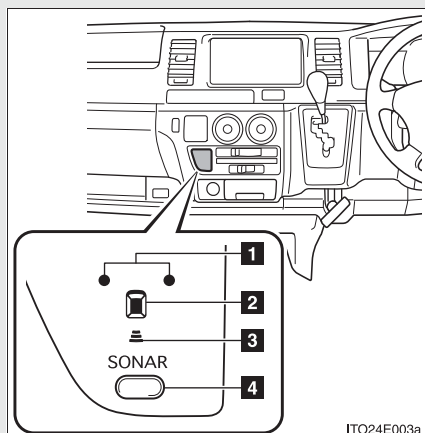
■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クリアランスソナー&バックソナー*

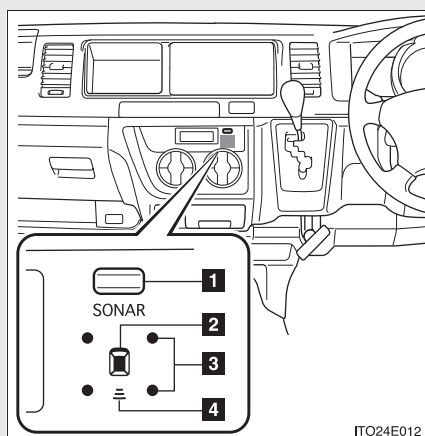
クリアランスソナー&バックソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、インストルメントパネルにある表示灯とブザー音で運転者にお知らせします。

▶ マニュアルエアコン装着車



- 1 クリアランスソナー表示
- 2 作動表示
- 3 バックソナー表示
- 4 メインスイッチ

▶ オートエアコン装着車



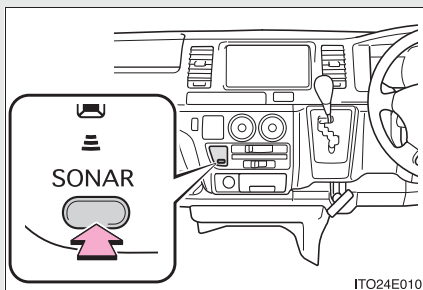
- 1 メインスイッチ
- 2 作動表示
- 3 クリアランスソナー表示※
- 4 バックソナー表示

※リヤ側のクリアランスソナー表示は、6 センサー式の車両のみ装着されます。

* : 車両型式で異なる装備やオプション装備

■ 使用するとき

▶ マニュアルエアコン装着車



ITO24E010

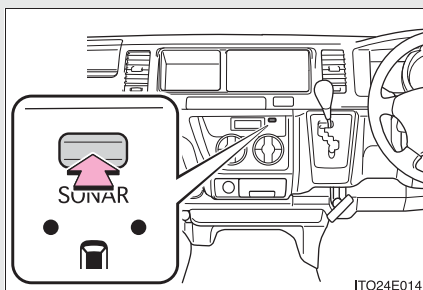
メインスイッチを押す

作動表示が点灯します。

同時に、約 1 秒間クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯し、ブザーが鳴ります。

再度押すと解除され、作動表示が消灯します。

▶ オートエアコン装着車



ITO24E014

メインスイッチを押す

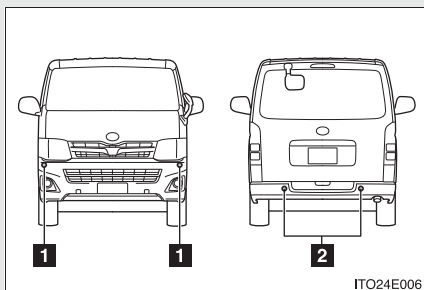
作動表示が点灯します。

同時に、約 1 秒間クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯し、ブザーが鳴ります。

再度押すと解除され、作動表示が消灯します。

■ センサーの位置・種類

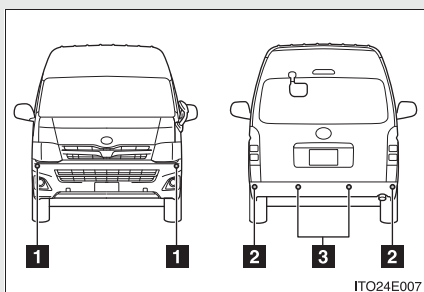
▶ 4 センサー式



1 フロントコーナーセンサー

2 バックセンサー

▶ 6 センサー式



1 フロントコーナーセンサー

2 リヤコーナーセンサー

3 バックセンサー

障害物に近付いたときの表示灯・ブザー音の変化

クリアランスソナー&バックソナーが作動したとき、障害物と車両との
おおよその距離を表示灯・ブザー音の変化でお知らせします。

■ コーナーセンサー

障害物までの おおよその距離	距離表示		ブザー音
	4 センサー式	6 センサー式	
約 50 ～ 37.5 cm	 (点滅)	 (点滅)	ピッピッピッ (断続音)
約 37.5 ～ 25 cm	 (速い点滅)	 (速い点滅)	ピピピピ (速い断続音)
約 25 cm 以下	 (点灯)	 (点灯)	ピー (連続音)

■ バックセンサー

▶ 4 センサー式

障害物までの おおよその距離	距離表示	ブザー音
約 150 ～ 100cm	 (点滅)	ピッピッピッ (断続音)
約 100 ～ 70cm	 (速い点滅)	ピピピピ (速い断続音)
約 70cm 以下	 (点灯)	ピー (連続音)

▶ 6 センサー式

障害物までの おおよその距離	距離表示	ブザー音
約 150 ～ 60cm	 (遅い点滅)	ピッ ピッ (遅い断続音)
約 60 ～ 45cm	 (点滅)	ピッピッピッ (断続音)
約 45 ～ 35cm	 (速い点滅)	ピピピピ (速い断続音)
約 35cm 以下	 (点灯)	ピー (連続音)

障害物を複数箇所で同時に感知したとき

障害物を複数箇所で同時に感知したときは、次のようにブザー音がかわります。

■ 障害物をフロントコーナースナークまたはリヤコーナースナーク※で感知しているとき

- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピ ピー」を繰り返します。
- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位でもブザー連続音作動領域に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」を繰り返します。

※ 6 センサー式の車両のみ

■ 障害物をバックソナークで感知しているとき

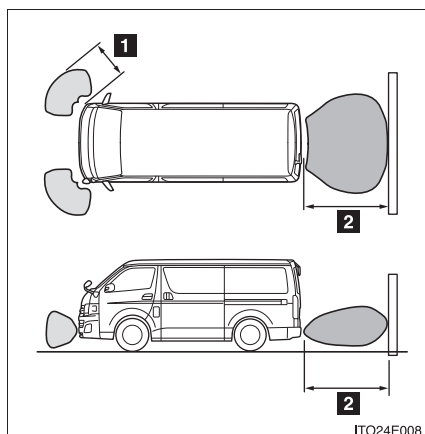
- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピ ピー」を繰り返します。
- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位でもブザー連続音作動領域に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」を繰り返します。

障害物を感知できる範囲

感知できる範囲は次のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

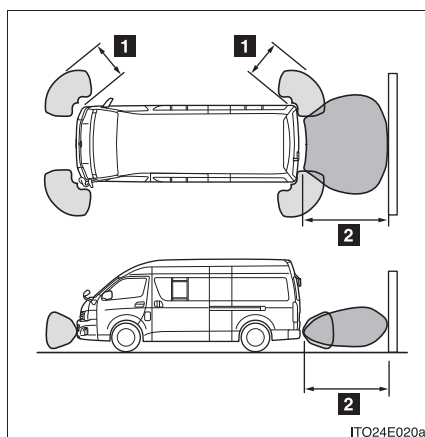
障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや感知できないことがあります。

▶ 4 センサー式



- 1 約 50cm
- 2 約 150cm

▶ 6 センサー式



- 1 約 50cm
- 2 約 150cm

 知識

■ 作動条件

メインスイッチが ON で、それぞれ次の条件がすべて満たされているときに作動します。

▶ フロントコーナーセンサー：

- エンジン スイッチが “ ON ” のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき（オートマチック車）
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき

▶ リヤコーナーセンサー※・バックセンサー：

- エンジン スイッチが “ ON ” のとき
- シフトレバーが R にあるとき

※ 6 センサー式の車両のみ

■ クリアランスソナー&バックソナーの異常表示・警報

障害物を感知していないときに、ソナーの異常が発生した場合は、クリアランスソナー表示灯が点滅すると同時に、異常を知らせるブザーが約 7 秒間鳴ります。（→P. 322, 324）

いったん異常が検知されると、エンジン スイッチが “ ON ”、およびメインスイッチ（→P. 158）が ON のとき、異常が解消されるまで常に異常表示されたままになります。

■ オーディオ（装着車のみ）・エアコンの使用時は

音楽やファンの音などにより、クリアランスソナー&バックソナーのブザー音が聞きとりづらくなる場合があります。

⚠ 警告**■ 使用時の注意**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- ソナーの感知範囲・作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。（また、制動距離は雨・砂利などの路面状況により変化するため注意してください）
 - ・ ソナーの感知範囲は車両コーナー部（4 センサー式はフロント側のみ）と後部のバンパー周辺に限られます。
 - ・ 障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。
 - ・ 障害物の感知後、表示灯が作動してブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。極低速走行時でも、表示灯が作動してブザーが鳴る前に、障害物まで約 25 cm 以内（バックソナーは約 70 cm ※以内）に接近するおそれがあります。

※ 6 センサー式は約 35cm

- ソナーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けしないでください。クリアランスソナー & バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 異常表示（→P. 322, 324）が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ センサーについて

次のとき、クリアランスソナー&バックソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などでふさいだとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などの物体によっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 警告**■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ 使用時の注意**

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- メインスイッチを ON にしてもブザーが鳴らないとき
- 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。



■ ABS・ブレーキアシストの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪で覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、指定のメーカー・ブランド・トレッドパターン(溝模様)のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 367)
異なったタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

- 一般走行では数百 km[※]走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。
- 排出ガス浄化装置スイッチ装着車は、ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。

※気候や走行状況等により異なります。

排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは

- ▶ 排出ガス浄化装置スイッチ非装着車
すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P. 176）

- ▶ 排出ガス浄化装置スイッチ装着車

排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の （排出ガス浄化装置警告灯）が点滅したときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

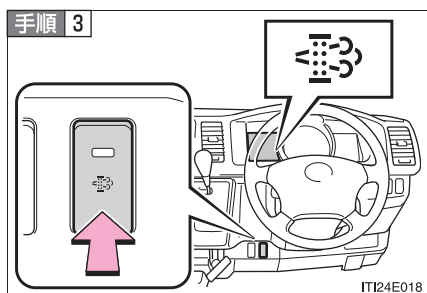
手順 1 車を安全な場所に停車する

手順 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にする

エンジンは停止しないでください。

また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。

（→P. 175）



スイッチを押す

スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置警告灯が点滅から点灯にかわり、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分※程度の時間が必要です。

排出ガス浄化装置警告灯が消灯して、アイドリング回転数がもとにもどれば終了です。

※外気温により異なります。

 知識

■ **排出ガス浄化装置について**

- 排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。
 - ・ 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
 - ・ 従来のディーゼル車とは排気ガスの臭いが異なる
 - ・ 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
 - ・ 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
 - ・ 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある
- 走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドルストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置警告灯が点滅する場合があります。

■ **手動操作での燃焼処理について（排出ガス浄化装置スイッチ装着車）**

- 排出ガス浄化装置スイッチを押したあとは、オートマチック車はアクセルペダルを、マニュアル車はアクセルペダル・クラッチペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

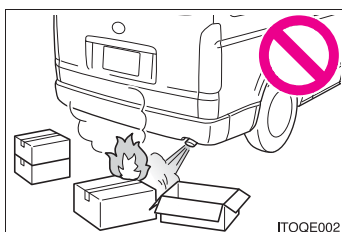
■ **エンジンオイルについて**

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→P. 360）

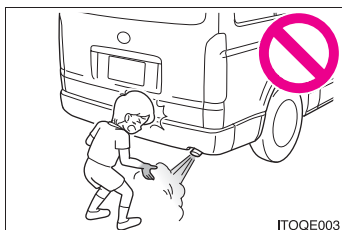
警告

■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。



- 排気管周辺に燃えやすいものを置かない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する

- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない
（排出ガス浄化装置スイッチ装着車）
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない



注意

■ 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは

- 排出ガス浄化装置スイッチ非装着車：
すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告灯が点滅したまま走行を続けると、排出ガス浄化装置の故障につながります。
- 排出ガス浄化装置スイッチ装着車：
点滅開始してから、約 50km 走行以内に排出ガス浄化装置スイッチを押して、燃焼処理をしてください。警告灯が点滅したまま走行を続けると、排出ガス浄化装置の故障につながります。
- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯し、排出ガス浄化装置警告灯も点灯にかわります※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※このときは、排出ガス浄化装置スイッチが機能しなくなります。
(排出ガス浄化装置スイッチ装着車)

■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

2-5. さまざまな状況での運転

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物は荷室に積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、クラッチペダル*・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・フロント中央席*・リヤ席*（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- セパレーターバーを取りはずした状態で、荷室に荷物を絶対に積まないでください。(セパレーターバー装着車)
急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。また、セパレーターバーを取りはずしたまま走行すると、違法改造になります。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- ・ エンジンオイル
- ・ 冷却水
- ・ ウォッシャー液
- ・ 燃料（ディーゼル車）

- バッテリーの液量・比重を点検してください。

- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

（タイヤについて：→P. 267）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止めをしてください。(→P. 328)

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■ ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2号軽油	－ 5℃
JIS 3号軽油	－ 12℃
JIS 特3号軽油	－ 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

マニュアルエアコン	186
オートエアコン	192
リヤクーラー	199
リヤヒーター	202
パワーヒーター	204
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り)	206

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類	207
ラジオの使い方 (AM / FM ラジオ)	209
ラジオの使い方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	212
CD プレーヤーの使い方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	214
MP3 / WMA ディスクの 聞き方 (CD プレーヤー& AM / FM ラジオ)	220
快適に聞くために	227
アンテナ	230

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	231
・ フロント	
・ パーソナルライト	232
・ ルームライト	233

3-4. 収納装備の使い方

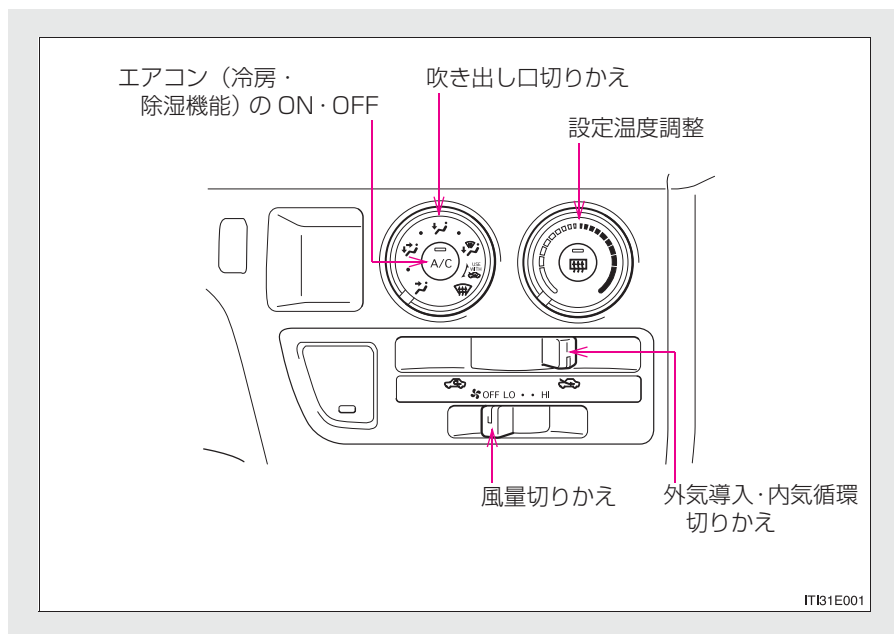
収納装備一覧	235
・ グローブボックス	237
・ センター	
・ コンソールボックス	238
・ シートバックコンソール	240
・ カップホルダー	242
・ ボトルホルダー	244
・ 運転席小物入れ	246
・ オープントレイ	247

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	250
バニティミラー	251
灰皿	252
シガレットライター	253
アクセサリーコンセント	254
フロアマット	256
荷室内装備	258

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

マニュアルエアコン*



エアコンの設定

■ 基本設定

手順 1 ファンを作動開始する、または風量を調整するには、ファン調整レバーを右（増）か左（減）へ操作する

風量は 4 段階に調整できます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには、 を押します。（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

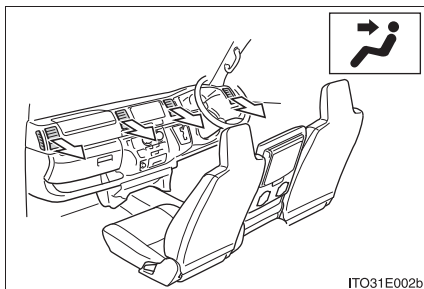
送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

手順 2 温度をかえるには、温度調整ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

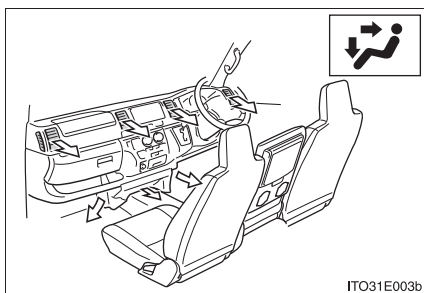
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

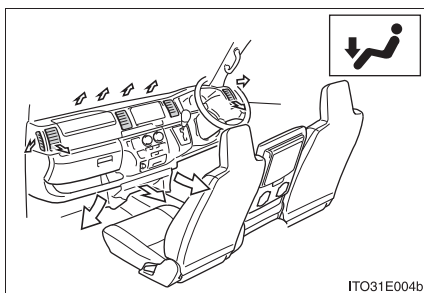
ノブの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。



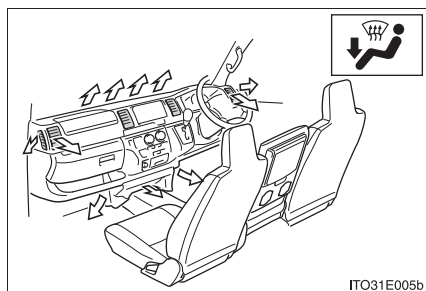
上半身に送風



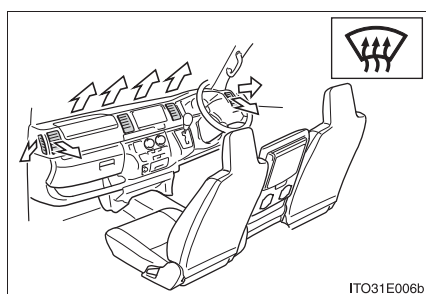
上半身と足元に送風



足元に送風



足元に送風・ガラスの曇りを取る
内外気切りかえレバーを  の位置にして使用します。



ガラスの曇りを取る
内外気切りかえレバーを  の位置にして使用します。

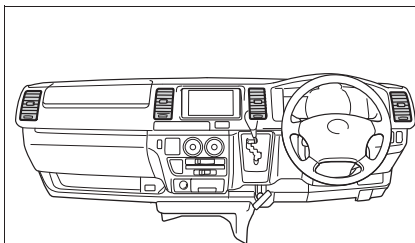
 を押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを左右に動かす

内気循環にするには、レバーの位置を  にします。

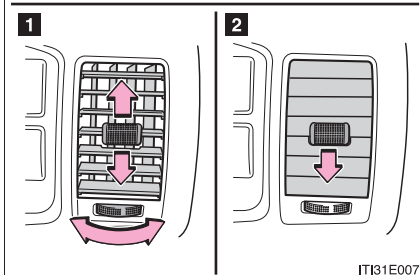
外気導入にするには、レバーの位置を  にします。

風向きの調整と吹き出し口の開閉**1 風向きの調整**

ノブ・ダイヤルを操作して、上下左右に風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。



知識

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口であり、温度調整の設定によっては、足元には、上半身に送風される風よりも暖められた風が送風されます。

■ 外気温度が 0℃以下のとき



を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ PTC ヒーター*

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 温度調整ダイヤルをいちばん右（暖）にまわしたとき
- エンジン冷間時

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ フロントガラスの曇りを防止するために**

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

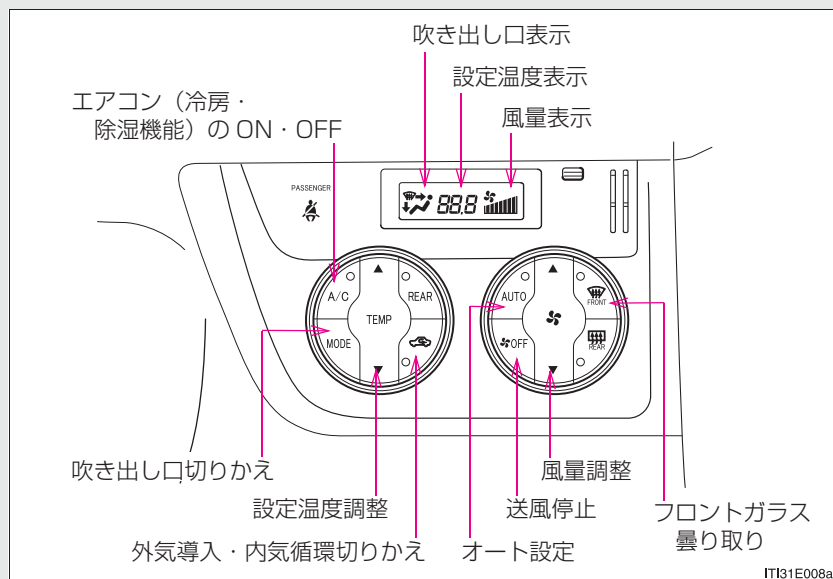
 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン*

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



ITI31E008a

オート設定で使うとき

手順 1



を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

エアコン（冷房・除湿機能）のON・OFFを切りかえるには  を押します。（押すたびに機能のON・OFFが切りかわります）

手順 2

設定温度を上げるときは



の“▲”側を、下げるときは

“▼”側を押す

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ 基本設定

手順 1 風量をかえるには、



の“▲”（増）側か“▼”（減）側を押す

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには  を押します。（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

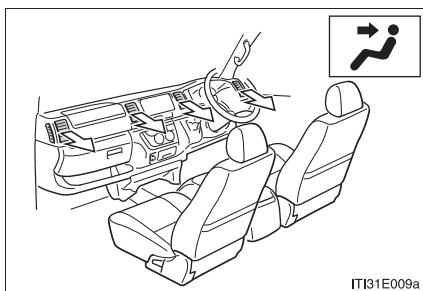
送風を止めるときは  を押します。

手順 2 設定温度をかえるには、温度を上げるときは  の“▲”側を、下げるときは“▼”側を押す

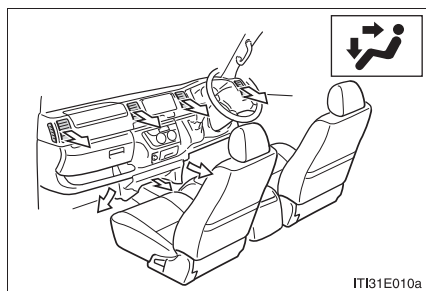
手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

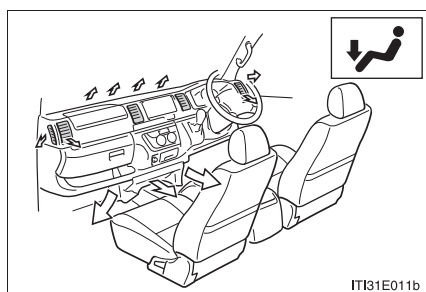
選択した吹き出し口に従って次のよう送風されます。



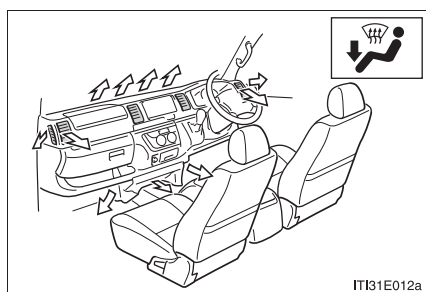
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

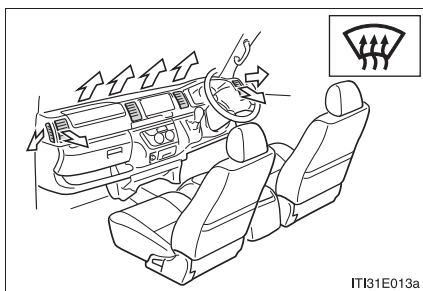


を押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

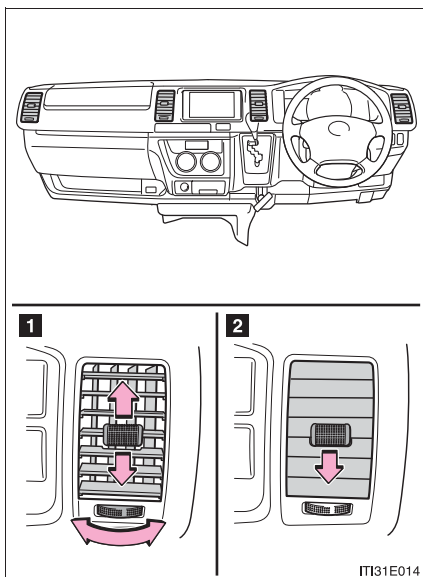


を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度  を押すと、
前のモードにもどります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉



1 風向きの調整

ノブ・ダイヤルを操作して、上下左右に風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ フロントガラスの曇りを取るとき

外気温によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が0℃以下のとき

 を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭を抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭を抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーター*

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

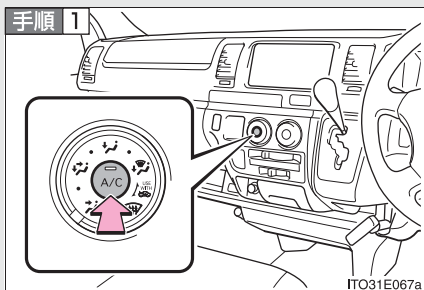
リヤクーラー*

後部座席付近を冷房することができます。

■ リヤクーラーを使用する前に

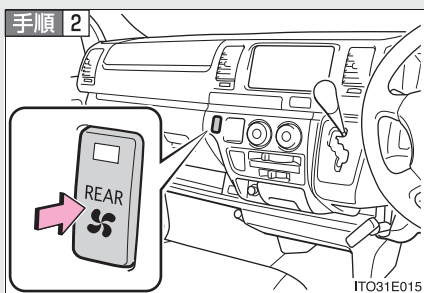
フロントエアコンのエアコン（冷房・除湿機能）スイッチが ON になっていることを確認し、リヤクーラーメインスイッチを ON にしてください。

▶ マニュアルエアコン装着車



 が ON になっていることを確認する（→P. 186）

 が OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

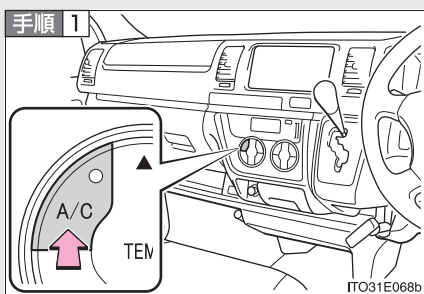


 を押す

押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。
（ON のときは作動表示灯が点灯します）

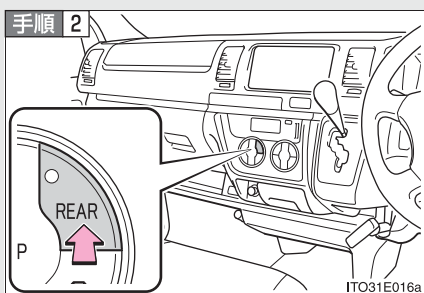
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ オートエアコン装着車



 が ON になっていることを確認する (→P. 192)

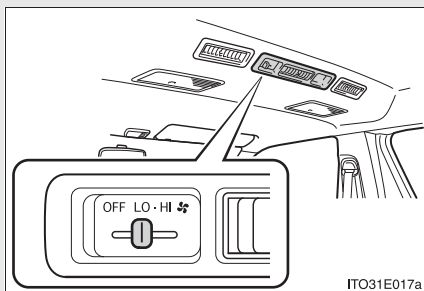
 が OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。



 を押す

押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。
(ON のときは作動表示灯が点灯します)

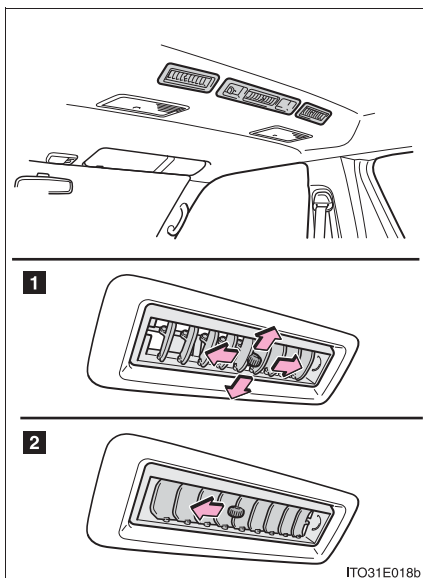
■ リヤクーラーを使用するには



ファン調整レバーを右 (増) か左 (減) に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

風向きの調整と吹き出し口の開閉



1 風向きの調整

ノブを上下左右に動かして、風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで左に動かします。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤクーラーを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

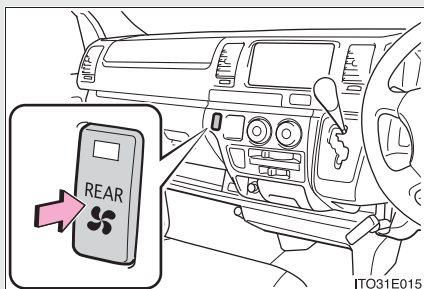
リヤヒーター*

車内の後方部分を暖房することができます。

■ リヤヒーターを使用する前に

リヤヒーターメインスイッチを ON にしてください。

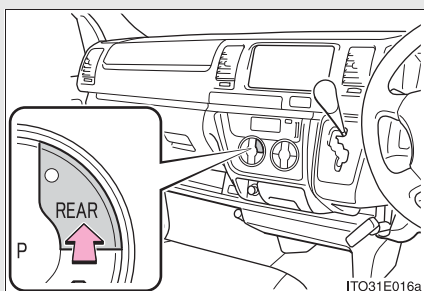
▶ マニュアルエアコン装着車



を押す

押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

▶ オートエアコン装着車



を押す

押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤヒーターを使用するには



ファン調整レバーを上（増）か下（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーをOFFの位置にします。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

パワーヒーター*

車両の暖房機能を補助する装置です。

■ パワーヒーターの機能について

次の 2 つの機能により、寒冷時の暖房効果を高めます。

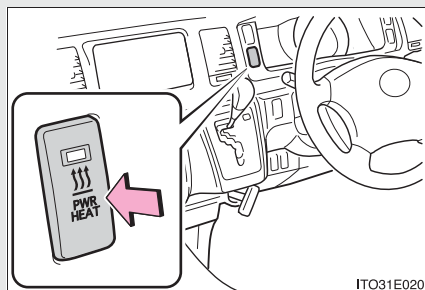
● アイドルアップ機能

エンジンが冷えているときにアイドル回転数が上がり、暖房効果を高めます

● ホットガスヒーター機能

エアコン装置を利用する補助ヒーターです。作動条件が満たされているとき、自動的に働きます。

■ パワーヒーターを使用するには



パワーヒータースイッチを押す
押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ ホットガスヒーター機能の作動条件

パワーヒータースイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、自動で作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき（約 3 ～ 5 ℃以下）

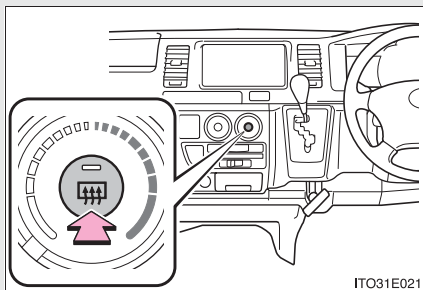
■ ホットガスヒーター機能の制限事項

- エアコン（冷房・除湿機能）が ON だと、ホットガスヒーター機能が作動しにくくなります。
- - 30 ℃を下まわるような極寒時には作動しません。

リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）*

リヤウインドウの曇りを取る時にご使用ください。

▶ マニュアルエアコン装着車

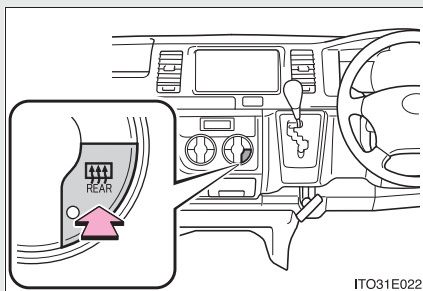


ITO31E021

ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォグガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

▶ オートエアコン装着車



ITO31E022

ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォグガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■ 作動条件

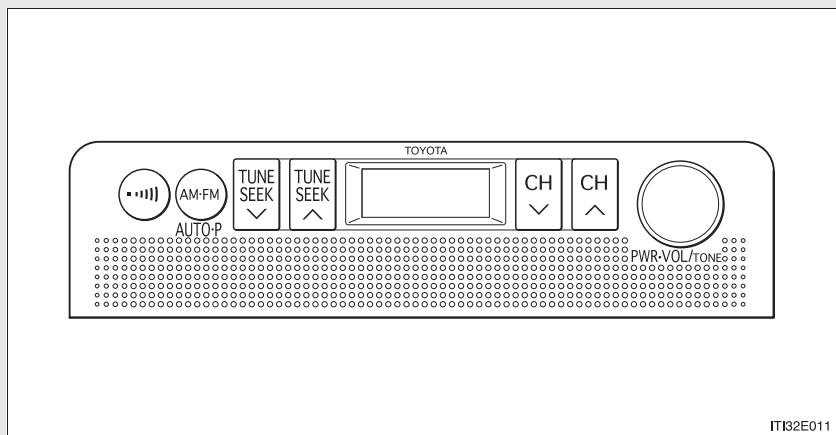
エンジン スイッチが “ON” のとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

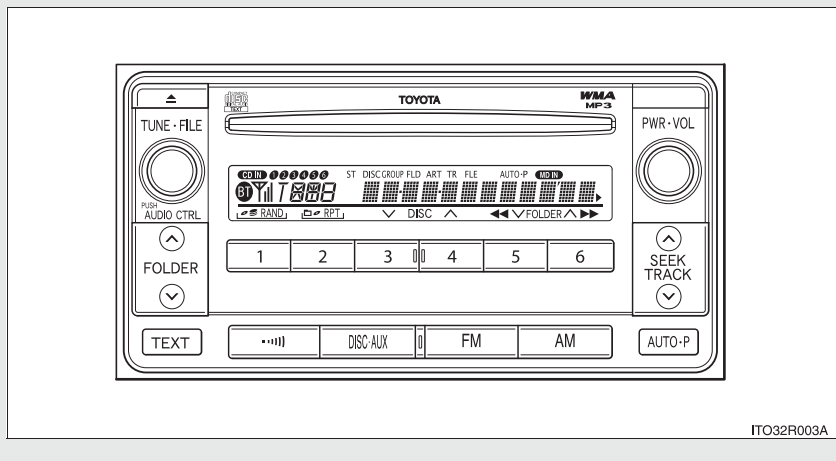
3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類

▶ AM / FM ラジオ *



▶ CD プレーヤー & AM / FM ラジオ *



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方 (AM / FM ラジオ)	P. 209
ラジオの使い方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)	P. 212
CD プレーヤーの使い方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)	P. 214
MP3 / WMA ディスクの聞き方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)	P. 220
快適に聞くために	P. 227
アンテナ	P. 230

 知識

■ 携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

 注意

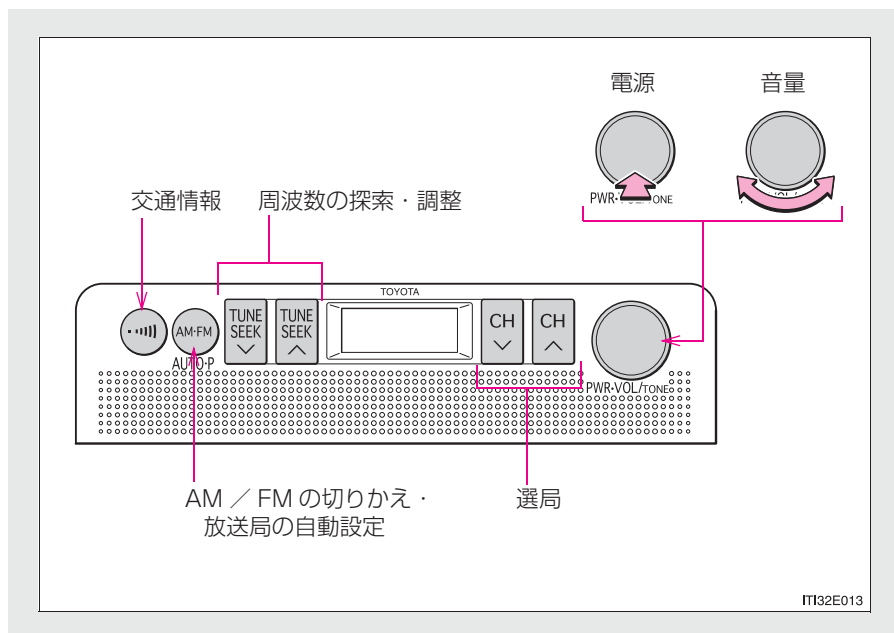
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■ オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方 (AM / FM ラジオ)



放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1



(高い周波数)、または



(低い周波数) を押して、

お好みの放送局を探す

手順 2



または



を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

チャンネルの表示が点滅します。

手順 3



または



を押して記憶させたいチャンネルを選択する

AM・FM 各 6 局まで記憶させることができます。

手順 4



または



を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

点滅していたチャンネル表示が通常表示にもどります。

■ 自動設定



を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

AUTO-P

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する



を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ 交通情報について

- 新車時は、1620kHz にセットしてあります。

- AM ラジオモードのとき、 を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

と、その周波数を変更することができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

-  を押してラジオを受信しているときは、  ・  

を操作しても周波数は切りかわりません。

■ バッテリーとの接続が断たれたときは

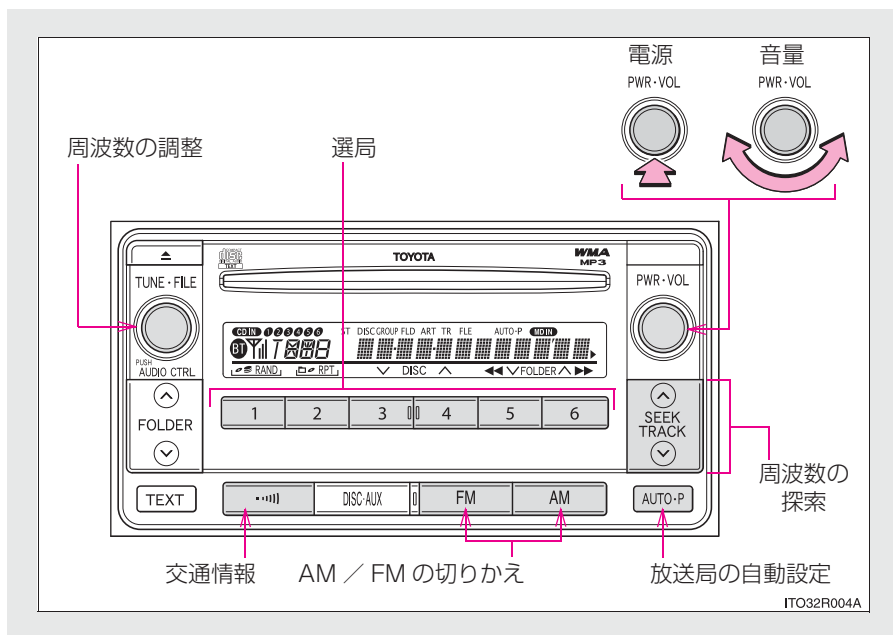
  に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

- アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。
- 放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。
- アンテナについては、P. 230 を参照してください。

3-2. オーディオの使い方

ラジオの使い方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)



放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1  をまわす、または  の “Λ” (高い周波数) 側、

または “V” (低い周波数) 側を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ  ~  を “ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

AM・FM 各 6 局まで記憶させることができます。

■ 自動設定

 を “ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると、“ピッピッ” と音が鳴ります。

交通情報を受信する

 を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ 交通情報について

- 新車時は、1620kHz にセットしてあります。
- AM ラジオモードのとき、 を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を変更することができます。

-  を押してラジオを受信しているときは、



 ～  ・  を操作しても周波数は切りかわりません。

■ バッテリーとの接続が断たれたときは

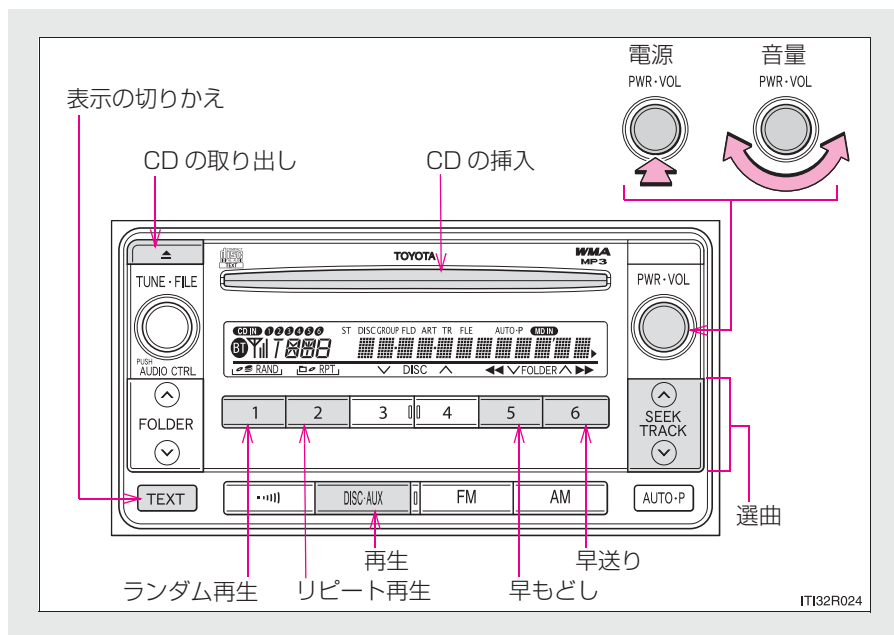
 ～  に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

- アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。
- 放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。
- アンテナについては、P. 230 を参照してください。

3-2. オーディオの使い方

CD プレーヤーの使い方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)



CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

 を押して CD を取り出す

曲を選ぶ



の “^” (次曲) 側、または “V” (前曲) 側を押して、聞きたい

曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどしするときは  (◀◀) を、早送りするときは、 (▶▶) を押し続ける

リピート (RPT) 再生する

 (RPT) を押す

ランダム (RAND) 再生する

 (RAND) を押す

表示を切りかえる

 を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合、 を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

 をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作しないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度  (RAND) または  (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ ERROR ” : ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■ 再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。

記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。



コピープロテクト機能付 CD などとは使用できません。

■ CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■ CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

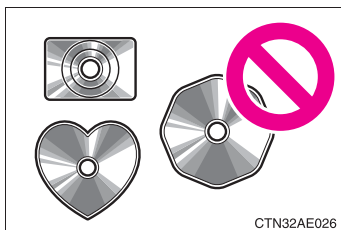
■ レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

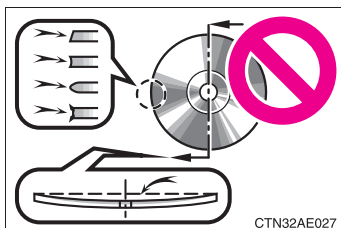
注意

■ 使用できない CD ・ アダプター

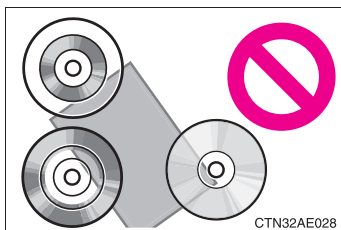
次のような CD ・ 8cmCD アダプター ・ DualDisc を使用しないでください。
使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



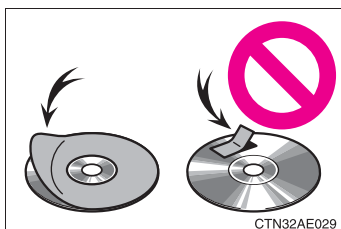
● 直径 12cm または 8cm の円形以外の CD



● 低品質または変形している CD



● 記録部分が透明または半透明の CD



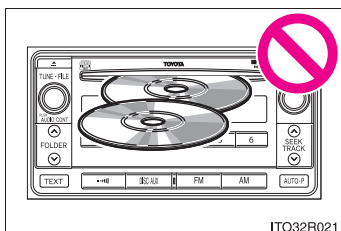
● セロハンテープ ・ シール ・ CD-R 用ラベル
などを貼った CD や、はがしたあとのある
CD

 注意

■ CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

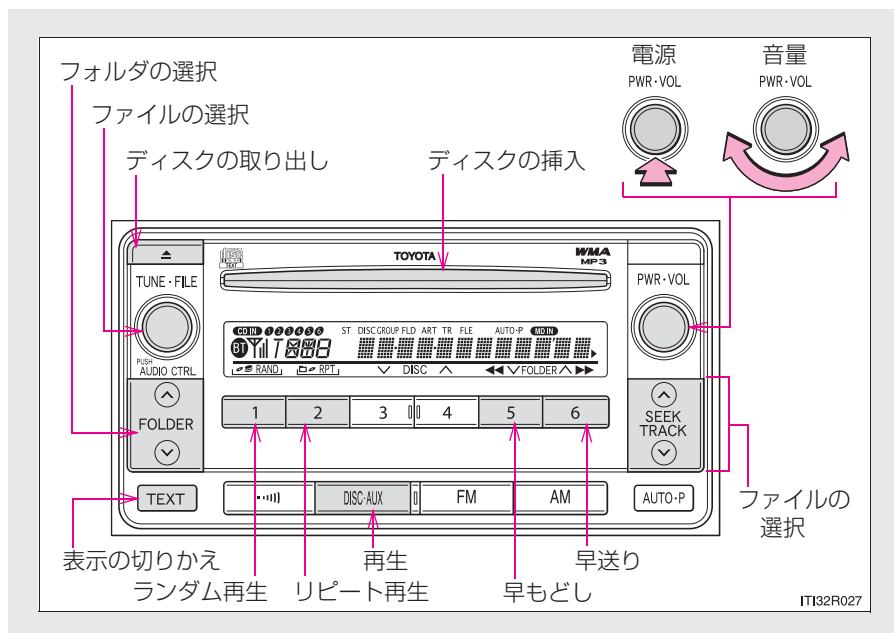
- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 一度に2枚以上のCDを挿入しない



ITO32R021

3-2. オーディオの使い方

MP3 / WMA ディスクの聞き方 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)



MP3 / WMA ディスクを挿入する、または取り出す

挿入口にディスクを 1 枚挿入する。ディスクを取り出すときは  を押す

早もどし・早送りする

早もどしするときは  (◀◀) を、早送りするときは  (▶▶) を押し続ける

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

■ 次フォルダを選ぶ



の“Λ”側を押す

■ 前フォルダを選ぶ



の“V”側を押す

最初のフォルダにもどるには、の“V”側を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けます。

ファイルを選択する



をまわして、または の“Λ”（次ファイル）側、または“V”（前ファイル）側を押して、聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ ファイルをくり返して再生する



（RPT）を押す

■ フォルダをくり返して再生する



（RPT）を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する



（RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する



（RAND）を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

表示を切りかえる

 を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名
→ ディスクタイトル (MP3 のみ) → 曲名 → アーティスト名

知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

フォルダ番号・フォルダタイトル・ファイル名などが 13 文字以上の場合、

 を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

 をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作しないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度  (RAND) または  (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ERROR” : ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC” : ディスク内に MP3 / WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■ 再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。

記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。



■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■ディスクをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のまま長時間放置すると

ディスクが傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 / WMA ファイルについて

MP3 (MPEG Audio LAYER3) は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA (Windows Media Audio) は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。

使用できる MP3 / WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

- ・ 対応規格
MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
- ・ 対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3 : 32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3 : 16、22.05、24 (kHz)
- ・ 対応ビットレート
MPEG1 LAYER3 : 64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3 : 64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
- ・ 対応チャンネルモード : ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

- ・ 対応規格
WMA Ver.7、8、9
- ・ 対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
- ・ 対応ビットレート
Ver.7、8： CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9： CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3 / WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。

CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは次のとおりです。

- ・ ディスクフォーマット： CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
- ・ ファイルフォーマット： ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3 / WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

- ・ 最大ディレクトリ階層： 8 階層
- ・ 最大フォルダ名 / ファイル名文字数： 半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
- ・ 最大フォルダ数： 192（ルート含む）
- ・ ディスク内最大ファイル数： 255

●ファイル名について

MP3 / WMA と認識し再生するファイルは、MP3 / WMA の拡張子 “.mp3” または “.wma” が付いたものだけです。

- マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3 / WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

- ID3 タグ / WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができます。曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができます。ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

- MP3 / WMA の再生について

MP3 / WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 / WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 / WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

- 拡張子について

MP3 / WMA 以外のファイルに“.mp3”または“.wma”の拡張子が付いていると、MP3 / WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

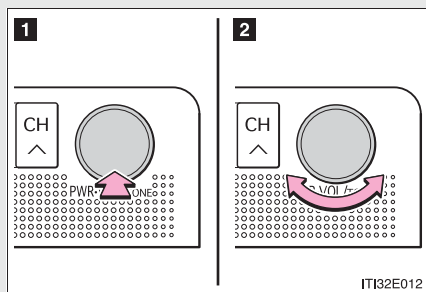
- ・ 安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
- ・ CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
- ・ MP3 / WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
- ・ ディスクに MP3 / WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

- 使用できない CD ・ アダプター (→P. 218)
- CD プレーヤーの取り扱いについて (→P. 219)

3-2. オーディオの使い方 快適に聞かために

▶ AM / FM ラジオ



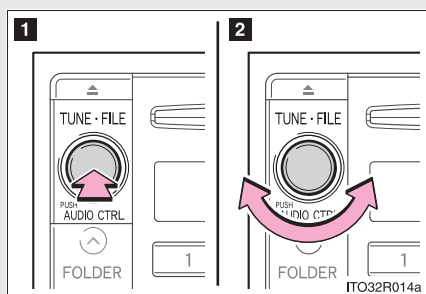
- 1**  を“ピッ”と音がするまで押し続ける

“TONE”の文字が表示部に出現します。

- 2**  をまわして、音質を調整する

左にまわすと低音が強調され、右にまわすと高音が強調されます。

▶ CD プレーヤー & AM / FM ラジオ



- 1**  を押して、調整したいモードを表示させる

- 2**  をまわして、音質と音量バランスの設定を変更する (→P. 228)

最適な音質と音量バランスで聞かために設定を変更することができます。

設定を変更するには（CD プレーヤー & AM / FM ラジオ）

■ 調整モードの切りかえ



を押すごとに、次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → EQ

■ 音質・音量バランスの調整



をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量 バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BAS	－ 5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	－ 5 ～ 5		
左右音量 バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大
音場	EQ	OFF	右へまわす OFF ↔ 1 COMPACT ↔ 2 SEDAN ↔ 3 MINIVAN 左へまわす	
		1 COMPACT		
		2 SEDAN		
		3 MINIVAN		

※ 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■音場調整について

代表的な 3 つの室内空間 [コンパクト (小)・セダン (中)・ミニバン (大)] に適した音場パターンが搭載されています。

お客様の好みに応じて、OFF を含む 4 つの音場パターンから選択することができます。

■SRS Labs, Inc. の登録商標 (CD プレーヤー & AM / FM ラジオ)



本製品は AM ラジオモードを除き、SRS Labs, Inc. の SRS FOCUS™、SRS TruBass® の技術を使用しています。

FOCUS、TruBass、SRS と  記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。

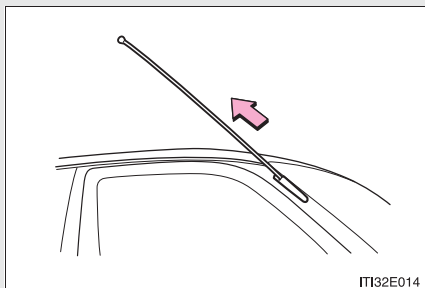
FOCUS、TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

SRS FOCUS™ は、最適な位置に設置されていないスピーカーからの音像を耳の位置まで持ち上げて、違和感なく自然に聴くことができます。

SRS TruBass® は、どのようなサイズのスピーカーからでも、深く豊かな低音を再生することができます。

3-2. オーディオの使い方

アンテナ



ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。

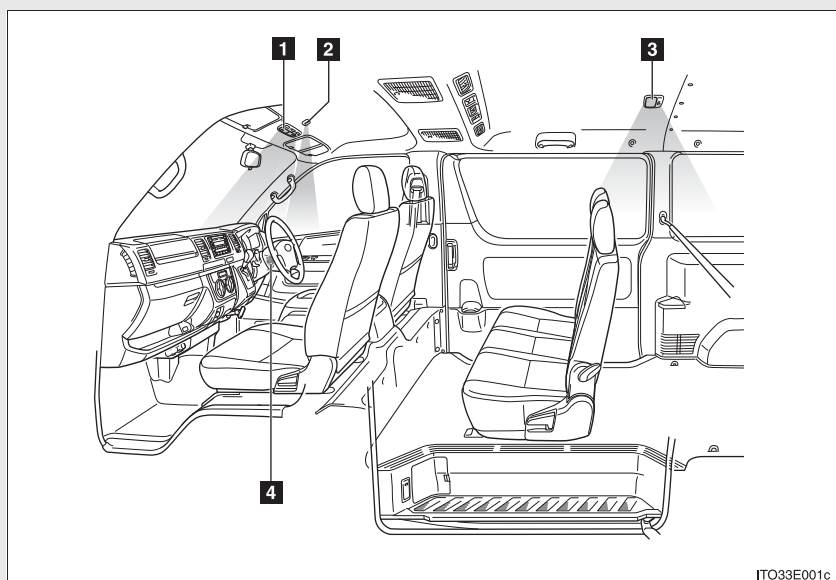
注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

室内灯一覧



イラストはスーパー GL で代表しています。

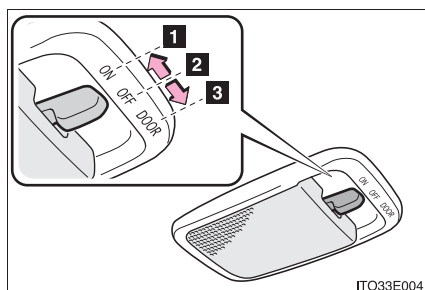
- 1** フロントパーソナルライト (→P. 232)
- 2** センターコンソール照明 (LED ダウンライト) *※¹
- 3** ルームライト※² (→P. 233)
- 4** エンジン スイッチ照明

※¹ ライトスイッチが ON のとき点灯します。

※² ルームライトの数は車種により異なります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルライト（標準タイプ）

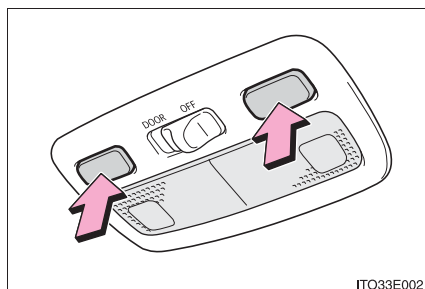


- 1 ライトを点灯する
- 2 ライトを消灯する
- 3 フロントドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

ITO33E004

フロントパーソナルライト（大型タイプ）

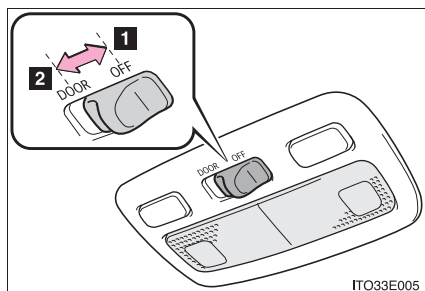
■ 独立スイッチでの操作



ライトを点灯・消灯する

ITO33E002

■ フロントドア連動スイッチでの操作



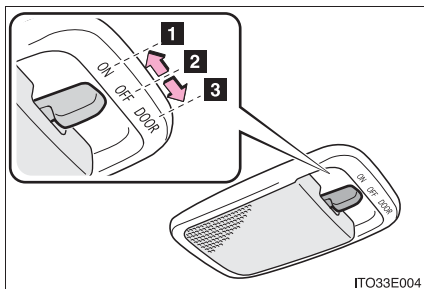
- 1 ライトを消灯する
- 2 フロントドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

ITO33E005

ルームライト

ルームライト

▶ 標準タイプ

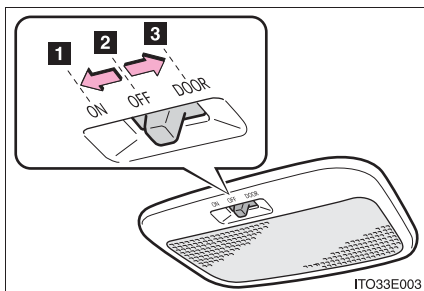


1 ライトを点灯する

2 ライトを消灯する

3 スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

▶ 大型タイプ



1 ライトを点灯する

2 ライトを消灯する

3 スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

 知識

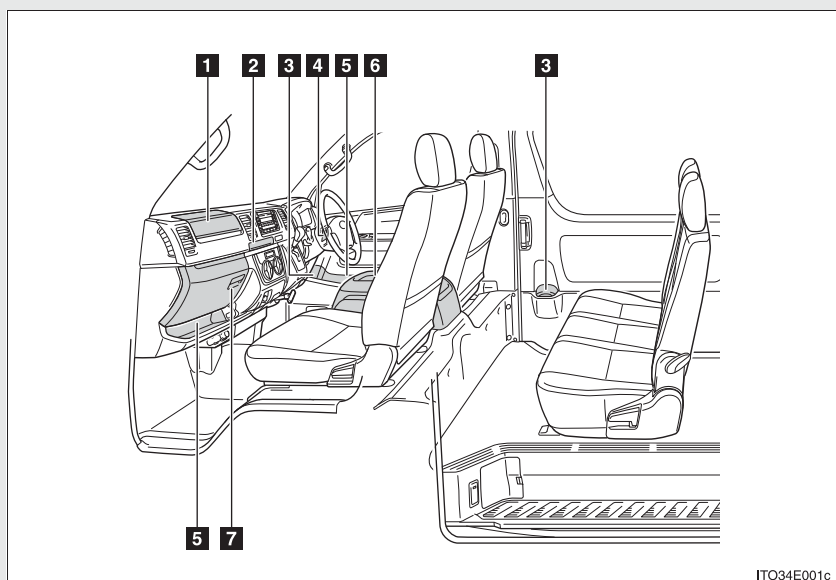
■ エンジン スイッチ照明について

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、自動的に点灯・消灯します。

 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で、長時間ライト類を点灯しないでください。

収納装備一覧



イラストはスーパー GL で代表しています。

- 1 アッパーグローブボックス*
- 2 カップホルダー
- 3 ボトルホルダー*
- 4 運転席小物入れ
- 5 オープントレイ
- 6 センターコンソールボックス* / シートバックコンソール*
- 7 ロアグローブボックス

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



警告

■ **収納装備に放置してはいけないもの**

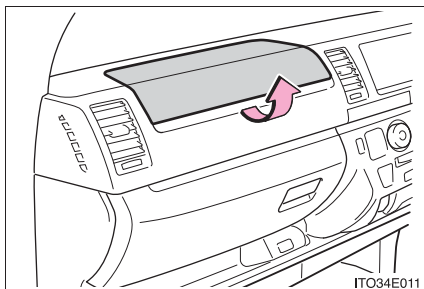
メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

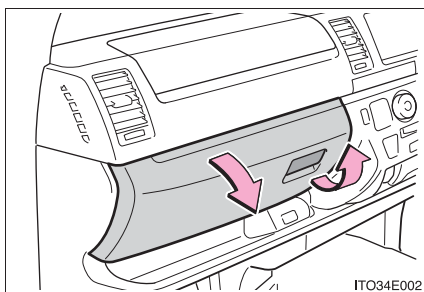
グローブボックス

▶ アッパーグローブボックス*



グローブボックスを開けるには、
フタを持ち上げる

▶ ロアグローブボックス



グローブボックスを開けるには、
レバーを引き上げる

⚠ 警告

■ 走行中の警告

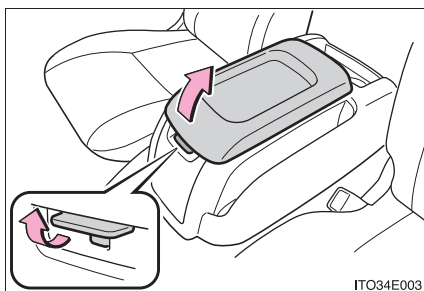
グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

センターコンソールボックス*

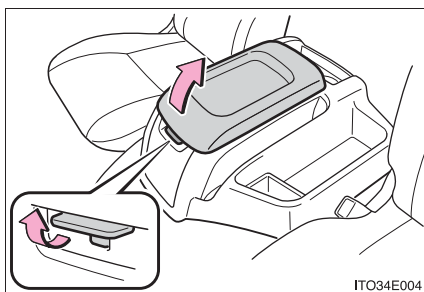
▶ 標準タイプ



ITO34E003

センターコンソールボックスを開けるには、レバーを引き上げる

▶ 幅広タイプ

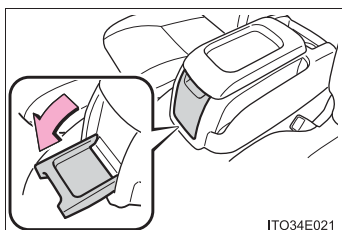


ITO34E004

センターコンソールボックスを開けるには、レバーを引き上げる

知識

■ 前面トレイ



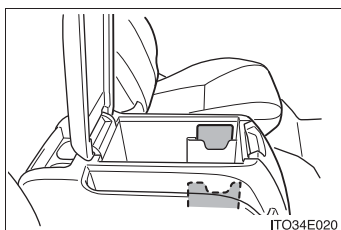
ITO34E021

センターコンソールボックスの前面部分を倒すと、トレイとして使用できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

センターコンソールボックス

■ カードホルダー



ボックス内の側面に、カードなどを収納できるホルダーがあります。

警告

■ 走行中の警告

- センターコンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。
- 前面トレイにものを載せたまま走行しないでください。急ブレーキ時などに載せていたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

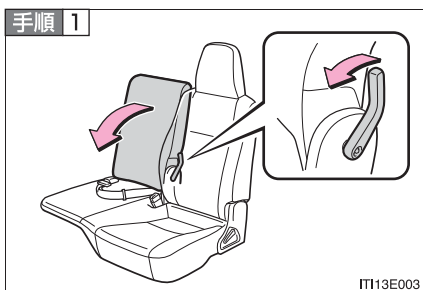
注意

■ 前面トレイの破損を防ぐために

トレイの上に手をついたり、長時間ものを置いたままにしないでください。

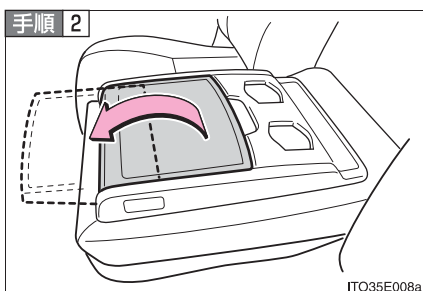
シートバックコンソール*

手順 1



レバーを引いて中央席を前に倒す
(→P. 50)

手順 2



フタを持ち上げて開ける

フタを前方に倒すと、テーブルとして
使用することができます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートバックコンソール

 警告**■ 使用しないときは**

けがを防ぐために、シートバックコンソールのフタを閉じた状態にしてください。

■ 走行中の警告

シートバックコンソールのフタを必ず閉じてください。

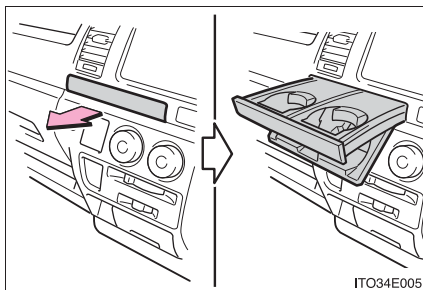
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

 注意**■ シートバックコンソールのフタをテーブルとして使用するときは**

テーブル部に手をついたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

カップホルダー

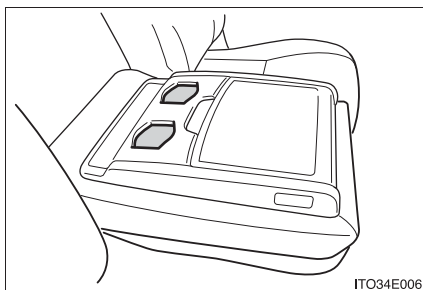
▶ インストルメントパネル



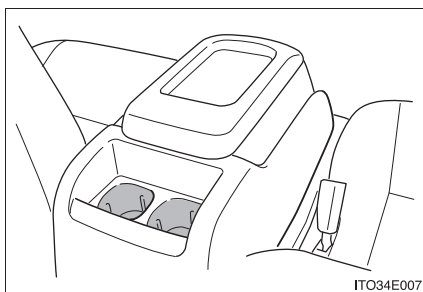
使用するときには、手前にいっぱいまで引き出す

もどすときは、トレイ部を上げてから押し込みます。

▶ シートバックコンソール部*



▶ センターコンソール部*



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

カップホルダー

**警告****■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ インストルメントパネルのカップホルダーを使わないときは

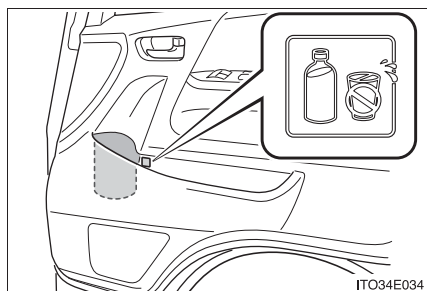
必ずもとにもどしておいてください。
急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

**注意****■ インストルメントパネルのカップホルダーについて**

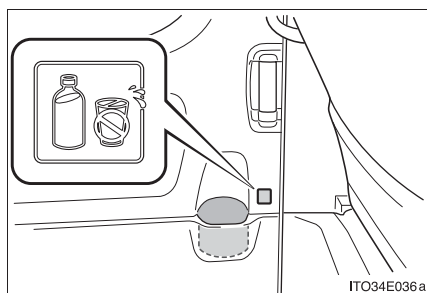
- カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- 必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ スライドドア*



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー

 知識

■ ボトルホルダーについて

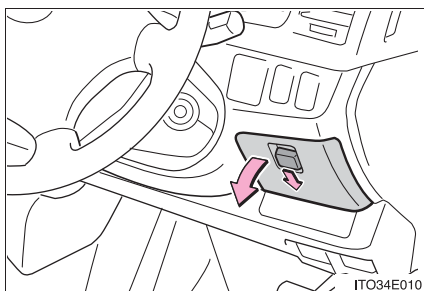
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

運転席小物入れ



ノブを押して開ける

⚠ 警告

■ 走行中の警告

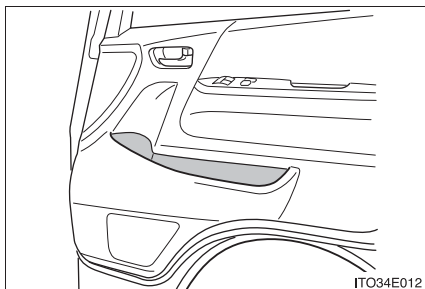
運転席小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

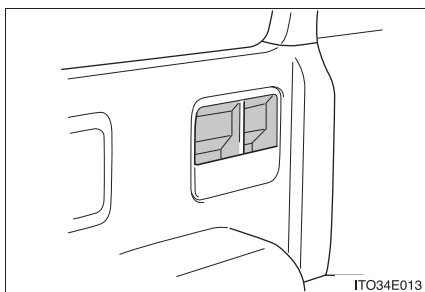
オープントレイ

オープントレイ

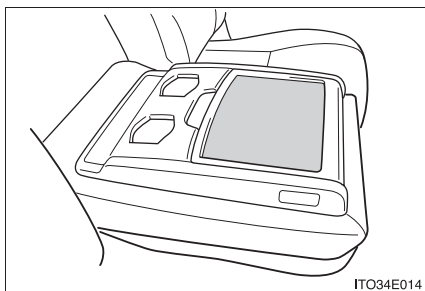
▶ フロントドア部



▶ リヤサイド部*

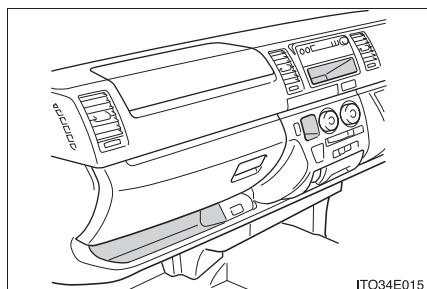


▶ シートバックコンソール部*

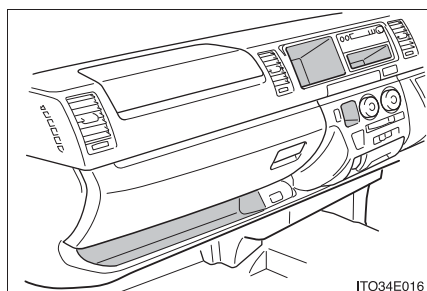


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

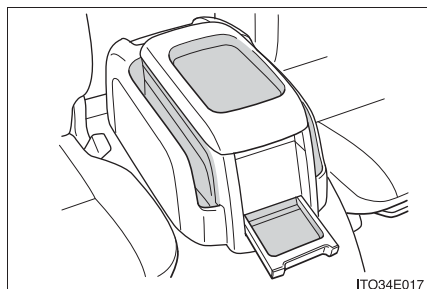
▶ インストルメントパネル（標準タイプ）※



▶ インストルメントパネル（幅広タイプ）※



▶ センターコンソール部（標準タイプ）※

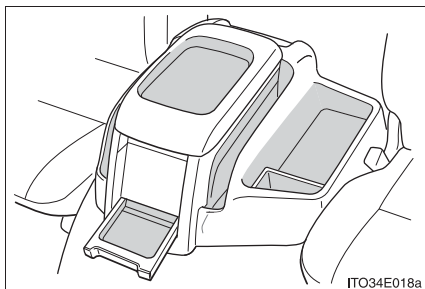


※イラストはマニュアルエアコン・AM / FM ラジオ装着車で代表しています。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

オープントレイ

▶ センターコンソール部（幅広タイプ）*

**警告**

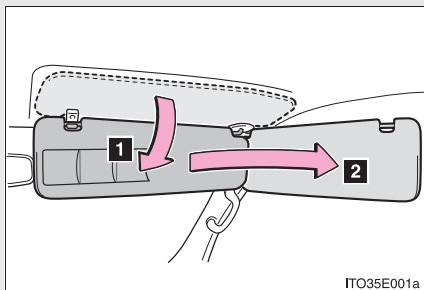
■ 走行中の警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

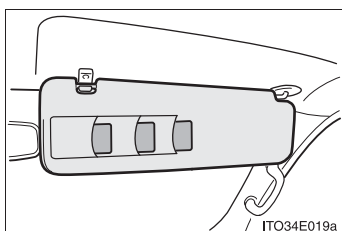
サンバイザー



- 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

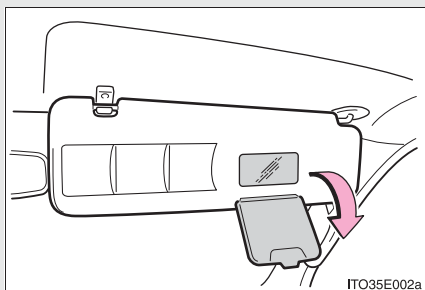
■ 3 連式カードホルダー（運転席側サンバイザー）



カード類を収納することができます。

3-5. その他の室内装備の使い方

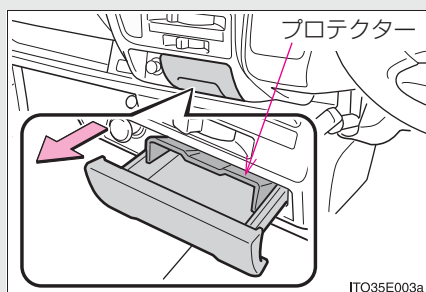
バニティミラー*



上側部分を引いてカバーを開ける

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

灰皿



フタを手前に引いて開ける

取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。

知識

■ 灰皿照明

ライトスイッチが ON のとき点灯します。

警告

■ 使用しないときは

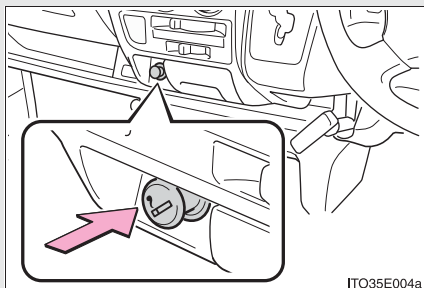
灰皿のフタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くすなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター



シガレットライターを押し込む
もとの位置にもどったら使用でき
ます。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

警告

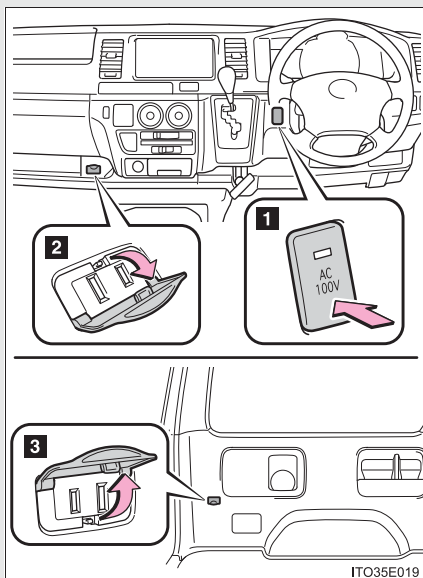
■やけどや火災を防ぐために

- シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。
ソケットが変形し、そのあとシガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

3-5. その他の室内装備の使い方

アクセサリコンセント*

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



1 メインスイッチ

メインスイッチを ON にすると使用できます。

押すたびに電源の ON・OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

2 コンセント

3 コンセント* (荷室内)

知識

■使用条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100Vで最大消費電力が100Wをこえる電気製品は使用しないでください。消費電力が100Wをこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。(エンジンがかかっている、アイドリング状態で長時間使用しないでください)

■ AC アダプターを使用するときは

フタが破損するおそれがあるため、直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。

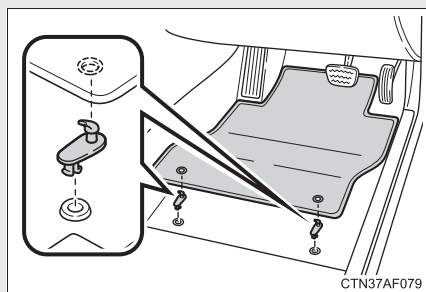
■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ (50 / 60Hz) のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

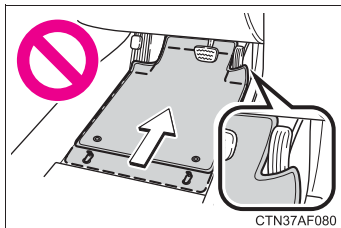
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

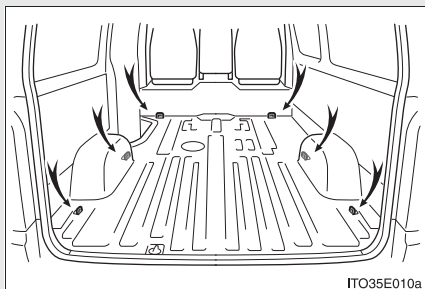
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

荷室内装備*

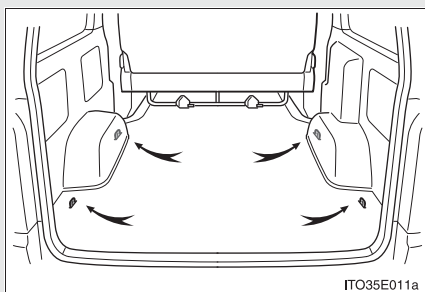
■ 荷物固定用フック

市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。

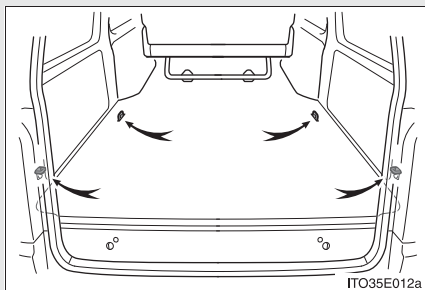
▶ リヤシート非装着車（ジャストローを除く）



▶ リヤシート装着車（ジャストローを除く）



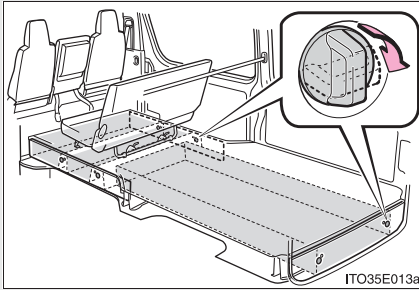
▶ ジャストロー



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 床下収納（ジャストロー）

フロア下部に荷物を収納することができます。



使用するときには、ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを開ける

⚠ 警告

■ 荷物固定用フックを使用しないときは

けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ 走行中の警告（ジャストロー）

床下収納のフタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	262
内装の手入れ.....	265
タイヤについて.....	267

4-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口.....	271
ボンネット	275
電球（バルブ）の交換	278
ヒューズの点検・交換	292
キーの電池交換.....	302
ウォッシャー液の補給	304
エアコンフィルターの 清掃	305

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- アウターミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。
- クリアランスソナー&バックソナー装着車は、センサーに直接水をあてないでください。（→P. 160）

■ アルミホイール*

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意

■ **塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ **ライトの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ **自動洗車機を使うときは（電動アウターミラー装着車）**

車両前面を洗浄するブラシは作動させないでください。
フロントアンダーミラー（→P. 86）が破損するおそれがあります。

■ **アンテナの損傷を防ぐために**

→P. 230

内装の手入れ

内装のお手入れについては、ここで記載されている事項にご留意ください。

車内が汚れたときは、掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取ってください。

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 99)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ **床に水がかかると**

水で洗わないでください。

オーディオ*やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ **リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは
(リヤウインドウデフォグガー装着車)**

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000kmごとに、4WD車は5,000kmごとに行ってください。

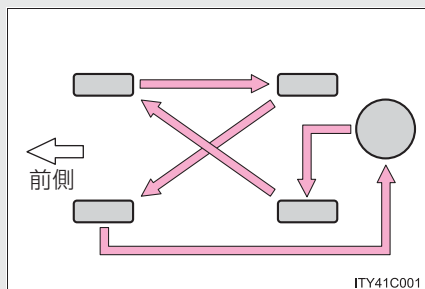
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

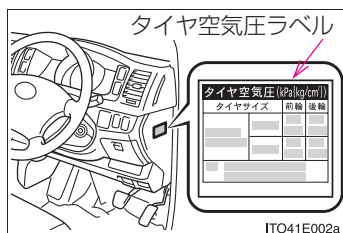


図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、インストルメントパネル横（運転席側）のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

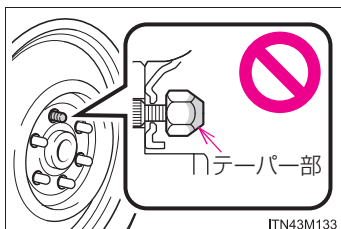
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意



- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。

ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

エンジン点検口

エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

■ エンジン点検口を開ける前に

開ける角度によっては、リヤシート※¹ やセパレーターバー※¹ が干渉する場合があります。エンジン点検口を開ける前に、確認・調整を行ってください。(→P. 52, 66)

※¹ 装着車のみ

■ エンジン点検口の開け方

手順 1 エンジンを停止し、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は 1 速にする

エンジンをかけたままエンジン点検口を開けると、または点検口を開けたあとにエンジンの始動が必要な場合は、シフトレバーを必ず N にしてください。(マニュアル車のみ)

手順 2 パーキングブレーキを確実にかける (→P. 134)

手順 3 次のようにシートを操作する

▶ スーパー GL・デラックス 2 人乗り

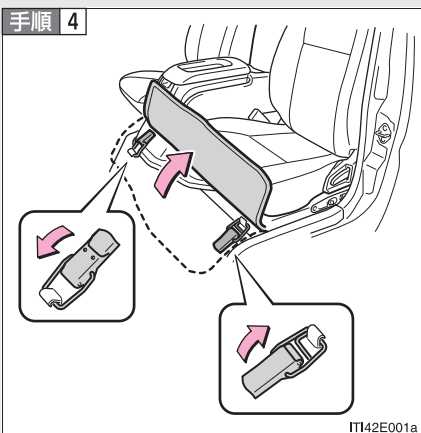
リヤシートを着座状態にし※²、助手席の前後位置をいちばんうしろに移動してヘッドレストを取りはずす (→P. 49, 54)

※² スーパー GL のみ

▶ デラックス (2 人乗り車を除く)

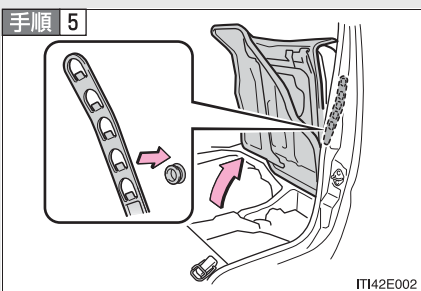
助手席・中央席を前倒しする (→P. 49)

手順 4



カバーをめくってロック（2ヶ所）を解除する

手順 5



エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する

フックをバンドの穴にしっかりと
はめ込んで、確実に固定されたこ
とを確認してください。

手順 6 エンジン点検口を閉めるときは逆の手順で操作する

セパレーターバーを取りはずした場合は、走行前に必ずもと通りに取り付けてください。

 警告**■ 走行前の確認**

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーを P に、マニュアル車はシフトレバーを 1 速[※]にする
- お子さまに操作させない

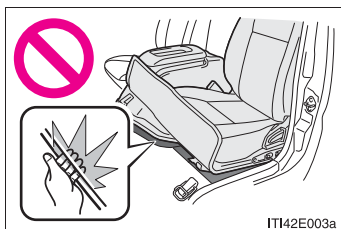
[※] エンジンをつけたままエンジン点検口を開けると、または点検口を開けたあとにエンジンの始動が必要な場合は、シフトレバーを必ず N にしてください。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ エンジンカバーを閉めるときは



エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ エンジンカバーを開ける前の注意

エンジンカバーを開けると、シートバックコンソール*・センターコンソールボックス*も同時に持ち上がります。荷物の破損などを防ぐため、次のことをお守りください。

- オープントレイ上に荷物がある場合は降ろしておく
- ボックス内に壊れやすいものがある場合は取り出しておく
- カップホルダーに飲み物が置かれていないことを確認する

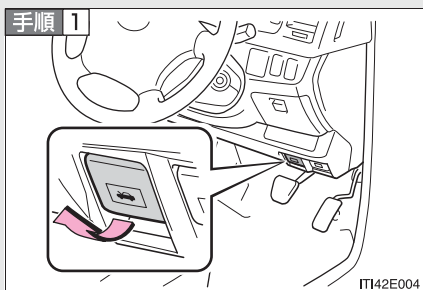
■ エンジンカバーを閉めるときは

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

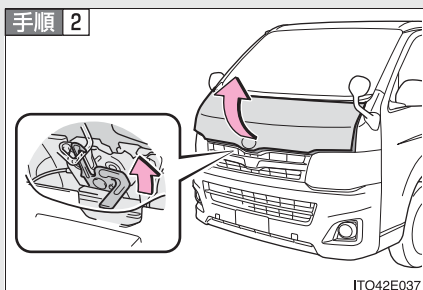
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

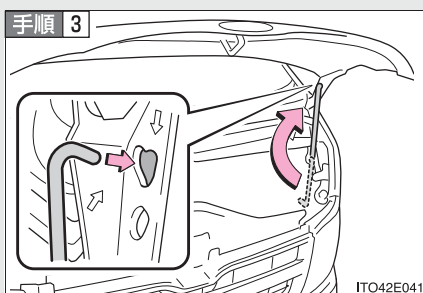


ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

開ける前に、助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。(電動アウターミラー装着車を除く)



ボンネットステーをステー穴に挿し込む

⚠ 警告

■ **走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

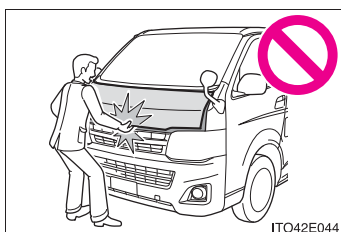
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ボンネット内を点検したあとは**

ボンネット内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、ボンネット内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **ボンネットを閉めるときは**

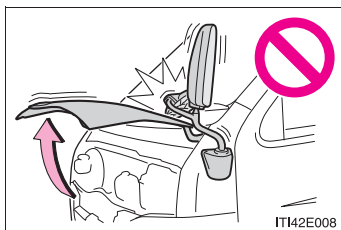


ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。



- ボンネットを開ける前に、助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。格納状態のままボンネットを開けると、アウターミラーが損傷するおそれがあります。（電動アウターミラー装着車を除く）

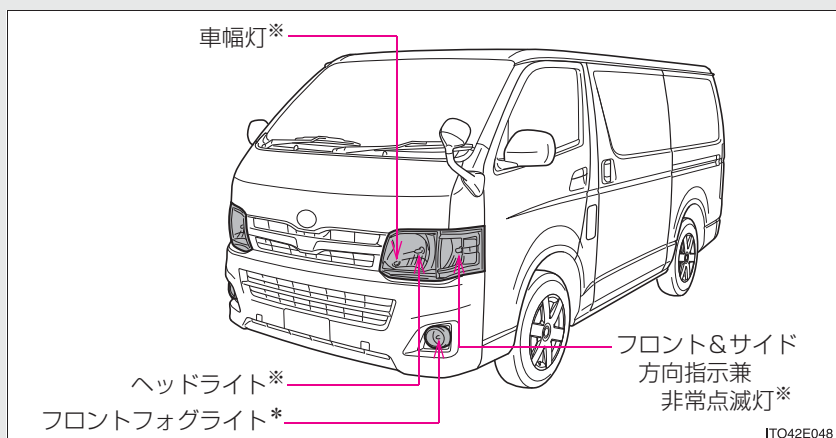
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 368）

■ フロントのバルブ位置

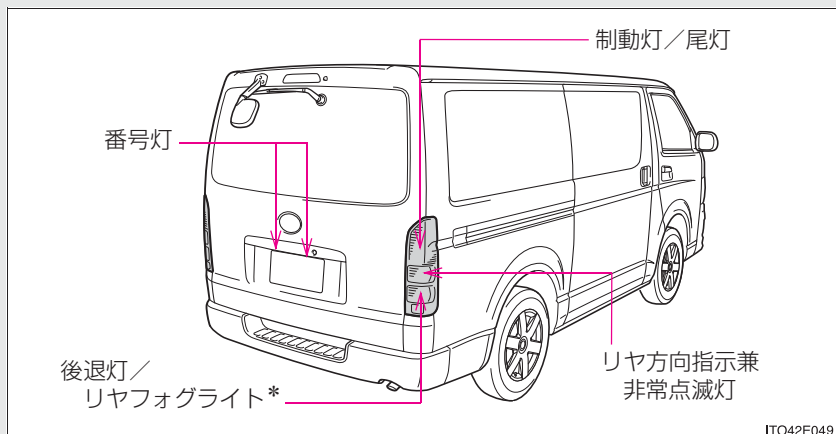


※イラストは、ハロゲンヘッドライト装着車です。

ディスチャージヘッドライト装着車は装着位置・意匠が異なります。（→P. 6）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

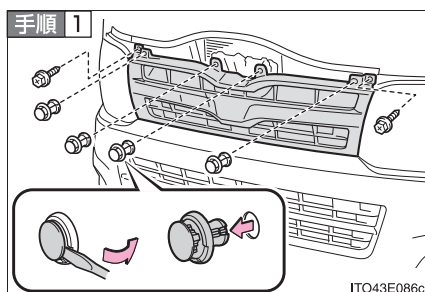
■ リヤのバルブ位置



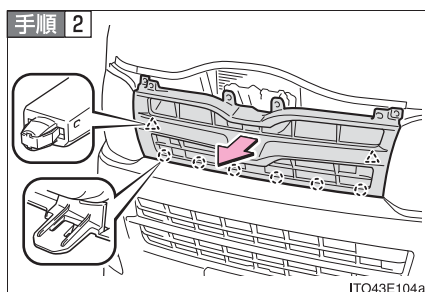
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハロゲンヘッドライト装着車）



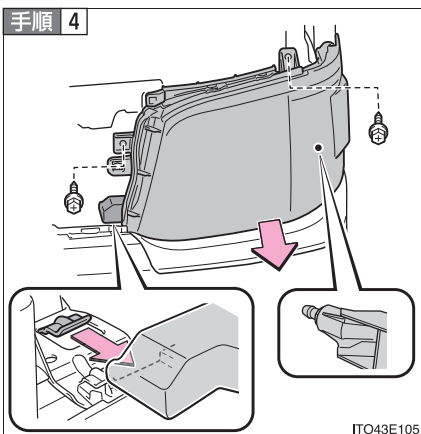
クリップ（4 個）とネジ（2 本）をはずす



ラジエーターグリルを手前に引いて取りはずす

手順 3 電球を交換する側のドア（運転席または助手席）を開けて作業スペースを広げ、バンパーのヘッドライト前側部分に保護テープを貼る

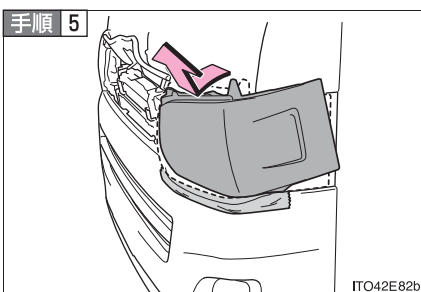
手順 4



ITO43E105

ネジ (2 本) をはずし、ヘッドライト本体を手前に引いて各部の固定をはずす

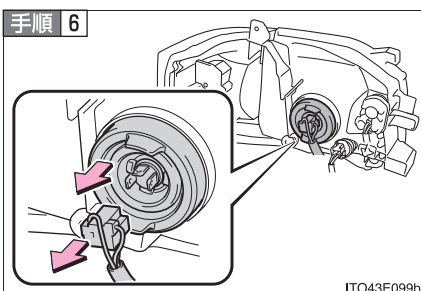
手順 5



ITO42E82b

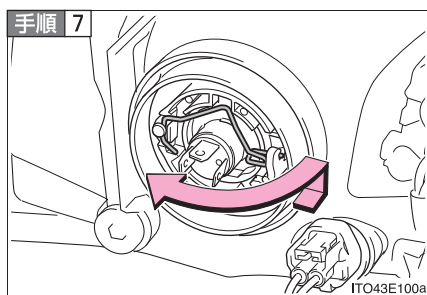
ヘッドライト本体を手前に引いて取りはずす

手順 6

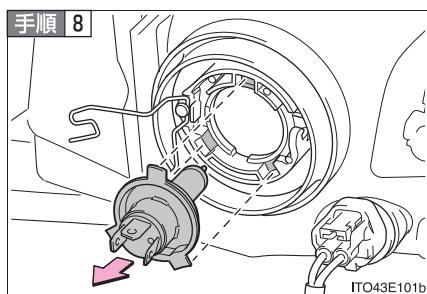


ITO43E099b

コネクターとゴムカバーを取りはずす



止め金をはずす



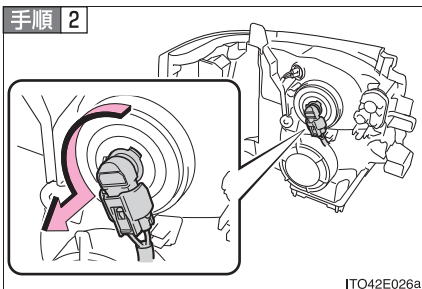
電球を取りはずす

手順 9 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ヘッドライト ハイビーム(ディスチャージヘッドライト装着車)

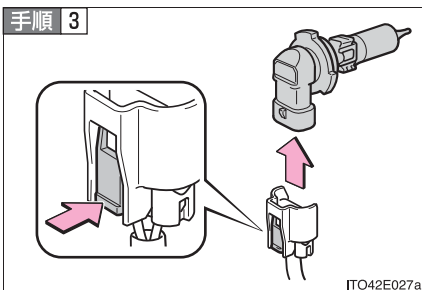
手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす (→P. 280)

手順 2



ソケットを取りはずす

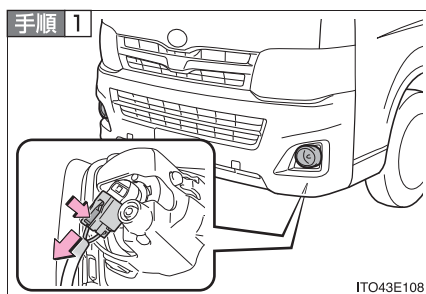
手順 3



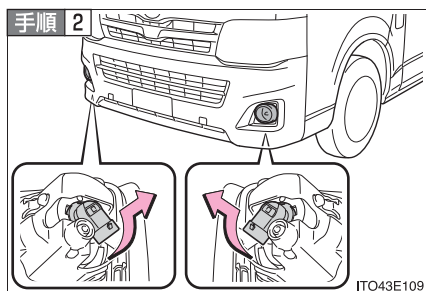
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*



コネクターを取りはずす



電球を取りはずす

運転席側と助手席側で、ソケットをまわす方向が逆になります。(運転席側は左まわり、助手席側は右まわり)

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

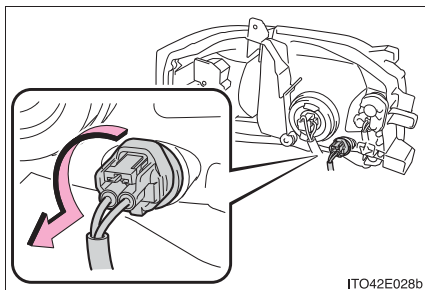
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車幅灯

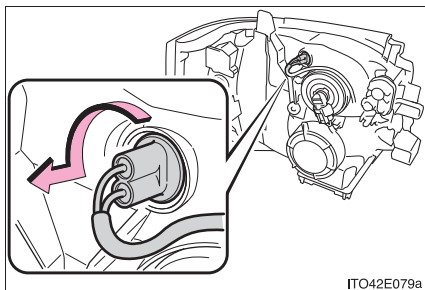
手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす (→P. 280)

手順 2 ソケットを取りはずす

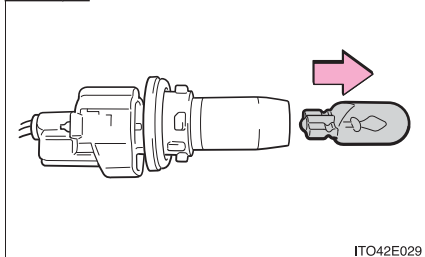
▶ ハロゲンヘッドライト装着車



▶ ディスチャージヘッドライト装着車



手順 3



電球を取りはずす

イラストはハロゲンヘッドライト装着車で代表しています。

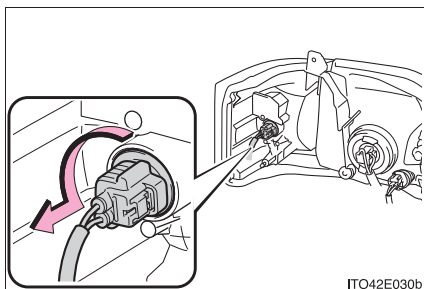
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント&サイド方向指示兼非常点滅灯

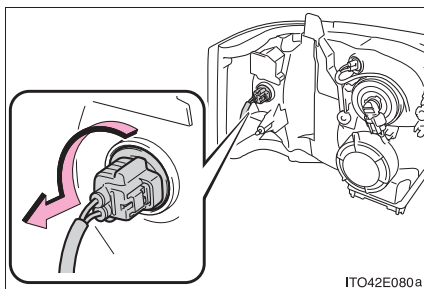
手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす (→P. 280)

手順 2 ソケットを取りはずす

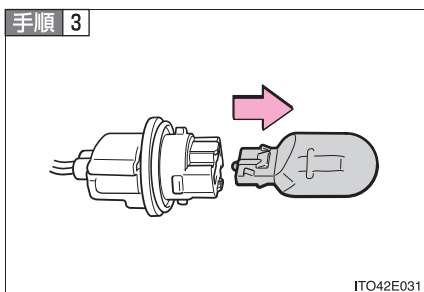
▶ ハロゲンヘッドライト装着車



▶ ディスチャージヘッドライト装着車



手順 3

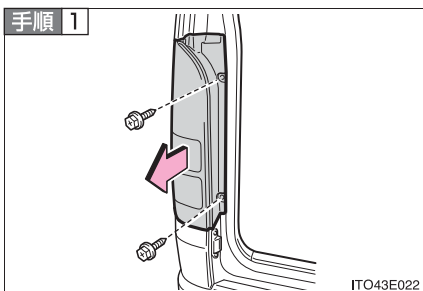


電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯／リヤフォグライト*

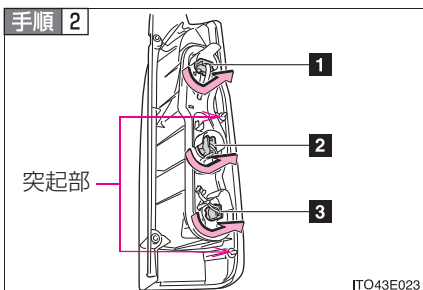
手順 1



ネジ (2 本) をはずし、ライト本体を手前に引き出す

コネクターケーブルを損傷しないよう、慎重に作業してください。

手順 2

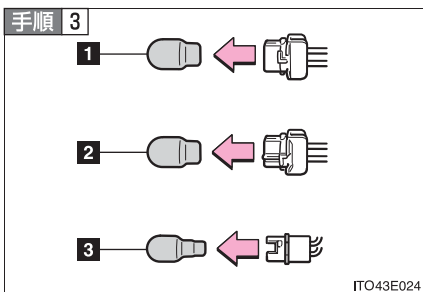


ソケットを取りはずす

- 1 制動灯／尾灯
- 2 リヤ方向指示兼非常点滅灯
- 3 後退灯／リヤフォグライト*

※運転席側のみに装着されます。

手順 3



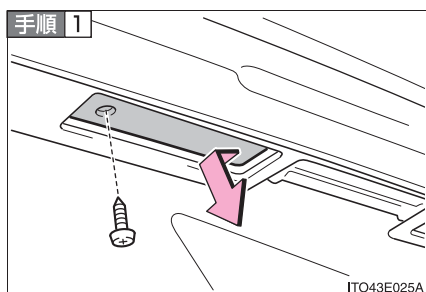
電球を取りはずす

- 1 制動灯／尾灯
- 2 リヤ方向指示兼非常点滅灯
- 3 後退灯／リヤフォグライト

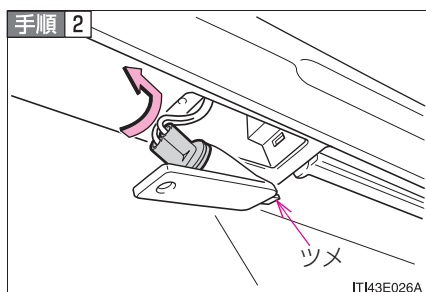
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける突起部をしっかりとめ込んでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

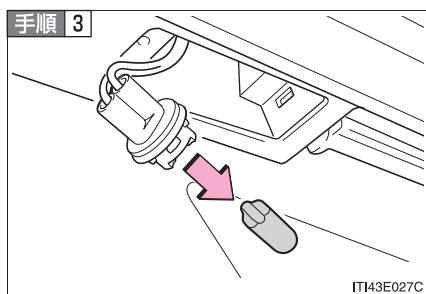
■ 番号灯



交換する側のネジ(1本)をはずし、
ライト本体を引き出す



ソケットを取りはずす



電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
ライト本体のツメが確実にかかっていることを確認してください。

知識

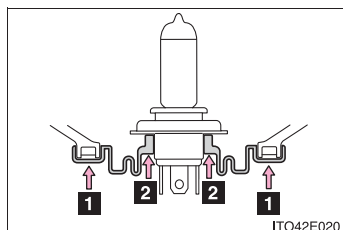
■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト装着車）
- ハイマウントストップライト

■ ハロゲンヘッドライト*のゴムカバーを取り付けるときは

確実にめ込まれていることを確認してください。



- 1 ゴムカバーの外周をしっかりとめ込む
- 2 ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■ ディスチャージヘッドライト*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。

■ ハイマウントストップライトについて

ハイマウントストップライトは数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

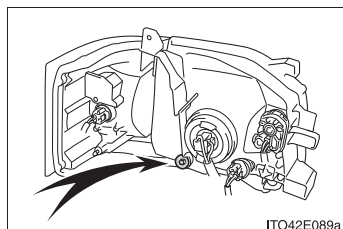
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

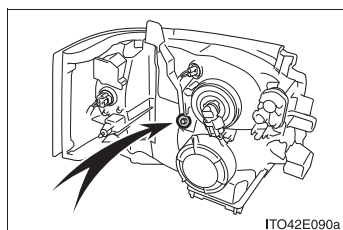
■ヘッドライト本体の固定をはずすときは

- ヘッドライトの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジにふれないでください。

▶ ハロゲンヘッドライト装着車



▶ ディスチャージヘッドライト装着車

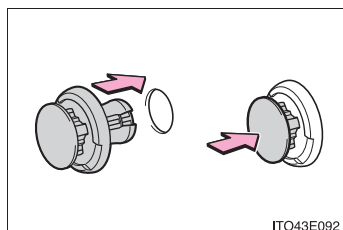


- 電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドライトの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ラジエーターグリルのクリップの取り付け



クリップを穴に挿し込み、中央部を押し込む

 警告**■電球を交換するときは**

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ディスチャージヘッドライト*について

- 交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

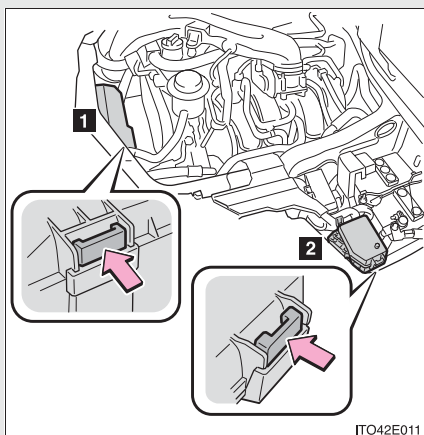
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジン スイッチを“LOCK”にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム内



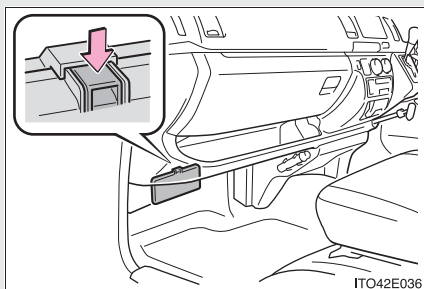
エンジン点検口(→P. 271)を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

1 中央ヒューズボックス

2 バッテリー横ヒューズボックス

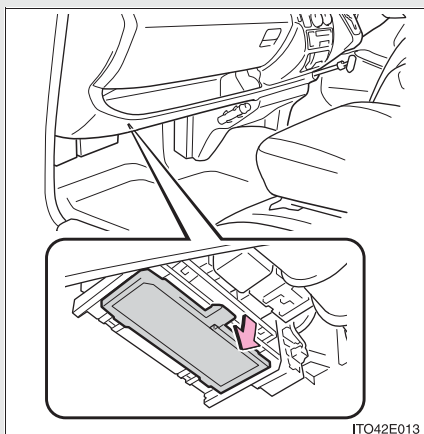
イラストはガソリン車で代表しています。

▶ 助手席足元



ツメを押しながら、カバーを手前に引く

▶ グローブボックス下

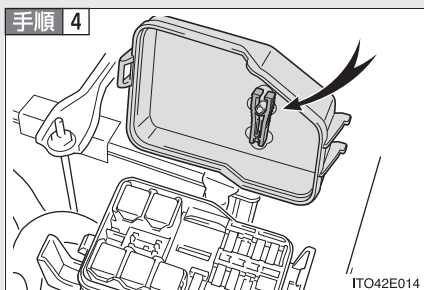


ITO42E013

ヒューズボックスカバーを取り
はずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と
負荷」(→P. 295) で確認する

車の仕様により装着されていないヒューズもあります。

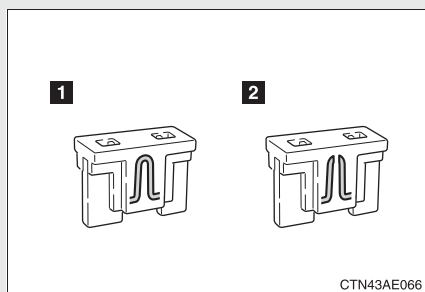


ITO42E014

ヒューズはずしでヒューズを引
き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム
内にある、バッテリー横ヒューズ
ボックスのカバーに付いています。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する



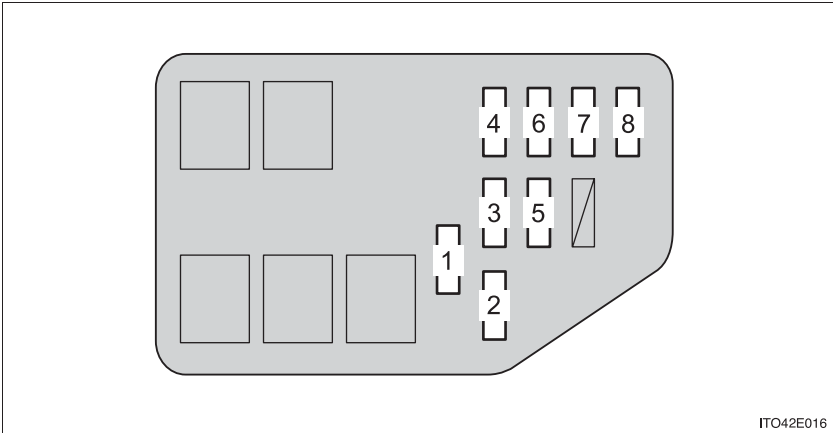
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム内（バッテリー横ヒューズボックス）

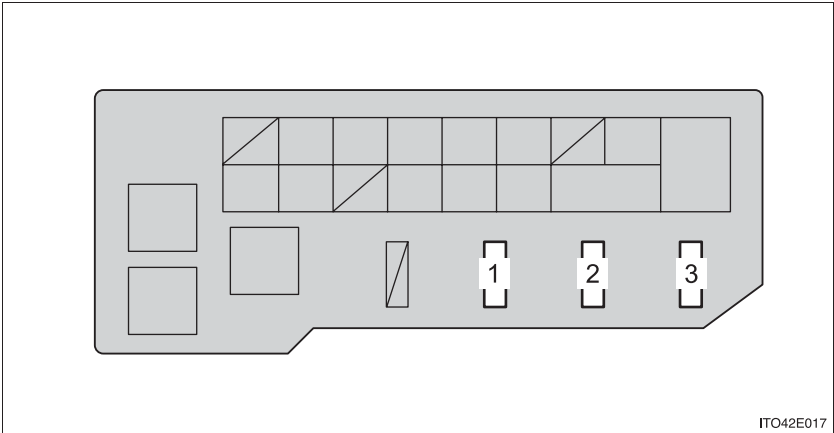


	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	D. C. C	30 A	オーディオ、室内灯
2	ALT-S	7.5 A	オルタネーター
3	RADIO	15 A	オーディオ
4	ABS SOL	25 A	ABS
5	DOME	10 A	室内灯
6	PSD	25 A	パワースライドドア
7	ETCS ※ 1	10 A	エンジンコントロール、ECT
	A / F ※ 2	15 A	A / Fヒーター、エンジンコントロール
8	ECU-B	10 A	エアコン、ワイヤレスドアロック、パワースライドドア

※ 1 ガソリン車

※ 2 ディーゼル車

■ エンジンルーム内（中央ヒューズボックス）



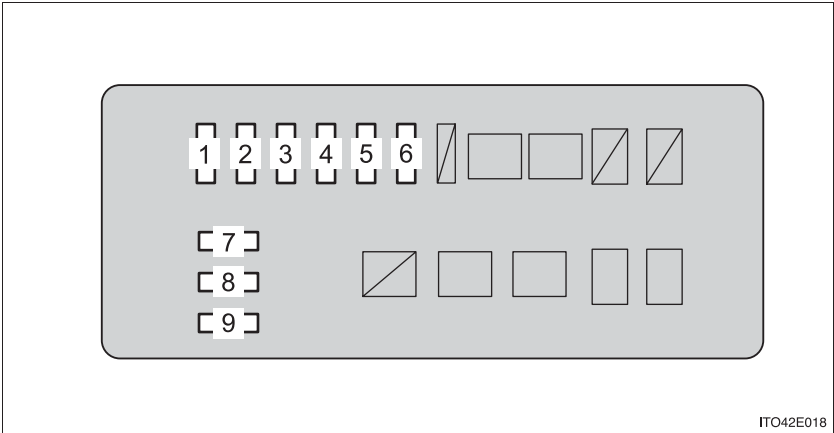
イラストはガソリン車で代表しています。

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI	20 A ※ 1	エンジンコントロール、ECT
		25 A ※ 2	
2	HAZ-HORN	15 A	非常点滅灯、ホーン
3	A / F ※ 1	15 A	エンジンコントロール
	EDU ※ 2	25 A	燃料噴射システム

※ 1 ガソリン車

※ 2 ディーゼル車

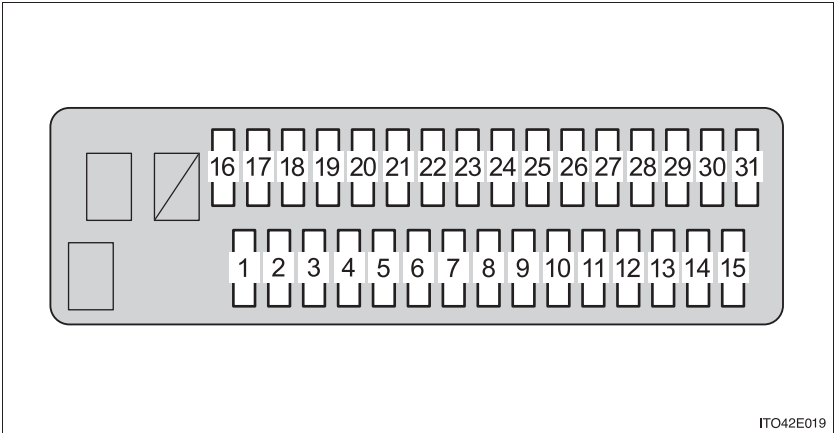
■ 助手席足元



イラストはガソリン車で代表しています。

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	HEAD LL	15 A	ディスチャージヘッドライト（左側）
2	HEAD RL	15 A	ディスチャージヘッドライト（右側）
3	HEAD LH	15 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）、ヘッドライトレベリング調整ダイヤル
4	HEAD RH	15 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
5	ST	7.5 A	スターター
6	A / C NO.3	7.5 A	エアコン
7	SPARE	25 A	予備ヒューズ
8	SPARE	15 A	予備ヒューズ
9	SPARE	10 A	予備ヒューズ

■ グローブボックス下



イラストはガソリン車で代表しています。

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	—	—	—
2	ACCL INT LCK	25 A	— (ウェルキャブ)
3	WIP	25 A	フロントワイパー
4	RR WIP-WSH	15 A	リヤワイパー、リヤウォッシャー
5	WSH	20 A	フロントウォッシャー
6	ECU-IG	7.5 A	シフトロックシステム、ABS、パワースライドドア、ボデー ECU、自動光軸調整システム
7	GAUGE	10 A	EFI コンピューター、電動ファンシステム、非常点滅灯、充電系、アクセサリコンセントメインスイッチ、助手席シートベルト非着用警告灯、シフトポジション表示灯、後退灯、リヤウィンドウデフォグガー、ヒーターコントロールパネル
8	OBD	7.5 A	ダイアグノーシス

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、EFI コンピューター、ABS、シフトロックシステム、ECT
10	—	—	—
11	DOOR	30 A	ボデー ECU、パワーウインドウ
12	RR HTR	15 A	リヤクーラー、リヤヒーター
13	—	—	—
14	FR FOG	15 A	フロントフォグライト、フロントフォグライト表示灯
15	AM1	30 A	シガレットライター、アクセサリ、始動系
16	TAIL	10 A	尾灯、車幅灯、番号灯、フロントフォグライト、EFI コンピューター
17	PANEL	10 A	スイッチ照明
18	A / C	10 A	リヤヒーター、エアコン ECU
19	—	—	—
20	—	—	—
21	—	—	—
22	—	—	—
23	CIG	15 A	シガレットライター
24	ACC	7.5 A	電動格納式アウターミラー、シフトロックシステム
25	—	—	—
26	ELS	10 A	EFI コンピューター
27	AC100V	15 A	アクセサリコンセント
28	RR FOG	15 A	リヤフォグライトスイッチ、リヤフォグライト
29	WELCAB	15 A	— (ウェルキャブ)

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
30	IGN	15 A	EFI コンピューター、ECT、エアバッグコンピューター、排出ガス浄化装置スイッチ
31	MET IGN	10 A	メーター

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 278)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

次の装置の初期化が必要です。

- パワースライドドア* (→P. 33)
- パワーウインドウ (→P. 89)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換*

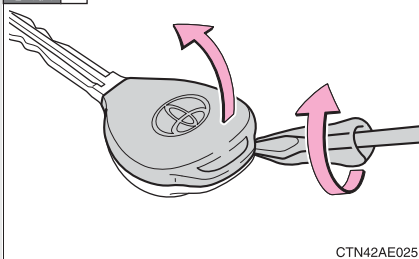
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

■ 電池交換のしかた

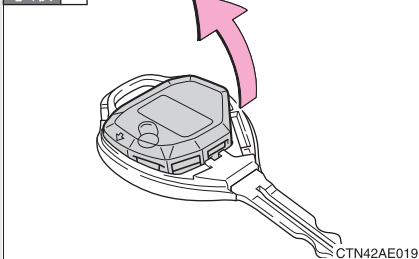
手順 1



カバーをはずす

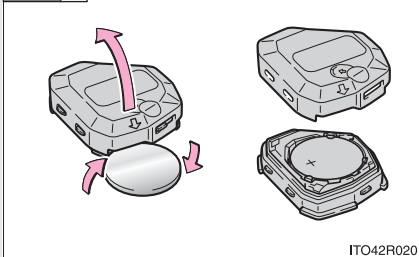
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 2



モジュールを取り出す

手順 3



コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

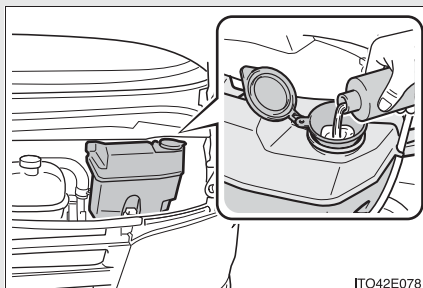
 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給



タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補給する

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

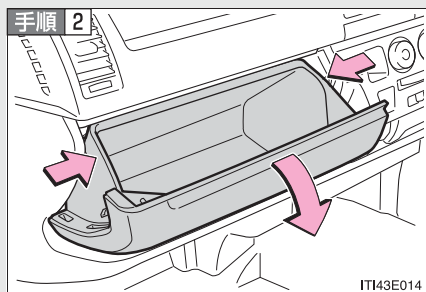
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃

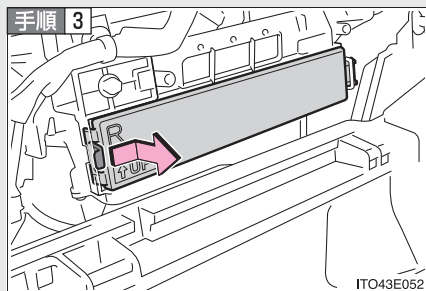
エアコン・リヤクーラー*を快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

■ フロントエアコン

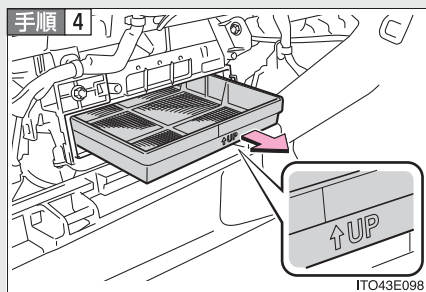
手順 1 エンジン スイッチを“LOCK”にする



グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



フィルターカバーを取りはずす



エアコンフィルターを取りはずして清掃する

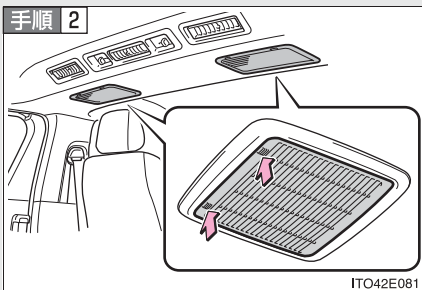
水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

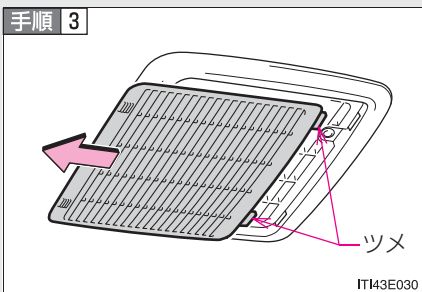
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤクーラー*

手順 1 エンジン スイッチを “ LOCK ” にする



図に示す位置 (2ヶ所) を押して、
ロックをはずす



エアフィルターを取りはずして
清掃する

水洗いするか、裏面からエアブ
ローでほこりを取り除きます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
エアフィルターのツメを挿し込んでから、反対側を押さえてロックし
ます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ フィルターの清掃について

エアコン・リヤクーラー*を快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■ エアコン・リヤクーラー*の風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

 注意

■ エアコン・リヤクーラー*を使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコン・リヤクーラー*を使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

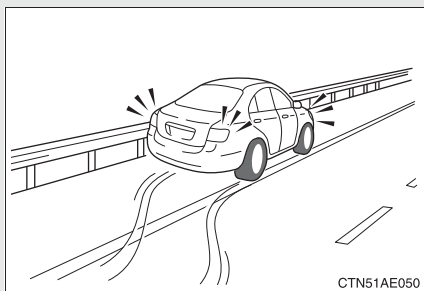
故障したときは	310
非常点滅灯	311
発炎筒	312
けん引について	314
フューエルポンプ シャットオフシステム	319
イベントデータ レコーダー	320

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	321
パンクしたときは	326
エンジンがかからない ときは	344
シフトレバーがシフト できないときは (オートマチック車)	345
キーをなくしたときは	346
バッテリーがあがった ときは	347
オーバーヒートした ときは	351
スタックしたときは	354
車両を緊急停止するには	355

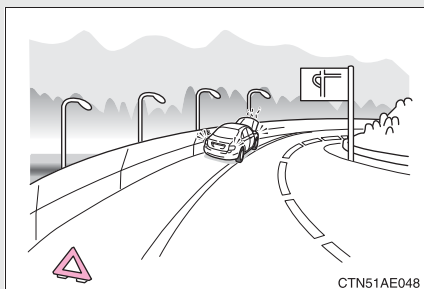
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

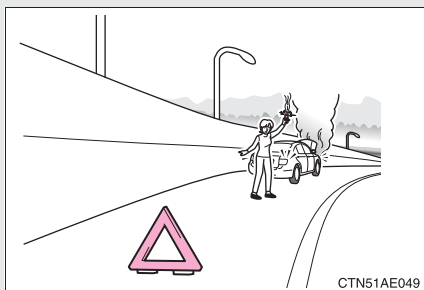


非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
(→P. 311)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



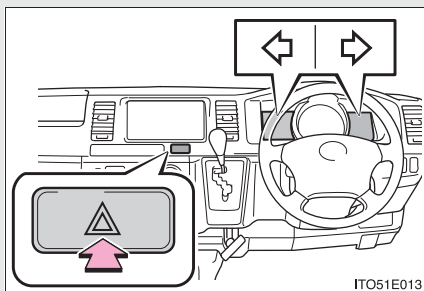
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 312)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

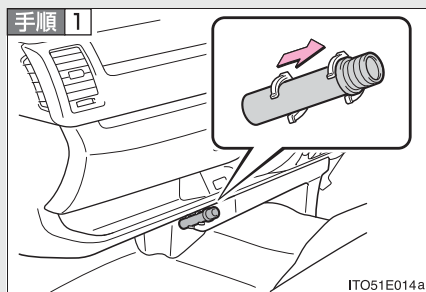
注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

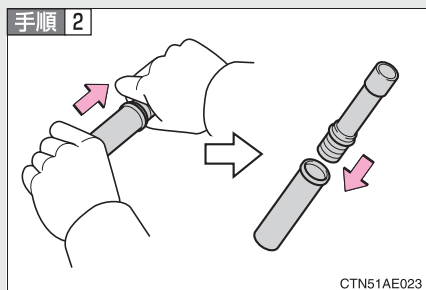
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

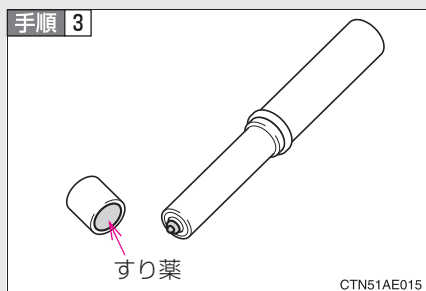
事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

 知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

 警告

■ 発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

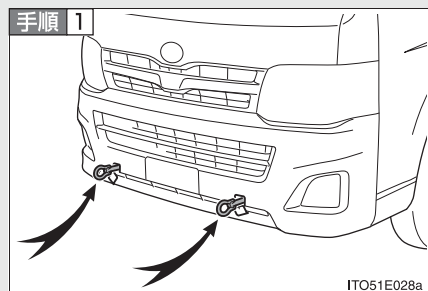
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

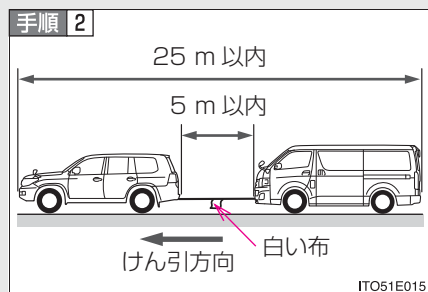
■ けん引されるときは



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

搭載されているけん引フックの数は、車種により異なります。



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3 | けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ACC” または “ON” にしてください。

手順 4 | けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

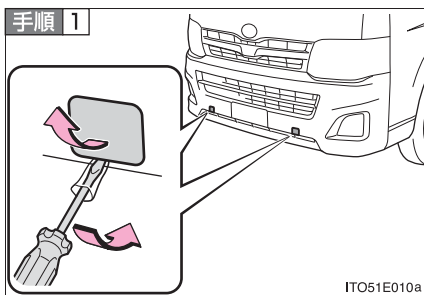
けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

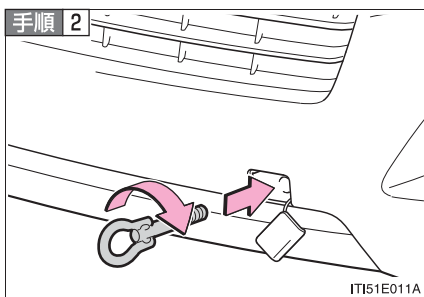
- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

けん引フックの取り付け方

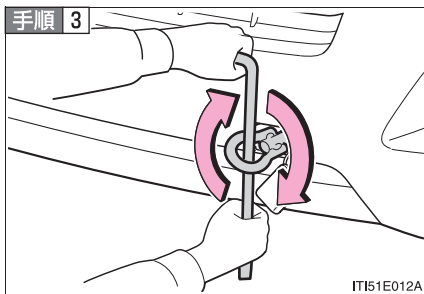


マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



けん引フックを穴に挿し込み軽く締める



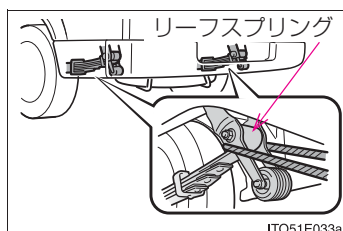
ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する



緊急時、一般路上で故障した他車（故障車）※をやむを得ずけん引するときは、リーフスプリング部分にロープをかけます。

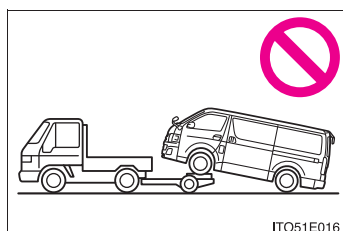
※ 自車より重い車をけん引することはできません。

■けん引フックの収納位置

→P. 326

警告

■車両を運搬するときは（4WD 車）



必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

⚠ 警告

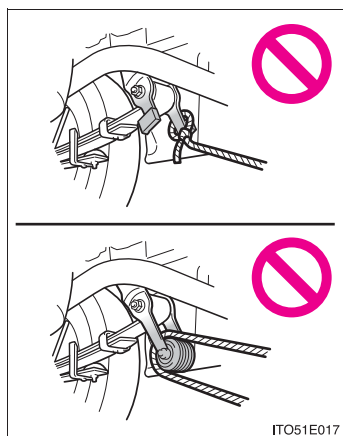
■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- エンジン スイッチを“ LOCK ” にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが通常より重くなったりします。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないと、けん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■やむを得ず他車をけん引するときは



図のようなリーフスプリング付きの車両は、図に示す部分でのけん引は絶対にしないでください。破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する（オートマチック車）
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない
（やむを得ずリヤのリーフスプリング部分で他車をけん引するときを除く）

上記の速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■ **長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ **他車をけん引するときは**

- 緊急時以外は行わないでください。
バンパーが傷付くおそれがあります。
- 自車より重い車をけん引することはできません。
無理にけん引すると、駆動系に悪影響を与えたり、リーフスプリング部分や車体などが損傷するおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 エンジン スイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。（車種によっては記録される項目が異なります）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯 ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ倍力装置の異常（ディーゼル車） パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常（オートマチック車） ・ 排出ガス浄化装置の異常（ディーゼル車）
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	ABS 警告灯 ABS の異常
	タイミングベルト交換警告灯（ディーゼル車） タイミングベルトの交換時期
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯* 自動光軸調整システムの異常
	フューエルフィルター／燃料・水分離器水位警告灯（ディーゼル車） - フューエルフィルターの異常／燃料・水分離器の排水時期 ・ 走行中、フューエルフィルターが目づまりを起こすと点灯します。 ・ エンジン回転中、燃料・水分離器内に規定レベルの水がたまると点滅します。
 (点滅)	クリアランスソナー表示灯*（パターン1） センサーの異常 システム電源 ON 時に異常を検出すると、異常のあるセンサーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。その後は異常が解消されるまで表示されたままになります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
 (点滅※)	排出ガス浄化装置警告灯 (ディーゼル車) 排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要になった	排出ガス浄化装置スイッチ非装着車： すみやかにトヨタ販売店で点検を受ける 排出ガス浄化装置スイッチ装着車： 手でススの燃焼処理を行う (→P. 172)
	油量警告灯 エンジンオイル量の異常	エンジンオイルを補給する
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約10.5L以下になった	燃料を補給する

※ 排出ガス浄化装置警告灯が点灯にかわった場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。(→P. 176)

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
 (点滅)	クリアランスソナー表示灯* (パターン 2) センサー部に雪氷や泥などが付着している 汚れが付着しているセンサーの位置、および車両のマークが点滅し、警告ブザーが鳴ります。	汚れを取り除く センサー部が汚れていないのに警告された場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	運転席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー※) 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
 (マニュアルエアコン装着車)	助手席シートベルト非着用警告灯* (警告ブザー※) 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
 (オートエアコン装着車)		

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルトを非着用のまま、車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識**■ 助手席シートベルト非着用警告灯*の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

 注意**■ ブレーキ警告灯について（ディーゼル車）**

ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

■ 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは（ディーゼル車）

→P. 176

■ フューエルフィルター／燃料・水分離器水位警告灯について（ディーゼル車）

警告灯が点灯・点滅したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。点灯・点滅したまま走行を続けると、噴射ポンプやエンジンなどが損傷するおそれがあります。

- 警告灯が点滅したときは、燃料・水分離器内の排水が必要です。
- 警告灯が点灯したときは、フューエルフィルターの交換が必要です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

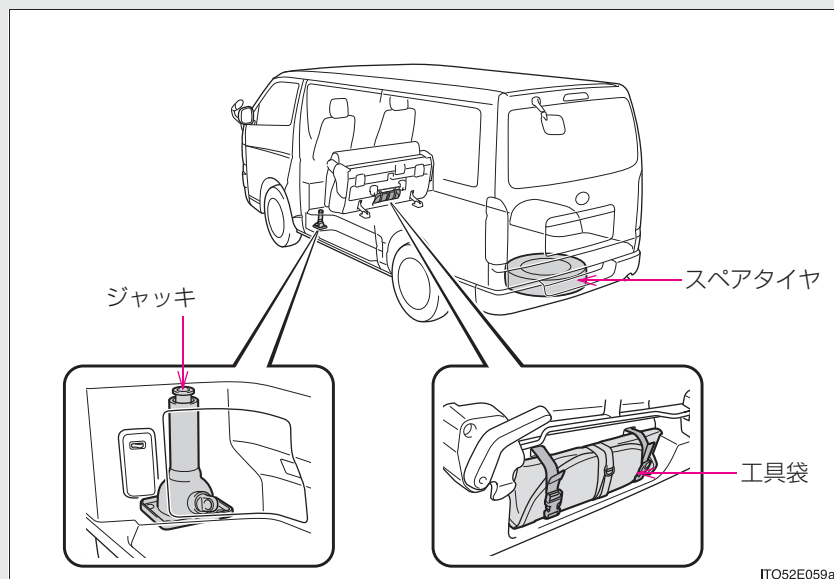
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 267 を参照してください)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

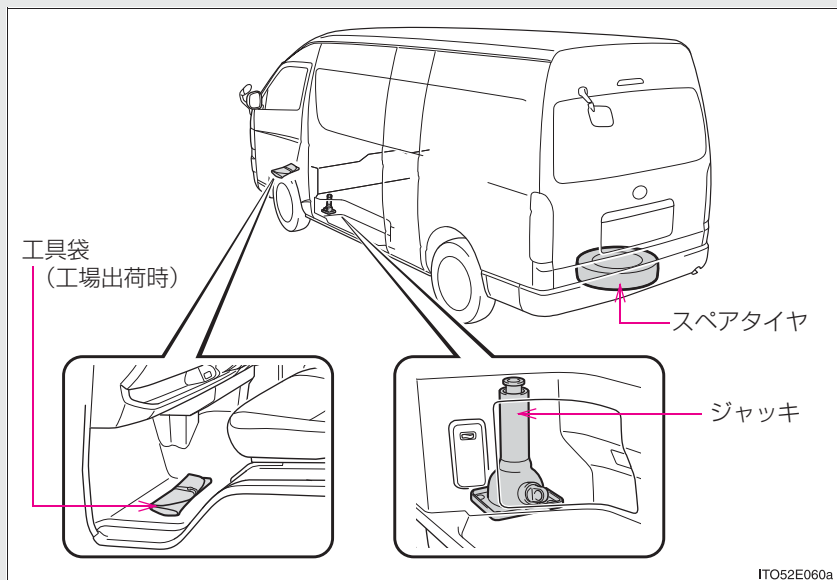
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする
(パワースライドドア装着車のみ：→P. 31)

■ スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

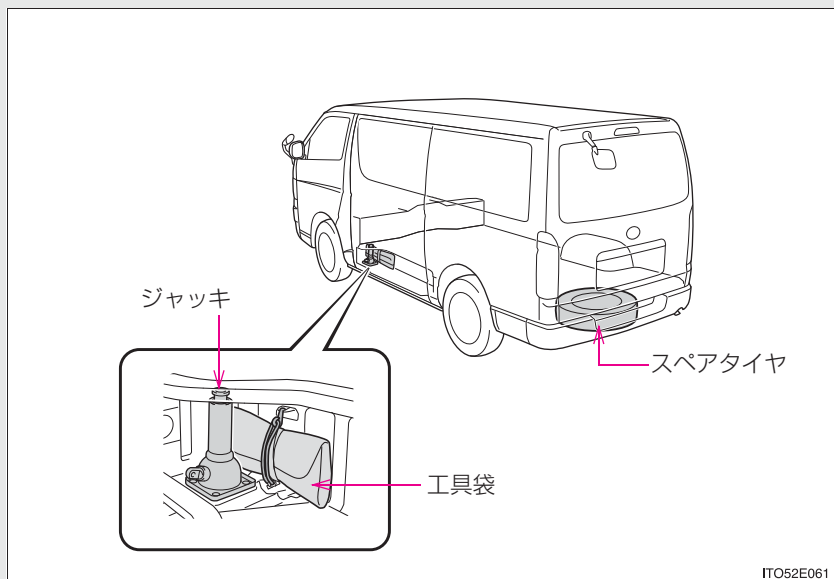
▶ スーパー GL



▶ デラックス（2人乗り）

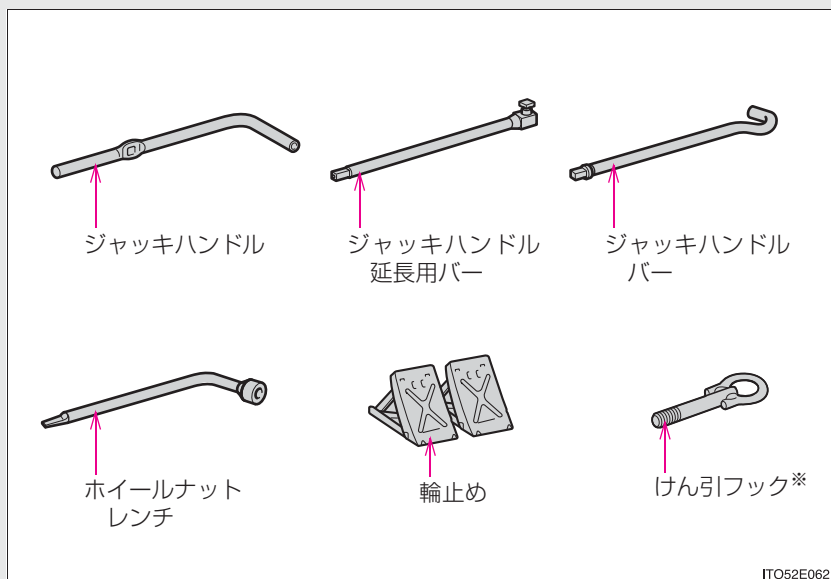


▶ デラックス（3人乗り・3／6人乗り・3／6／9人乗り）



■ 工具

工具袋の中に収納されています。(工具袋の取り出し方: →P. 330)

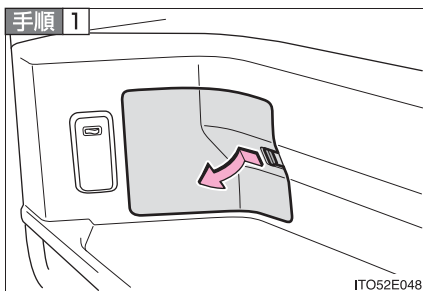


ITO52E062

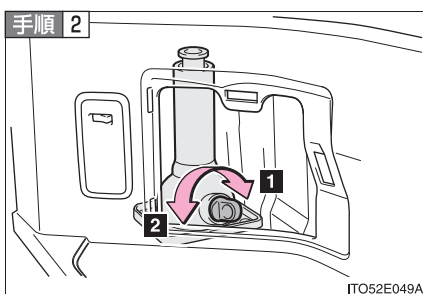
※けん引フックの搭載数は車種により異なります。

ジャッキの取り出し方

▶ スーパー GL・デラックス（2人乗り）



ツメを引きながら、カバーを取りはずす

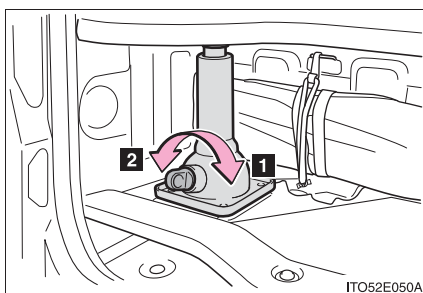


1 締まる

2 ゆるむ

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。

▶ デラックス（3人乗り・3／6人乗り・3／6／9人乗り）



1 締まる

2 ゆるむ

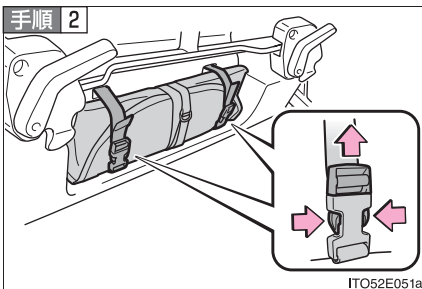
使用後はもとの位置にもどします。

ジャッキハンドル挿し込み部（回転部）が車両外側を向くように置き、確実に固定してください。

工具袋の取り出し方

▶ スーパー GL

手順 1 リヤシートを折りたたむ (→P. 58)

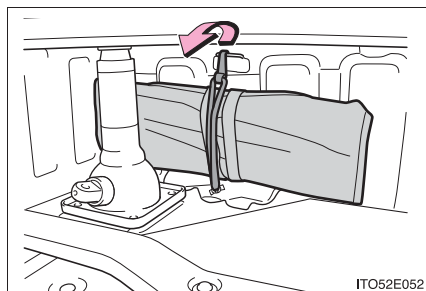


ツメを押しながら、ベルトの留め具をはずす

使用後はもとの位置にもどします。

留め具を結合したあと、ベルトの端を引いて、確実に固定してください。

▶ デラックス (3人乗り・3／6人乗り・3／6／9人乗り)



固定バンドをはずす

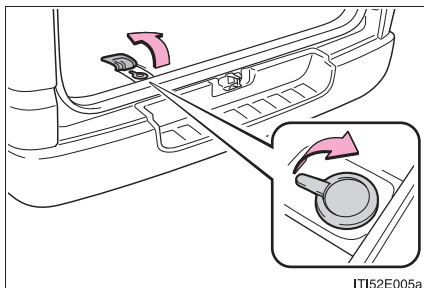
使用後はもとの位置にもどします。

固定バンドで確実に固定してください。

スペアタイヤの取り出し方

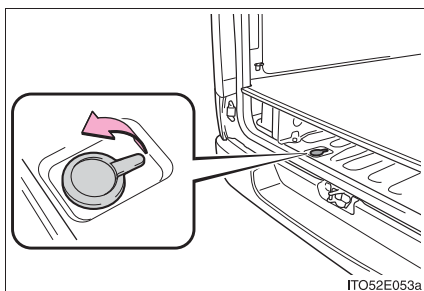
手順 1 キャップをはずす

▶ ジャストローを除く



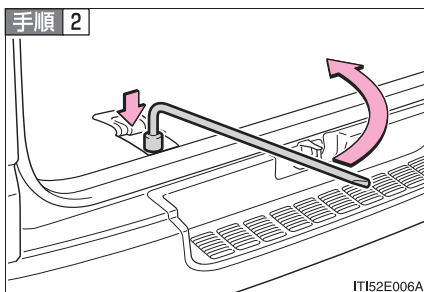
マットの切り欠き部分をめくり、
キャップをはずす

▶ ジャストロー



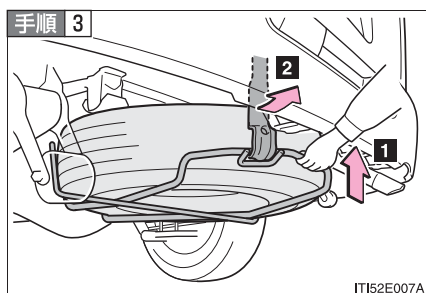
床下収納 (→P. 259) のカバーを
はずして、キャップをはずす

手順 2



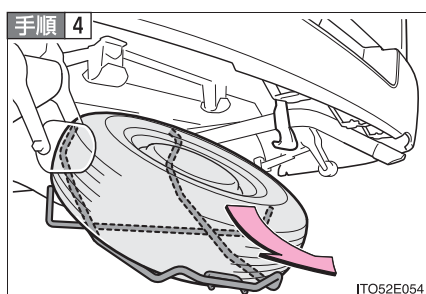
ホイールナットレンチを使って、
スペアタイヤ格納具がフックから
はずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落
下するおそれがあるため注意してく
ださい。



スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ（**1**）、フックを手前に引いては
ずす（**2**）

格納具が落下しないように、手でしっ
かり支えてください。



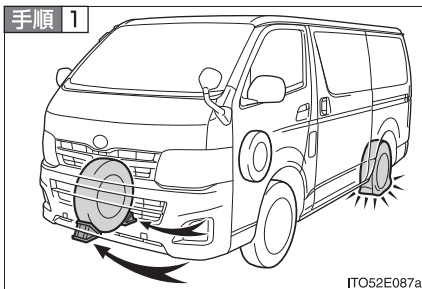
スペアタイヤ格納具を地面に降ろ
して、スペアタイヤを取り出す

手順 5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。
スペアタイヤを格納するときは、P. 339 を参照してください。

パンクしたタイヤの交換

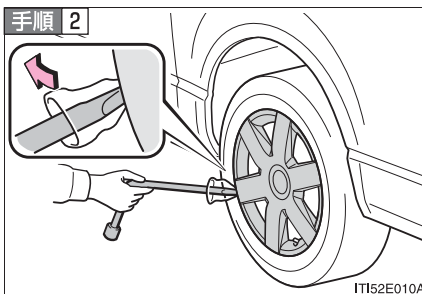
手順 1



輪止めをする

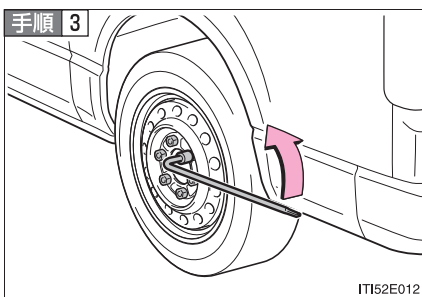
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪の前後
	右側	左側後輪の前後
後輪	左側	右側前輪の前後
	右側	左側前輪の前後

手順 2

ホイールキャップをはずす
(スチールホイールのみ)

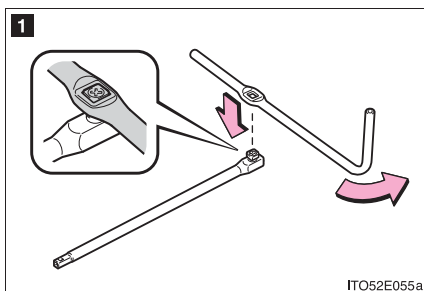
傷が付くのを防ぐため、図のように布
などを巻いて保護してください。

手順 3

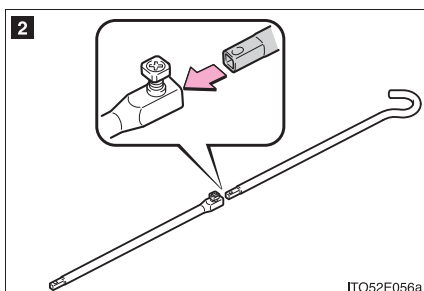


ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

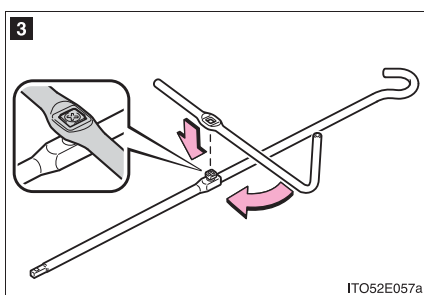
手順 4 ジャッキハンドルを組み付ける



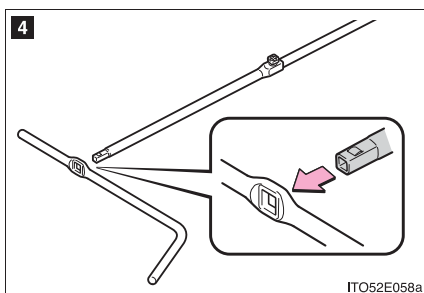
- 1** ジャッキハンドルの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる



- 2** ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続する



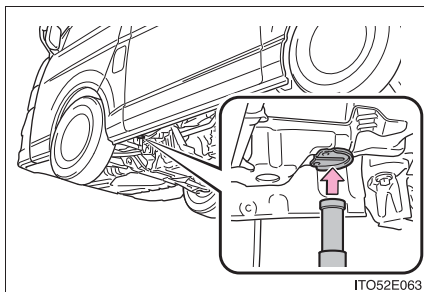
- 3** ジャッキハンドルの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける



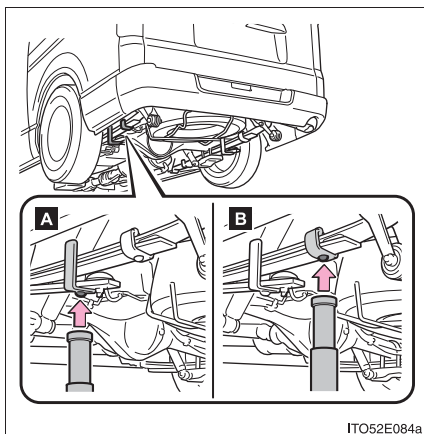
- 4** ジャッキハンドル延長用バーをジャッキハンドルの穴部に確実に挿し込む

手順 5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

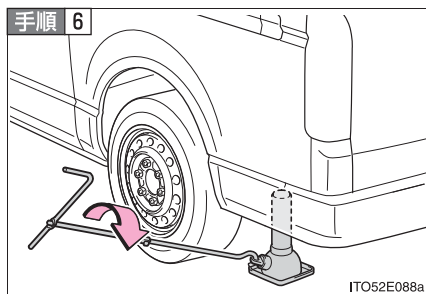
▶ フロント側ジャッキセット位置



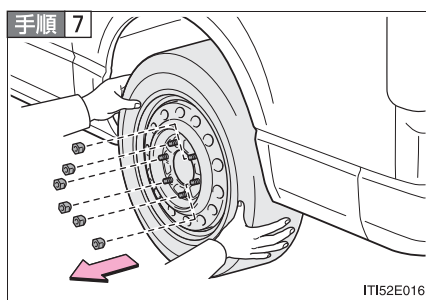
▶ リヤ側ジャッキセット位置



路面状況などにより、**A** の位置にジャッキをセットできないときは、**B** の位置でジャッキアップしてください。



タイヤが地面から少し離れるまで、
車体を上げる

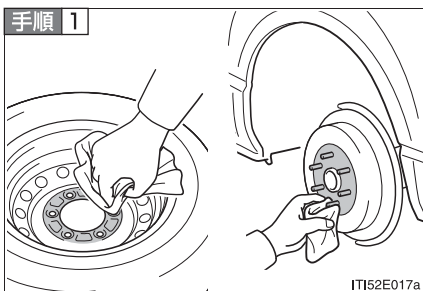


ナットすべてを取りはずし、タイヤ
を取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホ
イールの意匠面に傷が付かないよう
意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

手順 1



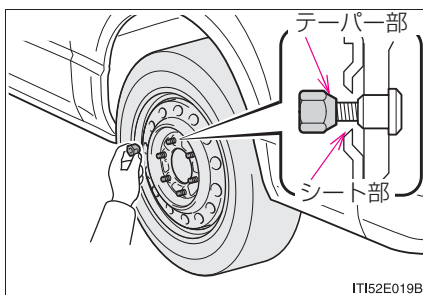
IT152E017a

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

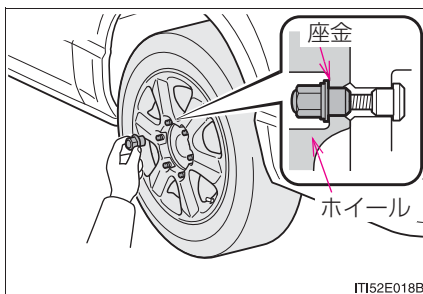
▶ スチールホイールにかえるとき



IT152E019B

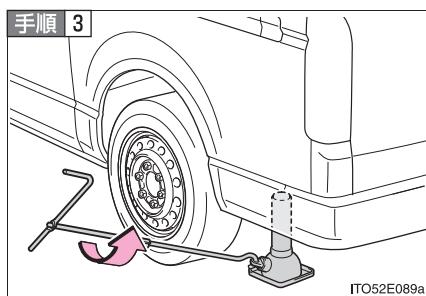
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールにかえるとき

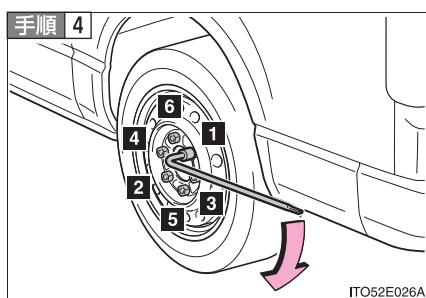


IT152E018B

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



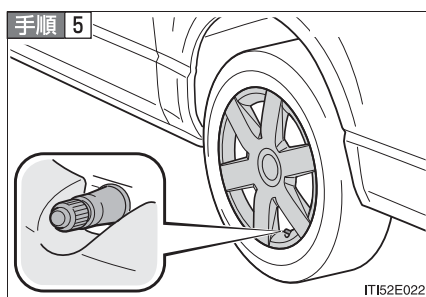
車体を下げる



図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

100 N・m (1020 kgf・cm)



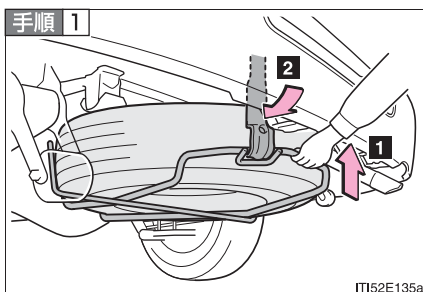
スチールホイール装着車は、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

手順 6 アルミホイール装着車は、センターオーナメントを取り付ける
はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

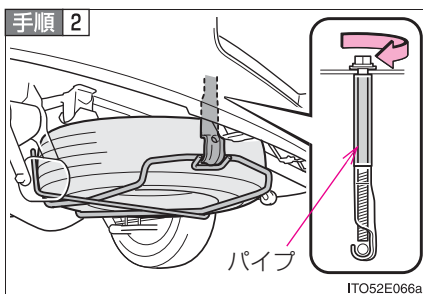
手順 7 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納



スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（**1**）、フックを掛けてボルトを締め付ける（**2**）

格納具にタイヤが確実に固定されていることを確認します。



パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4回転以上締め付ける

締め付けトルク：

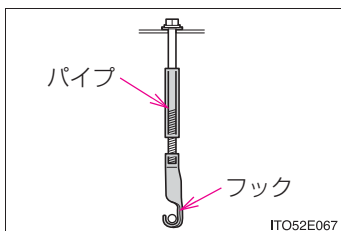
18 N・m (184 kgf・cm) 以上

知識

■ スペアタイヤについて

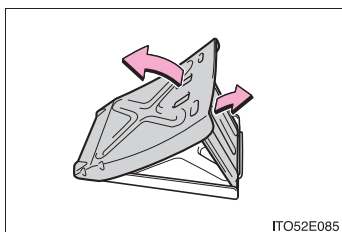
空気圧を必ず点検してください。（→P. 367）

■ スペアタイヤ格納具のフックについて



スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプを入れてからフックを取り付けてください。

■ 輪止めの使い方



図のように展開して使用します。

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使えない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

 警告**■ タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

- ホイールキャップ・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ホイールの交換後は、すぐに 100 N・m (1020 kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- 約 1,000km 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→P. 270)

上記のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ジャッキハンドルを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。(→P. 334)

 警告

■ **スペアタイヤを取り出すときは**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スペアタイヤは、ジャッキアップする前にスペアタイヤ格納具から取りはすしておく
- スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
- スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
- スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

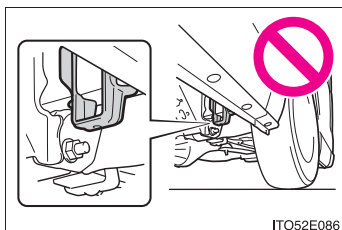
■ **工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■車載ジャッキでジャッキアップするときは

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。

■スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 124）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 124）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモバイザーシステム*に異常がある可能性があります。（→P. 96）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 347）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 347）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

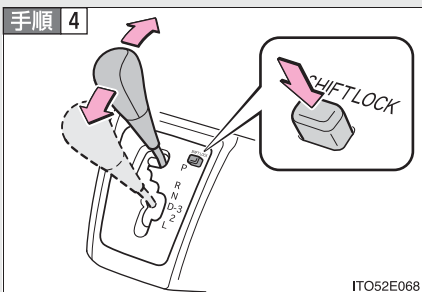
シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを“ACC”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのマスターキー※から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 18～20)

※エンジンイモビライザーシステム装着車のみ。なお、マスターキーをすべて紛失してしまった場合は、コンピューターの交換が必要となります。
(→P. 21)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

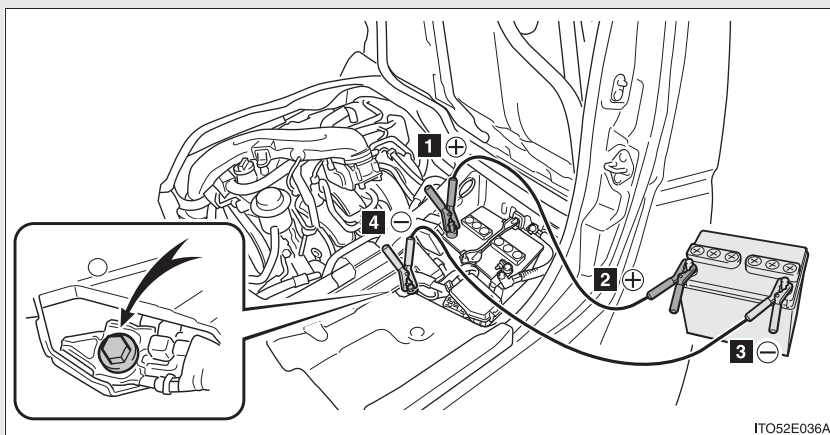
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジン点検口を開ける (→P. 271)

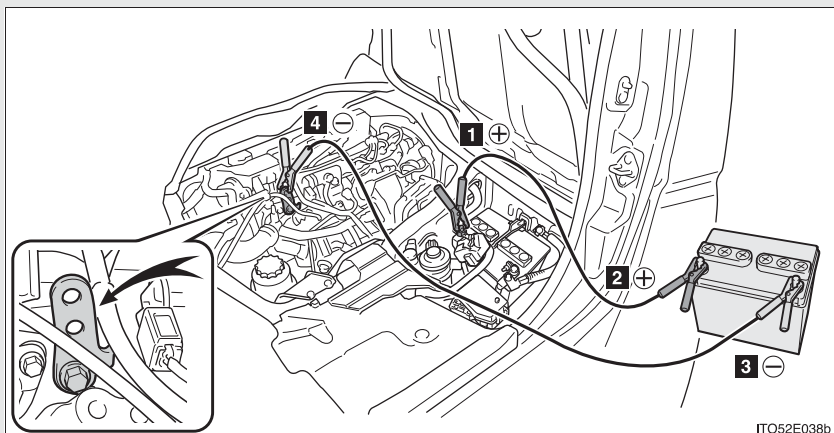
手順 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について（オートマチック車）

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

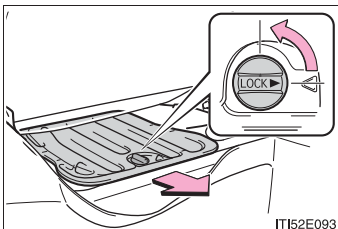
- エンジンがかかっていないときは、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがったときは

パワースライドドア*とパワーウインドウの初期設定が必要です。
(→P. 33, 89)

■ バッテリー 2 個搭載車について

エンジンルーム内と運転席うしろに、計 2 個のバッテリーが搭載されています。



- 運転席うしろのバッテリーを点検するときは、カバーをめくり、ダイヤルをまわしてフタを取りはずします。

- バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。
- ブースターケーブルを接続する場合は、必ずエンジンルーム内のバッテリーで行ってください。
- バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。
- 長期駐車などで一端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの一端子をはずしてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは + 側と - 側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 ボンネット周辺から蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットとエンジン点検口を開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

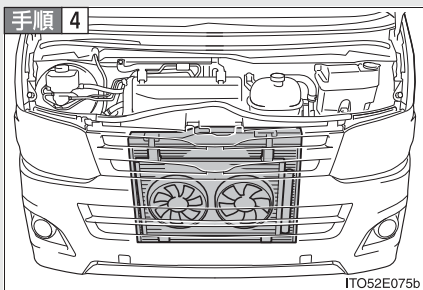
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

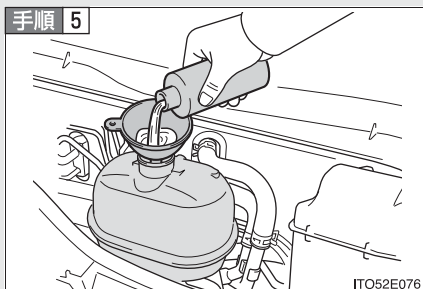
ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ボンネット周辺から蒸気が出る

■ 冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となるため、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- ボンネット周辺から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットやエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ボンネット（→P. 275）、エンジン点検口（→P. 271）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーター、リザーバタンクが熱いうちは、ラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 速または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

オートマチック車はアクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

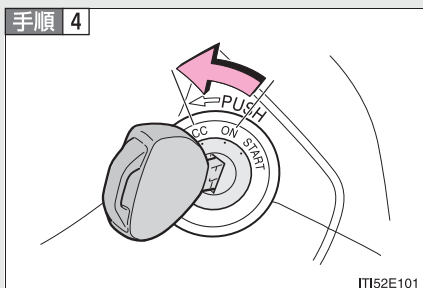
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



エンジン スイッチを “ ACC ”
にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) 358

6-2. 初期設定

初期設定が必要な項目 370

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめ
します。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に
相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	ガソリン	70
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	ディーゼル	70

エンジンオイル

▶ ガソリン車

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイルフィ ルター交換
トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30	1TR-FE	5.0	5.5
トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 ※ —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2TR-FE	5.0	5.5

※ 5W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ ディーゼル車

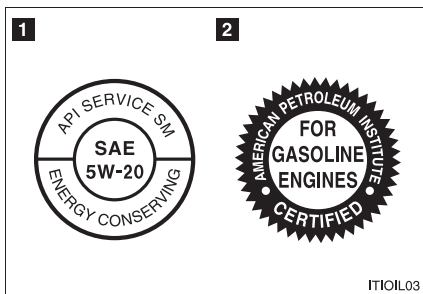
銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値)	
			オイルのみ 交換	オイルと オイルフィ ルター交換
トヨタ純正ディーゼルオイル DL-1 ※ —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正ディーゼルオイル DL-1 —JASO DL-1, SAE 5W-30	1KD-FTV	FR	6.6	6.8
		4WD	6.8	7.0

※ 0W-30 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

▶ ガソリン車

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。



1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

▶ ディーゼル車

JASO 規格 DL-1 合格油をおすすめします。

⚠ 注意

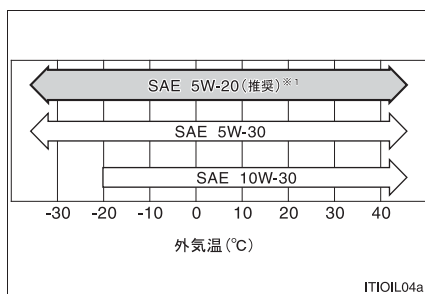
■ ディーゼル車のエンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。
異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと(ただし 12ヶ月をこえないこと)、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

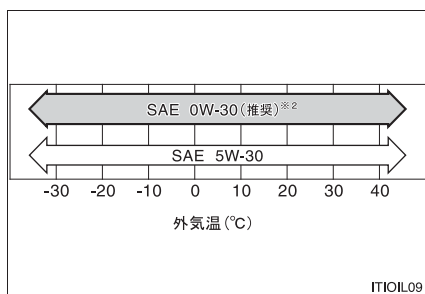
下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

▶ ガソリン車



※¹ 5W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ ディーゼル車



※² 0W-30 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。
W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-20 の 20 は、オイル粘度の高さを示しています。
粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	リヤヒーターの有無	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	1TR-FE	なし	12
	2TR-FE	あり	14
	1KD-FTV	なし	15
		あり	17

オートマチックトランスミッション (オートマチック車)

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 オートフルードタイプ T-IV	1TR-FE	6.9
	2TR-FE	8.0
	1KD-FTV	

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション (マニュアル車)

銘柄 (推奨粘度)	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	1TR-FE	FR	2.2
	1KD-FTV	FR	2.6
		4WD	2.2

フロントディファレンシャル (4WD 車)

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	1.35

リヤディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）	車種			容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD なし	FR	標準ボデー	3.10
			ワイドボデー	3.25
		4WD	標準ボデー	3.35
			ワイドボデー	3.55
トヨタ純正 ハイポイドギヤオイル LSD (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD あり		標準ボデー	3.35
			ワイドボデー	3.55

トランスファー (4WD 車)

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	1.3

パワーステアリング

銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ ¹	121

※¹ エンジン停止時に 500 N (51 kgf) の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	車種	基準値 [mm]
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときの ノッチ※ ² 数	ロングバン	10 ~ 16
	スーパー ロングバン	12 ~ 18

※² ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

クラッチ（マニュアル車）

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

■ クラッチフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
3.2

タイヤ

車種			タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa(kg/cm ²)						
				積載量※	前輪	後輪				
ロングバン	FR	ジャストロー	185/75R15 106/104L LT	軽積時	450 (4.50)	450 (4.50)				
				定積時	475 (4.75)	525 (5.25)				
		ジャストローを除く	スーパー GL	—	325 (3.25)	350 (3.50)				
							デラックス (3 人乗り)	軽積時	325 (3.25)	400 (4.00)
								定積時	350 (3.50)	425 (4.25)
							デラックス (3 / 6 人乗り・ 3 / 6 / 9 人乗り)	軽積時	325 (3.25)	425 (4.25)
		定積時	350 (3.50)	425 (4.25)						
		4WD	195/80R15 107/105L LT	軽積時	350 (3.50)	350 (3.50)				
	定積時			375 (3.75)	425 (4.25)					
	スーパー ロングバン			FR	軽積時	350 (3.50)	350 (3.50)			
					定積時	350 (3.50)	400 (4.00)			
		4WD	軽積時	350 (3.50)	325 (3.25)					
定積時			400 (4.00)	375 (3.75)						

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハロゲンヘッドライト装着車 (バルブタイプ: H4)	60 / 55
	ディスチャージヘッドライト装着車 ハイビーム (バルブタイプ: HB3)	60
	ロービーム (バルブタイプ: D4R)	35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト* (バルブタイプ: HB4)	51
	フロント&サイド方向指示兼非常点滅灯	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯/尾灯	21 / 5
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED *
	フロントパーソナルライト	8
	センターコンソール照明 (LED ダウンライト) *	LED *
	ルームライト	8
	スライドドアステップライト*	5
	灰皿照明	1.2

* LED は、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRH200V	1TR-FE (2.0L ガソリン)	FR (後輪駆動)
TRH200K		
TRH211K	2TR-FE (2.7L ガソリン)	4WD (4 輪駆動)
TRH221K		
TRH216K		
TRH226K		
KDH201V	1KD-FTV (3.0L ディーゼル)	FR (後輪駆動)
KDH201K		
KDH211K		
KDH221K		
KDH206V		4WD (4 輪駆動)
KDH206K		

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワースライドドア*	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 33
パワーウィンドウ		P. 89

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧..... 372

五十音順さくいん 373

症状別さくいん 384

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サブリメンタルレストレイントシステム

あ	アウターミラー（ドアミラー）..... 83
	アクセサリコンセント 254
	アップパーグローブボックス 237
	アンチロックブレーキ
	システム（ABS）..... 170
	アンテナ 230

い	イグニッションスイッチ 124
	イベントデータレコーダー
	（EDR）..... 320
	インジケーター（表示灯）..... 146
	インテリアライト（室内灯）
	スイッチ 232, 233
	ワット数 368
	インナーミラー
	（ルームミラー）..... 82

う	ウインカー（方向指示灯）
	電球の交換 286, 287
	方向指示レバー 133
	ワット数 368
	ウインドウ
	ウォッシャー 153, 156
	パワーウインドウ 88
	リヤウインドウ
	デフォッガー 206
	ウインドウロックスイッチ 88
	ウォーニングライト
	（警告灯）..... 147, 321
	ウォッシャー
	液の補給 304
	スイッチ 153, 156
	タンク容量 366
	冬の前の準備・点検 179

運転

	環境に配慮した運転 113
	寒冷時の運転 179
	正しい姿勢 97
	手順 110
	運手席小物入れ 246
	運転席シートベルト
	非着用警告灯 324

え

エアコン
オートエアコン 192
フィルターの清掃 305
マニュアルエアコン 186
リヤクーラー 199
リヤヒーター 202

エアバッグ

一般的な警告 102
SRS エアバッグ 99
SRS エアバッグの
作動条件 100
お子さまのための注意 102
改造・廃棄 104
警告灯 322
正しい姿勢 97
配置 99

ABS（アンチロックブレーキ

システム）..... 170

エコドライブ

インジケーターランプ 113

LED ダウンライト

（センターコンソール照明）

装備について 231
ワット数 368

エンジン

イグニッションスイッチ 124
エンジン回転計
（タコメーター）..... 138

エンジンがかからない.....	344
エンジン警告灯	322
エンジン スイッチ	124
オーバーヒート	351
かけ方	124
点検口	271
ボンネット	275

エンジンイモビライザーシステム (盗難防止システム)	96
-------------------------------------	----

エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	179
油圧警告灯	321
油量警告灯	323
容量	359, 360
エンジン スイッチ	124

お オイル

油脂類の容量と銘柄	358
-----------------	-----

オーディオ

アンテナ	230
MP3 / WMA ディスク	220
オーディオの種類	207
音質調整	227
CD プレーヤー	214
ラジオ	209, 212

オートエアコン	192
---------------	-----

オートマチックトランスミッション

オートマチック	
トランスミッション	128
シフトレバーが	
シフトできない	345

オートレベリングシステム

警告灯	322
作動について	150
オーバーヒート (エンジン)	351

オープナー

給油口	92
ボンネット	275
オープントレイ	247

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ	88
エアバッグに関する警告	102
エンジンカバーに関する 警告	273
お子さまのシートベルト	
着用	78
お子さまを乗せるときの 警告	35, 45
キーの電池に関する警告	303
シートの取り扱いに関する 警告	53, 64
シートベルトに関する警告	79
スライド式リヤサイドガラスに 関する警告	91
スライドドアに関する警告	35
チャイルドシートの 取り付け	105
チャイルドプロテクター	32
発炎筒の取り扱いに 関する警告	313
バックドアに関する警告	45
バッテリーに関する警告	350
パワーウインドウに 関する警告	90

オドメーター

(積算距離計)	137, 139
---------------	----------

か

カードホルダー	239, 250
ガソリンスタンドでの情報	388
カップホルダー	242

き

キー

イグニッションスイッチ	124
エンジン スイッチ	124
キーナンバープレート.....	18～21
キーの構成	18～20
キーレスエントリー	23
キーをなくした	346
作動範囲	24
電池交換	302
ワイヤレスリモコン	23
きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェア インジケーター)	116
給油口	92
緊急時の対処	
エンジンがかからない	344
オーバーヒートした	351
キーをなくした	346
警告灯がついた	321
けん引	314
故障したときは	310
シフトレバーが シフトできない	345
車両を緊急停止するには	355
スタックした	354
発炎筒	312
バックドアイジー クローザーが働かない	44
バッテリーがあがった	347
パンクした	326

<

空気圧 (タイヤ)	367
-----------------	-----

空調 (エアコン)

オートエアコン	192
パワーヒーター	204
フィルターの清掃	305
マニュアルエアコン	186
リヤクーラー	199
リヤヒーター	202

区間距離計

(トリップメーター)	137, 139
------------------	----------

曇り取り

フロントガラス	188, 195
リヤウインドウ デフォッガー	206

クリアランスソナー&

バックソナー	158
グローブボックス	237

け

警告器 (ホーン)	135
-----------------	-----

計器 (メーター)

アナログメーター	136
オプティロンメーター	138

警告灯

(ウォーニングライト)	147, 321
------------------	----------

警告灯/表示灯による警告

ABS	322
SRS エアバッグ	322
エンジン	322
クリアランスソナー	322, 324
シートベルト非着用	324
充電	321
タイミングベルト交換	322
ディスチャージヘッドライト オートレベリング	322
燃料残量	323
燃料・水分離器水位	322

排出ガス浄化装置	323
半ドア	323
フューエルフィルター	322
プリテンショナー	322
ブレーキ	321
油圧	321
油量	323
警告ブザー	
クリアランスソナー& バックソナー	322, 324
シートベルト非着用	324
ライト消し忘れ	150
リバーズ	130
化粧用（バニティ）ミラー	251
けん引	314

こ

交換	
キーの電池	302
タイヤ	333
電球	278
ヒューズ	292
工具（ツール）	328
後退灯（バックアップライト）	
電球の交換	287
ワット数	368
小物入れ	246
コンソールボックス	238
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）	148

さ

サイド方向指示灯（ウインカー）	
電球の交換	286
方向指示レバー	133
ワット数	368
サンバイザー	250

し

シート

正しい姿勢	97
チャイルドシートの固定	105
手入れ	265
フロントシートの調整	49
フロントシートの調整に 関する警告	51
ヘッドレスト	54
リヤシートの調整	52
リヤシートの調整に 関する警告	53
シートアレンジ	56
シートバックコンソール	240
シートベルト	
お子さまの着用	78
緊急時シートベルト 固定機構	78
シートベルト非着用 警告灯	324
シートベルト プリテンショナー	77
清掃・手入れ	265
正しい着用	76
チャイルドシートの固定	105
調整	77
妊娠中の方の着用	78
シガレットライター	253
室内灯（インテリアライト）	
パーソナルライト	232
ルームライト	233
ワット数	368

シフトレバー	
オートマチック	
トランスミッション.....	128
シフトレバーが	
シフトできない.....	345
マニュアルトランス	
ミッション.....	131
シフトロックシステム.....	345
車速	
(スピードメーター).....	136, 138
ジャッキ	
収納位置.....	326, 327
セット位置.....	335
取り出し方.....	329
ジャッキハンドル.....	328
車幅灯	
スイッチ.....	148
電球の交換.....	285
ワット数.....	368
車両型式.....	369
車両仕様(スペック).....	369
収納装備.....	235
手動光軸調整ダイヤル.....	149
助手席シートベルト	
非着用警告灯.....	324

す 水温計.....	136, 139
スイッチ	
アクセサリコンセント	
メイン.....	254
イグニッション.....	124
ウインドウロック.....	88
エンジン.....	124
クリアランスソナー&	
バックソナーメイン.....	158
SNOW.....	129
ドアロック.....	26
排出ガス浄化装置.....	172
ハザードライト.....	311
パワーウインドウ.....	88
パワースライドドア.....	31
パワースライドドアメイン.....	31
パワーヒーター.....	204
非常点滅灯.....	311
フロントフォグライト.....	151
ライト.....	148
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	206
リヤクーラーメイン.....	199, 200
リヤヒーターメイン.....	202
リヤフォグライト.....	152
ワイパー&	
ウォッシャー.....	153, 156
スターター	
エンジンの始動.....	124
スターターがまわらない.....	344
スタック	
スタックした.....	354
ステアリングホイール(ハンドル)	
ステアリングロックを	
解除する.....	126
調整.....	81

ストップライト（制動灯）

電球の交換 287

ワット数 368

スピードメーター

（速度計） 136, 138

スペアタイヤ

空気圧 367

収納位置 326, 327

取り出し方 331

スペック（車両仕様） 369

スライド式リヤサイドガラス 91

スライドドア

イーजीクローザー 32

操作 29

パワースライドドア 30

スライドドアステップライト

スイッチ 34

ワット数 368

せ 清掃

外装 262

シートベルト 265

内装 265

制動灯（ストップライト）

電球の交換 287

ワット数 368

積算距離計

（オドメーター） 137, 139

セパレーターバー 66

洗車 262

前照灯（ヘッドライト）

手動光軸調整ダイヤル 149

スイッチ 148

ディスチャージヘッドライトに

関する警告 291

電球の交換 280, 283

ライト消し忘れ警告ブザー 150

ライト消し忘れ防止機能 150

ライトセンサー 150

ワット数 368

センターコンソール照明

（LED ダウンライト）

装備について 231

ワット数 368

センターコンソールボックス 238

そ 速度計

（スピードメーター） 136, 138

た ターンシグナルライト（方向指示灯）

電球の交換 286, 287

方向指示レバー 133

ワット数 368

タイヤ

空気圧 367

交換 333

チェーン 179

点検 267

パンクした 326

冬用タイヤ 179

ローテーション 268

タコメーター

（エンジン回転計） 138

ち	チェーン（タイヤチェーン）.....	179
	チャイルドシート.....	105
	チャイルドプロテクター.....	32
	駐車ブレーキ （パーキングブレーキ）.....	134

つ	ツール（工具）.....	328
----------	--------------	-----

て	手入れ	
	外装.....	262
	シートベルト.....	265
	内装.....	265
	テールライト（尾灯）	
	スイッチ.....	148
	電球の交換.....	287
	ワット数.....	368
	デッキフック （荷物固定用フック）.....	258
	デフォッガー	
	フロントガラス.....	188, 195
	リヤウインドウ デフォッガー.....	206
	電球（バルブ）	
	交換.....	278
	ワット数.....	368

と	ドア	
	スライドドア.....	29
	ドアロック.....	26
	バックドア.....	41
	半ドア警告灯.....	323
	フロントドア.....	26
	ドアガラス.....	88

	ドアポケット （オープントレイ）.....	247
	ドアミラー（アウターミラー）.....	83
	盗難防止システム （エンジンイモビライザー システム）.....	96
	時計.....	141
	トランスミッション	
	オートマチック トランスミッション.....	128
	マニュアル トランスミッション.....	131
	トリップメーター （区間距離計）.....	137, 139

に	荷室の拡大.....	58, 60, 61
	荷物	
	積むときの注意.....	177
	荷室内装備.....	258

ね	燃料	
	ガソリンスタンドでの情報....	388
	給油.....	92
	種類.....	358
	燃料計.....	136, 138
	フューエルポンプ シャットオフシステム.....	319
	容量.....	358

は	パーキングブレーキ (駐車ブレーキ).....	134
	パーソナルライト	
	スイッチ.....	232
	ワット数.....	368
	灰皿.....	252
	灰皿照明	
	装備について.....	252
	ワット数.....	368
	排出ガス浄化装置.....	172
	ハイマウントストップライト	
	電球の交換.....	289
	ワット数.....	368
	ハザードライト (非常点滅灯)	
	スイッチ.....	311
	電球の交換.....	286, 287
	ワット数.....	368
	挟み込み防止機能	
	運転席ドアガラス.....	89
	パワースライドドア.....	34
	発炎筒.....	312
	バックアップライト (後退灯)	
	電球の交換.....	287
	ワット数.....	368
	バックドア	
	イージークローザー.....	43
	操作.....	41
	バッテリー	
	バッテリーあがりを 防ぐために.....	349
	バッテリーがあがった.....	347
	冬の前の準備・点検.....	179

バニティ (化粧用) ミラー.....	251
バルブ (電球)	
交換.....	278
ワット数.....	368
パワーウインドウ.....	88
パワースライドドア.....	30
パンク	
パンクした.....	326
番号灯 (ライセンスプレートライト)	
スイッチ.....	148
電球の交換.....	288
ワット数.....	368
ハンドル (ステアリングホイール)	
ステアリングロックを 解除する.....	126
調整.....	81

ひ	ヒーター	
	オートエアコン.....	192
	パワーヒーター.....	204
	マニュアルエアコン.....	186
	リヤヒーター.....	202
	非常点滅灯 (ハザードライト)	
	スイッチ.....	311
	電球の交換.....	286, 287
	ワット数.....	368
	尾灯 (テールライト)	
	スイッチ.....	148
	電球の交換.....	287
	ワット数.....	368
	ヒューズ.....	292
	表示灯 (インジケーター).....	146

ふ

フォグライト

スイッチ	151, 152
電球の交換	284, 287
ワット数	368

フック

けん引フック	314
荷物固定用フック (デッキフック)	258

フューエルポンプ

シャットオフシステム	319
------------------	-----

冬用タイヤ

フラットシート

ブレーキ

警告灯	321
パーキングブレーキ	134
メンテナンスデータ	358

ブレーキアシスト

ブレーキパッドウェア

インジケーター	116
---------------	-----

フロアマット

フロントシート

調整	49
フロントシートの調整に 関する警告	51

フロントパーソナルライト

スイッチ	232
ワット数	368

フロントフォグライト

スイッチ	151
電球の交換	284
ワット数	368

フロント&サイド方向指示灯

(ウインカー)

電球の交換	286
方向指示レバー	133
ワット数	368

へ

ヘッドライト (前照灯)

手動光軸調整ダイヤル	149
スイッチ	148
ディスチャージヘッドライトに 関する警告	291
電球の交換	280, 283
ライト消し忘れ警告ブザー	150
ライト消し忘れ防止機能	150
ライトセンサー	150
ワット数	368

ヘッドレスト

ほ

ホイール

ホイールナットレンチ

方向指示灯 (ウインカー)

電球の交換	286, 287
方向指示レバー	133
ワット数	368

ホーン (警音器)

補助ミラー

ボトルホルダー

ボンネット

ま

マニュアルエアコン

マニュアル

トランスミッション	131
-----------------	-----

み ミラー

インナーミラー	82
ドアミラー	
（アウターミラー）.....	83
パニティ（化粧用）ミラー	251
補助ミラー	86

め メーター（計器）

アナログメーター	136
オブティロンメーター	138
時計調整ボタン	141
表示切りかえボタン	140
メーター照度調整表示	140

メンテナンス

メンテナンスデータ	358
-----------------	-----

ゆ 床下収納	259
油脂類	358

ら ライセンスプレートライト（番号灯）

スイッチ	148
電球の交換	288
ワット数	368

ライト

スライドドア	
ステップライト	34
電球の交換	278
非常点滅灯	
（ハザードライト）.....	311
フロントパーソナルライト	232
フロントフォグライト	151
ヘッドライト（前照灯）.....	148
方向指示灯（ウインカー）.....	133
リヤフォグライト	152
ルームライト	233
ワット数	368

ライト消し忘れ警告ブザー	150
ライト消し忘れ防止機能	150
ライトセンサー	150

り リヤウインドウデフォグガー	206
リャクーラー	199

リヤシート

シートアレンジ	56
調整	52
リヤシートの調整に 関する警告	53

リヤヒーター	202
--------------	-----

リヤフォグライト

スイッチ	152
電球の交換	287
ワット数	368

リヤ方向指示灯（ウインカー）

電球の交換	287
方向指示レバー	133
ワット数	368

る ルームミラー

（インナーミラー）.....	82
----------------	----

ルームライト

スイッチ	233
ワット数	368

れ 冷却水

冬の前の準備・点検	179
容量	363

冷却装置

エンジンオーバーヒート	351
-------------------	-----

ろ ロアグローブボックス..... 237**ロック**

ウインドウロック 88

シフトロックシステム..... 345

スライドドア 29

チャイルドプロテクター..... 32

ドアロック 26, 27

バックドア 41

ワイヤレスリモコン 23

わ ワイパー

フロント..... 153

リヤ 156

ワイパーブレード..... 180

ワイヤレスリモコン

電池交換..... 302

リモコン 23

輪止め 328, 340

タイヤがパンクした	P. 326	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 344	エンジンがかからないときは
	P. 96	エンジンイモビライザーシステム
	P. 347	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない (オートマチック車)	P. 345	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 351	オーバーヒートしたときは
エンジンルーム・ボンネットから蒸気が立ちのぼった		
キーをなくした	P. 346	キーをなくしたときは
バッテリーがあがった	P. 347	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない (ワイヤレスドアロック装着車)	P. 23 P. 26	ドア
パワースライドドア* が作動しない	P. 33	スライドドア
バックドアが開かない (バック ドアイージークローザー装着車)	P. 44	バックドア

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

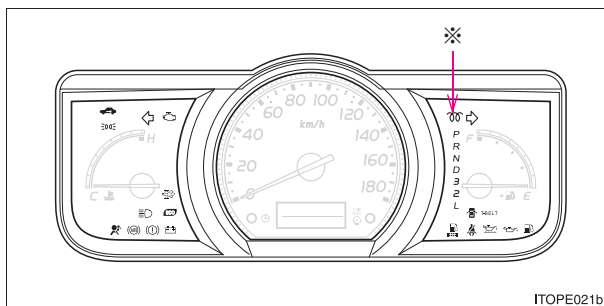
ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 354 スタックしたときは

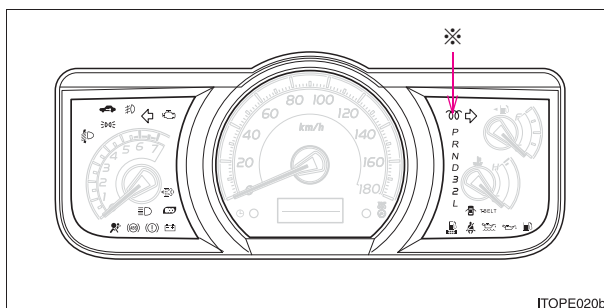
警告灯が点灯・点滅した

P. 321 警告灯がついたときは

▶ アナログメーター



▶ オプティロンメーター



※ 1TR-FE エンジン搭載で寒冷地仕様のオートマチック車は **SNOW** (SNOW 表示灯) になります。

■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 P. 321		クリアランスセンサー表示灯 (点滅：パターン1) P. 322
	充電警告灯 P. 321		排出ガス浄化装置 警告灯 P. 323
	油圧警告灯 P. 321		油量警告灯 P. 323
	エンジン警告灯 P. 322		半ドア警告灯 P. 323
	SRSエアバッグ/プリテン ショナー警告灯 P. 322		燃料残量警告灯 P. 323
	ABS 警告灯 P. 322		クリアランスセンサー表示灯 (点滅：パターン2) P. 324
T-BELT	タイミングベルト 交換警告灯 P. 322		運転席シートベルト非着用 警告灯 P. 324
	ディスチャージヘッドライトオー トレベリング警告灯 P. 322	PASSENGER 	助手席シートベルト非着用 警告灯※ ¹ P. 324
	フューエルフィルター／燃料・水 分離器水位警告灯 P. 322	PASSENGER 	助手席シートベルト非着用 警告灯※ ² P. 324

※¹ マニュアルエアコン装着車

※² オートエアコン装着車

警告音が鳴った

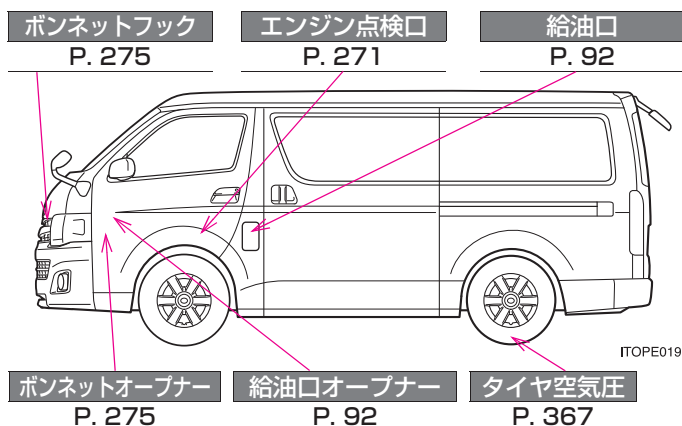
■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。(→P. 321)

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 126 P. 150
走行中	シフトレバーをRにしたとき (オートマチック車)	P. 130
	ブレーキペダルを踏んだとき	P. 116

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	70L
燃料の種類	▶ ガソリン車 無鉛レギュラーガソリン P. 93, 358 ▶ ディーゼル車 超低硫黄軽油 (S10ppm 以下) P. 93, 358
タイヤが冷えているときの空気圧	インストルメントパネル横 (運転席側) に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。(→P. 268)
エンジンオイル容量 (参考値)	▶ オイルのみ交換時 ・ガソリン車: 5.0L ・ディーゼル車 (2WD): 6.6L ・ディーゼル車 (4WD): 6.8L ▶ オイルとフィルター交換時 ・ガソリン車: 5.5L ・ディーゼル車 (2WD): 6.8L ・ディーゼル車 (4WD): 7.0L
エンジンオイルの種類	▶ ガソリン車 トヨタ純正モーターオイル ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30) ▶ ディーゼル車 トヨタ純正ディーゼルオイル ・ DL-1 (JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 (JASO DL-1, SAE 5W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 26773

01999-26773

NAI-2010年11月 3 日

2010年 7 月26日 初版

2010年11月10日 2 版

レジスエース